

令和元年度北九州市高齢者等実態調査  
報告書

令和2年3月

北九州市保健福祉局



# 目次

第1章 調査の概要	1
第2章 調査対象の基本属性	3
1. 基本事項	3
2. 同居人	5
3. 住居	6
第3章 共通設問の調査結果	7
1. 健康・医療	7
2. 介護予防	12
3. 生きがい・社会参加	20
4. 就労	24
5. ITリテラシー	27
6. 地域との関わり・支援の状況	29
7. 終活	31
8. 認知症	32
9. 虐待・権利擁護	37
10. 地域包括支援センター	41
11. 介護保険制度	42
12. 保健・福祉サービスの利用意向	45
13. 介護保険の負担に対する考え方	51
14. 生活環境	52
15. 暮らし向き	55
16. 高齢者	57
17. 高齢者福祉施策	59
18. 子育てと介護（ダブルケア）	63
第4章 在宅高齢者の介護者	67
1. 主な介護者	67
2. 介護の状況	72
3. 高齢者の虐待	76
第5章 施設入居者の状況	78
1. 施設サービスの利用状況	78
2. 家族の状況	81
3. 暮らし向き	83
4. 施設での生活全体の印象	83



---

## 第1章 調査の概要

### 1. 調査の目的

北九州市に在住する高齢者等の保健福祉に関するニーズ、意識及び実態を把握することで今後の高齢者社会対策を進めるうえでの基礎資料を得ることを目的に実施した。

### 2. 調査対象者

(1) 一般高齢者 \* 『一般高齢者』『一般』と表記

令和元年9月1日現在、北九州市在住の高齢者（65歳以上）の中から無作為に抽出した3,000人

\*ただし、要支援・要介護認定を受けている人を除く

(2) 在宅（要支援・要介護）高齢者 \* 『在宅高齢者』『在宅』と表記

令和元年9月1日現在、北九州市在住で、介護保険の要支援・要介護の認定を受けている在宅高齢者（65歳以上）の中から、無作為に抽出した3,600人

(3) 施設入所高齢者 \* 『施設入所者』『施設』と表記

令和元年7月1日現在、北九州市内の介護保険施設に入所する施設入所者の中から無作為に抽出した600人

(4) 若年者 \* 『若年者』『若年』と表記

令和元年9月1日現在、北九州市在住の40歳～64歳の市民から無作為に抽出した3,000人

### 3. 調査方法

郵送による配布回収

### 4. 調査実施期間

令和元年11月22日～令和元年12月20日

### 5. 回収状況

(1) 一般高齢者3,000通発送、1,894通の回答（有効回答率63.1%）

(2) 在宅高齢者3,600通発送、1,579通の回答（有効回答率43.9%）

(3) 施設入所者600通発送、327件の回答（有効回答率54.5%）

541件の回答があったが、このうち214件については調査不能である

(4) 若年者3,000通発送、1,243通の回答（有効回答率41.4%）

### 6. 調査・集計・分析機関

【調査主体】北九州市保健福祉局長寿社会対策課

【集計分析】株式会社サーベイリサーチセンター

### 7. 集計分析上の注意事項

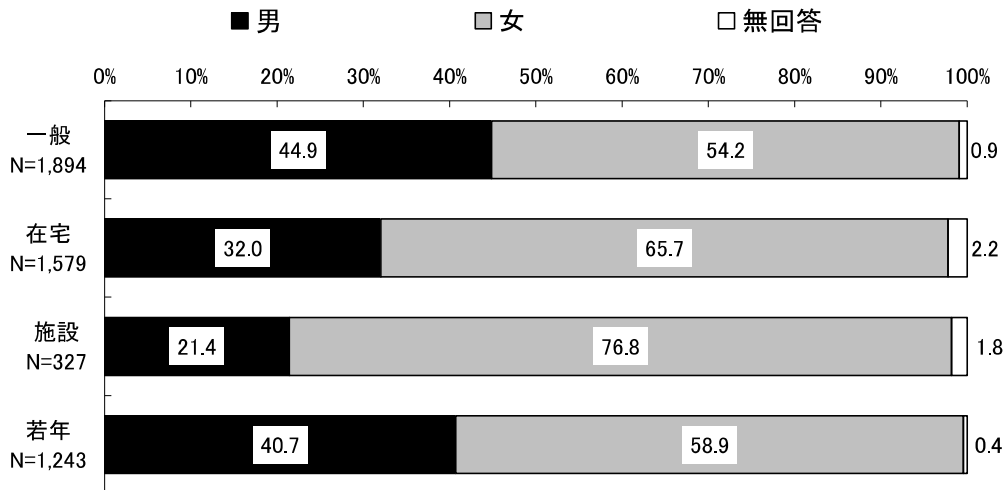
- ・ 図表においては、回答者の数を「N」で表記した。
- ・ 比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・ 複数回答の設問については、合計は原則として100%を超える。
- ・ クロス集計の表側の項目については無回答があるため、回答者数の内訳の合計が全体の回答者数に一致しない場合がある。

## 第2章 調査対象の基本属性

### 1. 基本事項

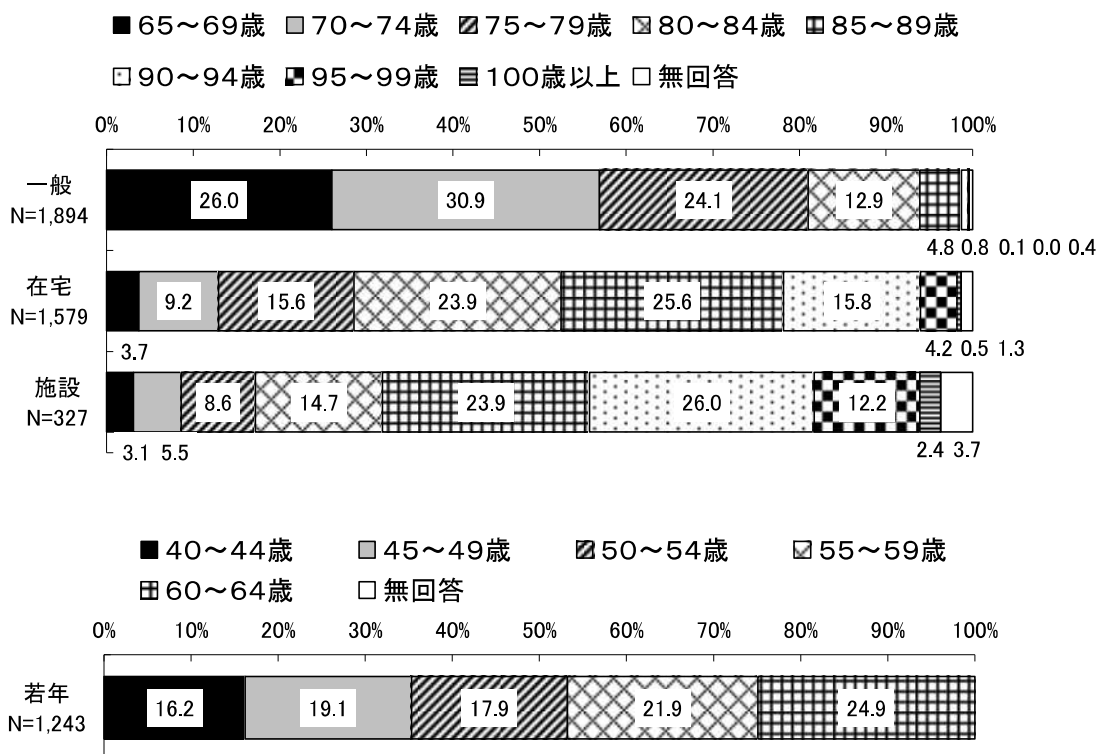
#### (1) 性別

回答者の性別をみると、いずれの調査も女性の割合が高く、施設入所者では76.8%が女性である。

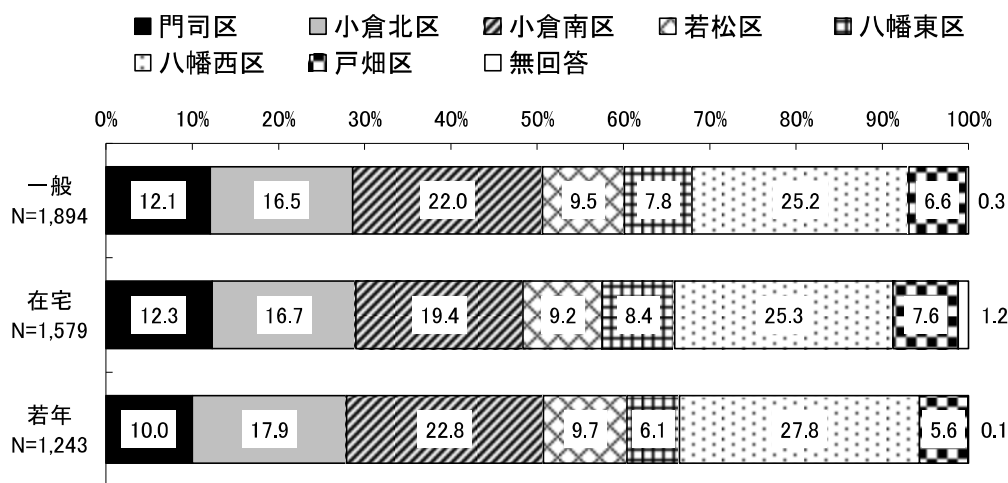


#### (2) 年齢

回答者の年齢をみると、一般高齢者では65～74歳が56.9%であるが、在宅高齢者では12.9%、施設入所者では8.6%と低い。若年者に関しては、60～64歳の割合が最も高い。

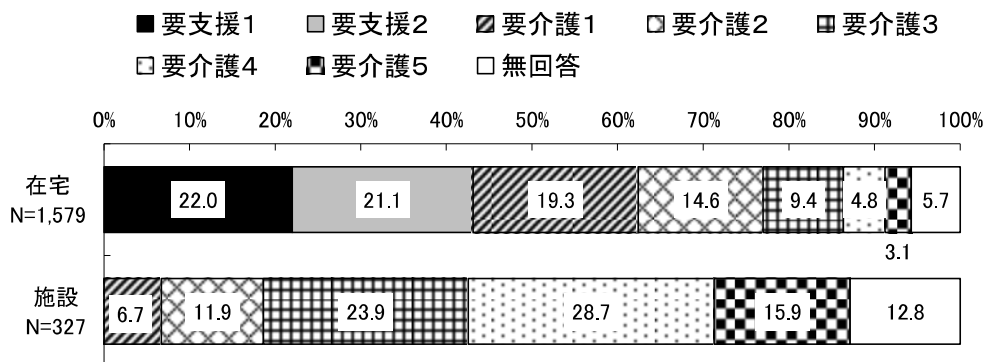


(3) 住所区



(4) 要介護度

要介護度についてみると、在宅高齢者で「要支援1」が22.0%で最も多く、次いで「要支援2」が21.1%、「要介護1」が19.3%、「要介護2」が14.6%の順となっている。施設入所者では、「要介護4」が28.7%で最も多く、次いで「要介護3」が23.9%、「要介護5」が15.9%、「要介護2」が11.9%、「要介護1」が6.7%の順となっている。



\* 要介護度

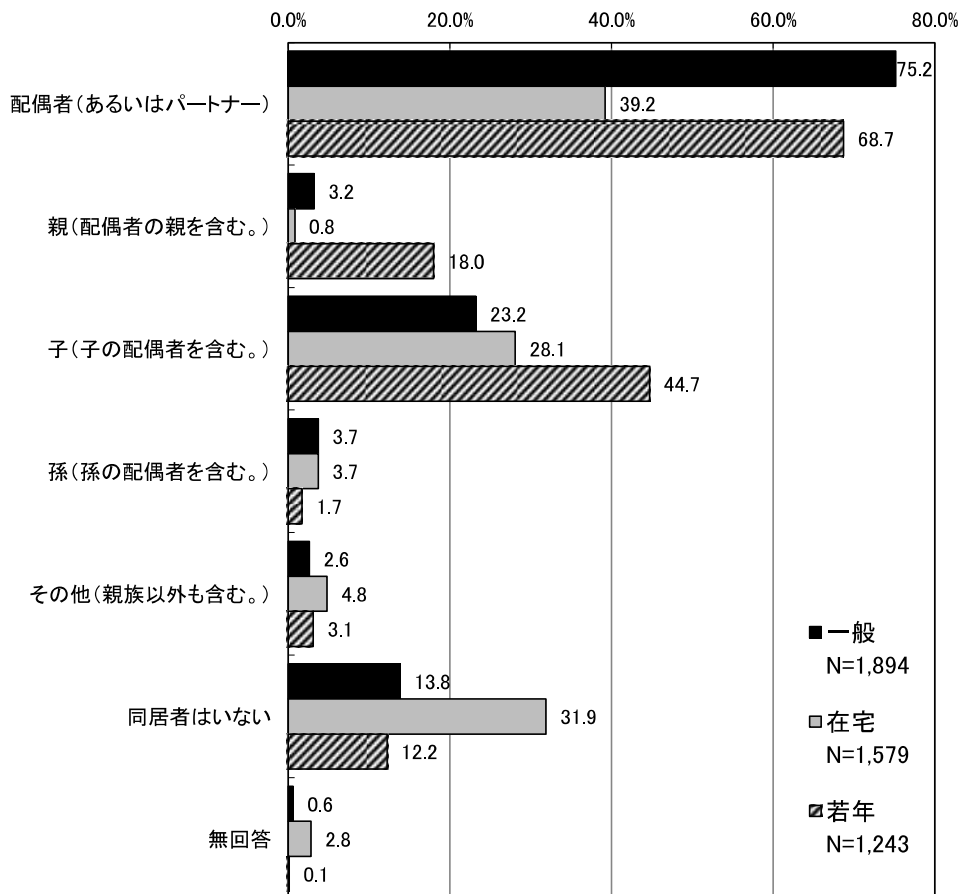
区分	身体の状態
要支援1	社会的支援を部分的に必要とする状態
要支援2	重い認知症などがなく、心身の状態も安定しており、社会的支援を必要とする状態
要介護1	心身の状態が安定していないか、認知症などにより部分的な介護を必要とする状態
要介護2	軽度の介護を必要とする状態
要介護3	中度の介護を必要とする状態
要介護4	重度の介護を必要とする状態
要介護5	最重度の介護を必要とする状態



2. 同居人

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

同居人については、一般高齢者では、「配偶者」が75.2%で最も多く、次いで「子」が23.2%となっている。在宅高齢者では、「配偶者」が39.2%、「同居者はいない」が31.9%となっている。若年者では、「配偶者」が68.7%、「子」が44.7%となっている。



3. 住居

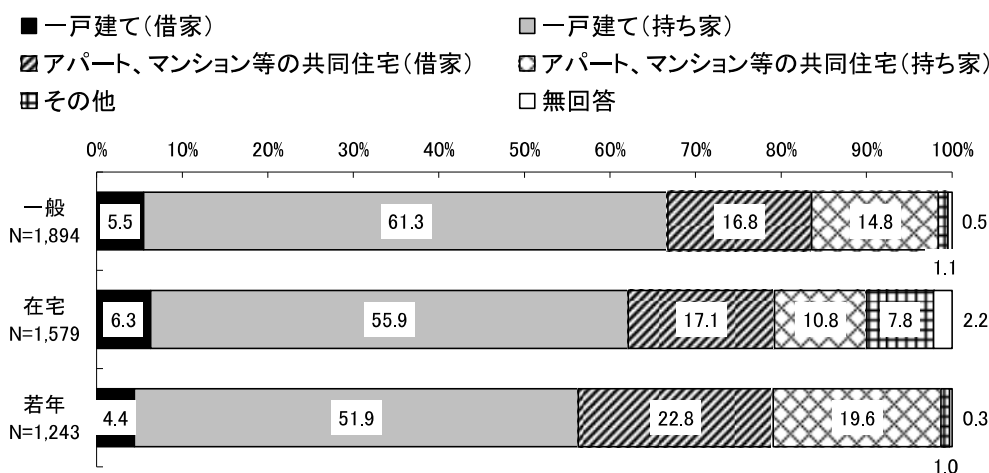
(1) 住居の形態

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

一般高齢者では「一戸建て（持ち家）」が61.3%と最も多い。「アパート、マンション等の共同住宅」は借家・持ち家あわせて31.6%となっている。

在宅高齢者では、「一戸建て（持ち家）」が55.9%と最も多い。「アパート、マンション等の共同住宅」は借家・持ち家あわせて27.9%となっている。

若年者では「一戸建て（持ち家）」が51.9%と最も多い。「アパート、マンション等の共同住宅」は借家・持ち家あわせて42.4%となっている。

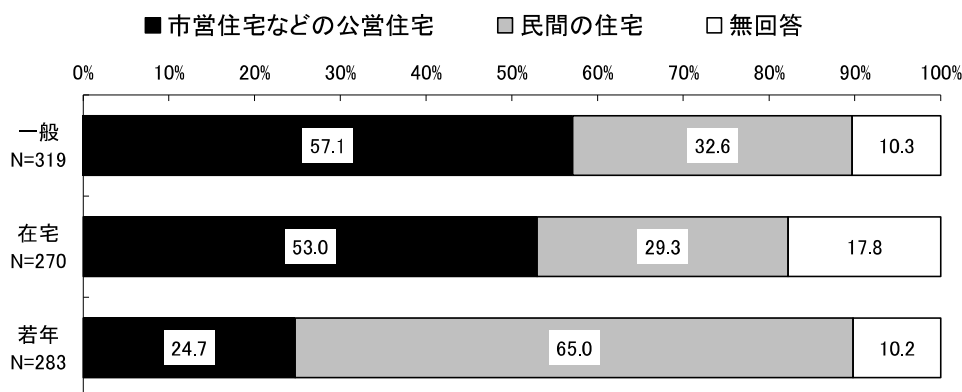


(1) -1 共同住宅（借家）の種類

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

アパート、マンション等の共同住宅（借家）に住んでいる人に対し、共同住宅が公営住宅か民間の住宅かを尋ねたところ、一般高齢者では、「市営住宅などの公営住宅」が57.1%、「民間の住宅」が32.6%となっている。

在宅高齢者では、「市営住宅などの公営住宅」が53.0%、「民間の住宅」が29.3%となっている。  
若年者では、「民間の住宅」が65.0%、「市営住宅などの公営住宅」が24.7%となっている。



## 第3章 共通設問の調査結果

### 1. 健康・医療

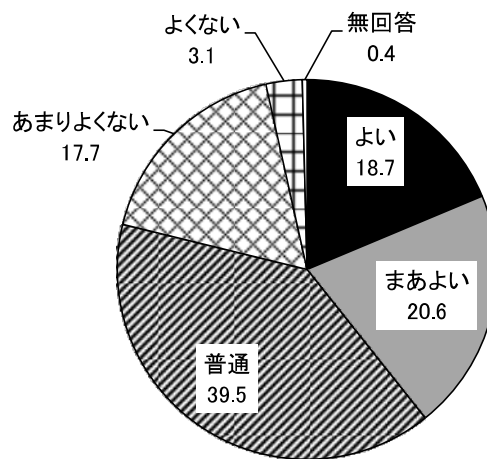
#### (1) 健康状態

対象：『一般高齢者』、『若年者』

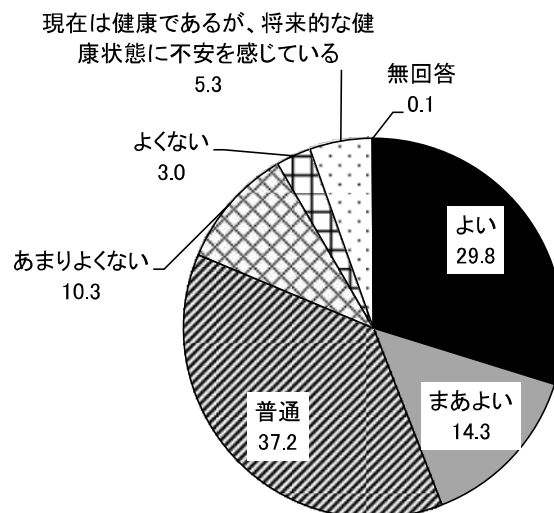
健康状態については、一般高齢者では、「普通」が39.5%と最も多い。次いで「まあよい」が20.6%、「よい」が18.7%となっている。普通以上と感じている人の割合（「よい」、「まあよい」、「普通」の合計）は、78.8%となっている。

若年者では、一般高齢者と選択肢の数が異なるが、「普通」が37.2%と最も多い。次いで「よい」が29.8%、「まあよい」が14.3%、「あまりよくない」10.3%、「現在は健康であるが、将来的な健康状態に不安を感じている」が5.3%となっている。

**一般高齢者**  
N=1,894



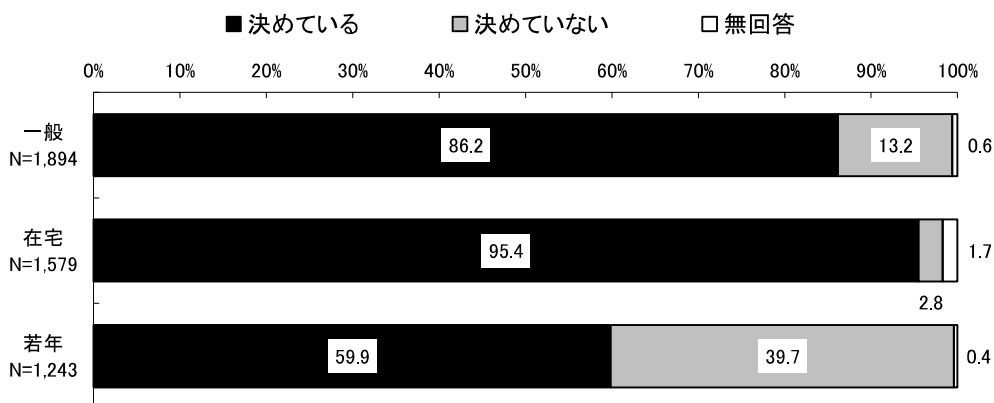
**若年者**  
N=1,243



(2) かかりつけ医

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

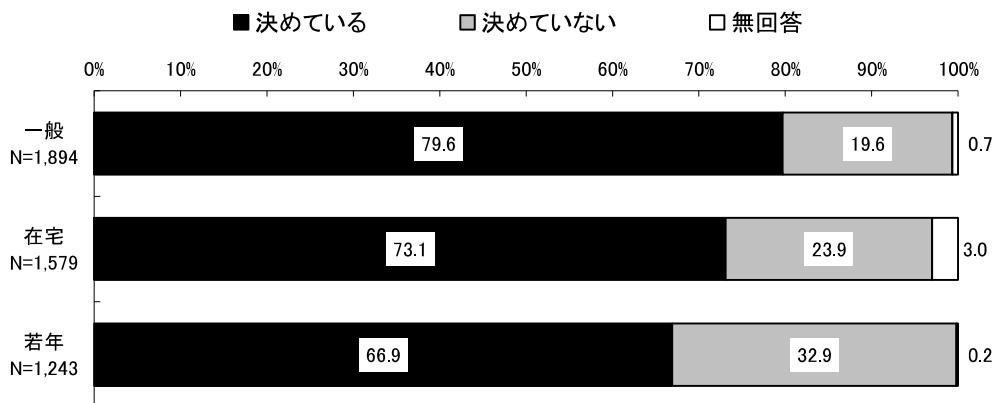
かかりつけ医を「決めている」人の割合は、一般高齢者で86.2%、在宅高齢者で95.4%といずれも8割を超えている。一方、若年者では、かかりつけ医を「決めている」人は59.9%と6割弱にとどまっている。



(3) かかりつけ歯科医

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

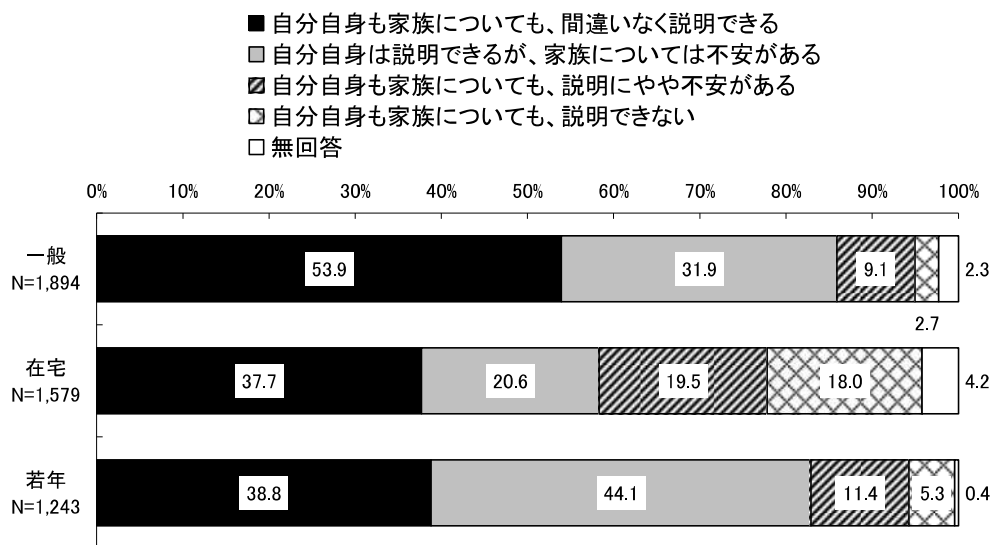
かかりつけ歯科医を「決めている」人は、一般高齢者で79.6%、在宅高齢者で73.1%、若年者、66.9%となっている。



(4) 自身や家族の「病気の名前」、「薬の情報」、「医療・介護情報」を説明できるか  
 対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

救急搬送の際や入院した際、新しく病院にかかった際に、「病気の名前」、「薬の情報」、「医療・介護情報」を説明できるかについては、一般高齢者、在宅高齢者では「自分自身も家族についても、間違いなく説明できる」が最も多く、一般高齢者で53.9%、在宅高齢者で37.7%となっている。

一方、若年者では、「自分自身は説明できるが、家族については不安がある」が最も多く、44.1%となっている。

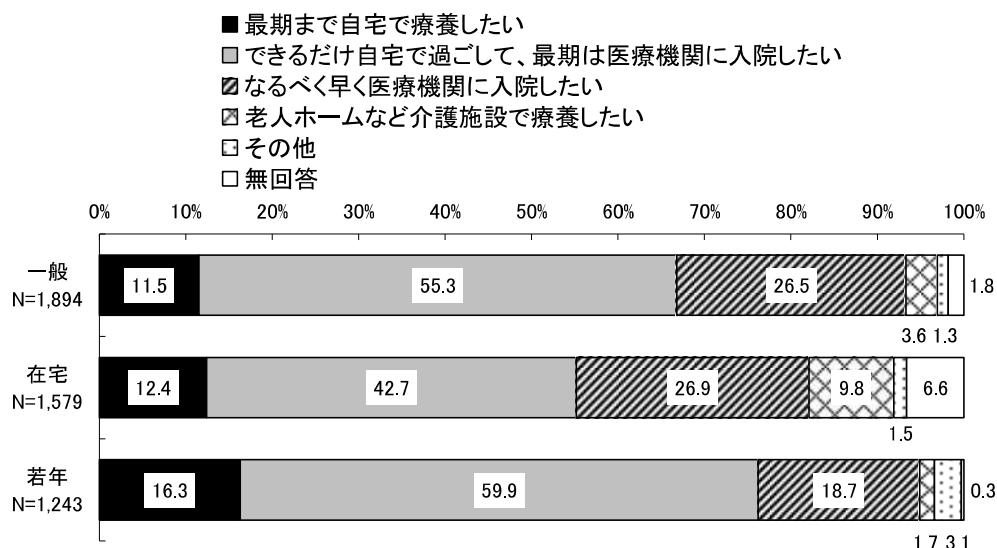


(5) 余命6か月と告げられた場合の治療

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

余命6か月と告げられた場合の治療のあり方については、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれも「できるだけ自宅で過ごして、最期は医療機関に入院したい」が最も多く、一般高齢者で55.3%、在宅高齢者で42.7%、若年者で59.9%となっている。

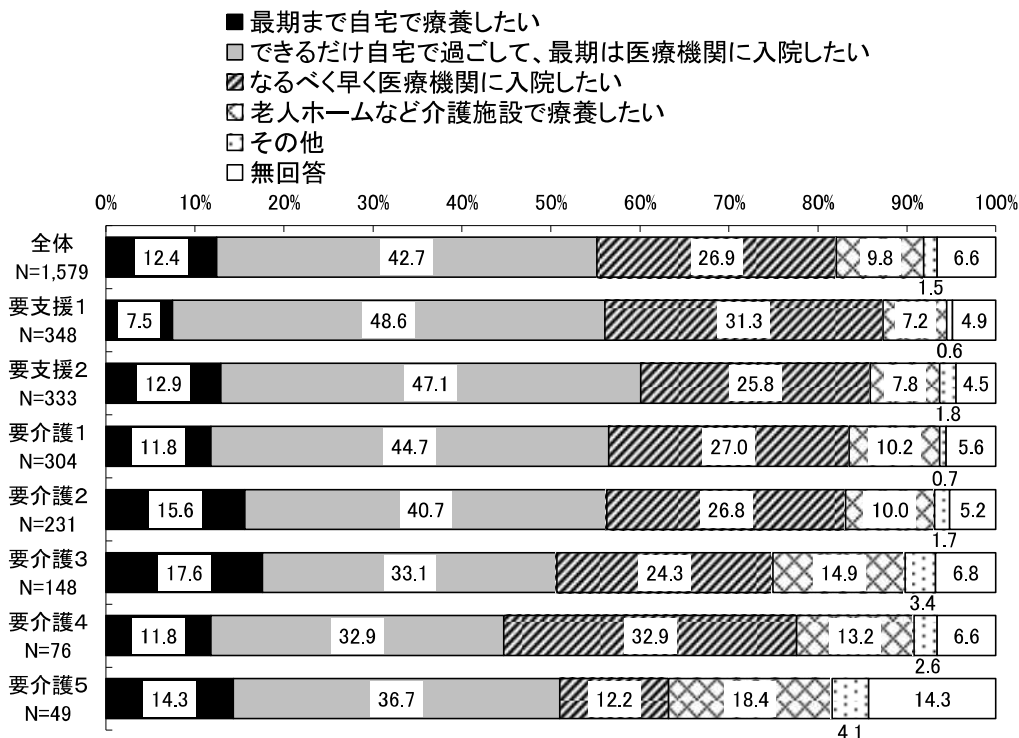
2番目に多い回答は、いずれも「なるべく早く医療機関に入院したい」であった。



【属性別特徴】

在宅高齢者について要介護度別にみると、いずれも「できるだけ自宅で過ごして、最期は医療機関に入院したい」が最も多い。要介護4については、同率で「なるべく早く医療機関に入院したい」も多くなっている。

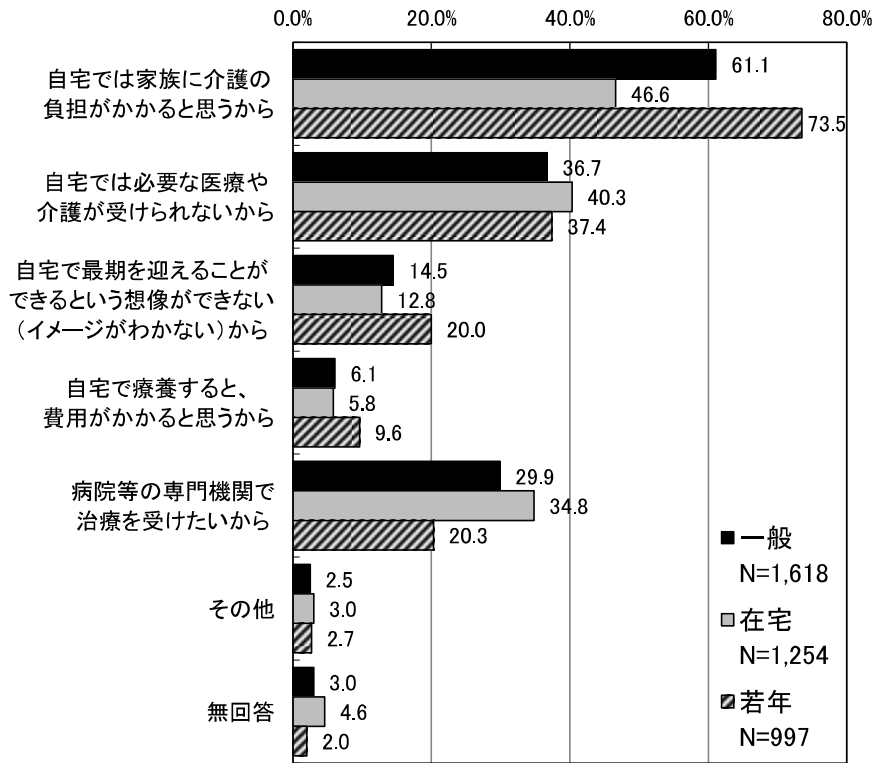
在宅高齢者（要介護度別）



(5) - 1 自宅以外の選択理由

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

自宅以外を選択した人に対し、その理由を尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれも「自宅では家族に介護の負担がかかると思うから」の割合が最も多く、次いで「自宅では必要な医療や介護が受けられないから」「病院等の専門機関で治療を受けたいから」の順となっている。



【属性別特徴】

在宅高齢者について要介護度別にみると、要支援1～要介護3については、「自宅では家族に介護の負担がかかると思うから」の割合が最も多くなっている。一方で、要介護4、要介護5では「自宅では必要な医療や介護が受けられないから」の割合が最も多くなっている。

在宅高齢者（要介護度別）

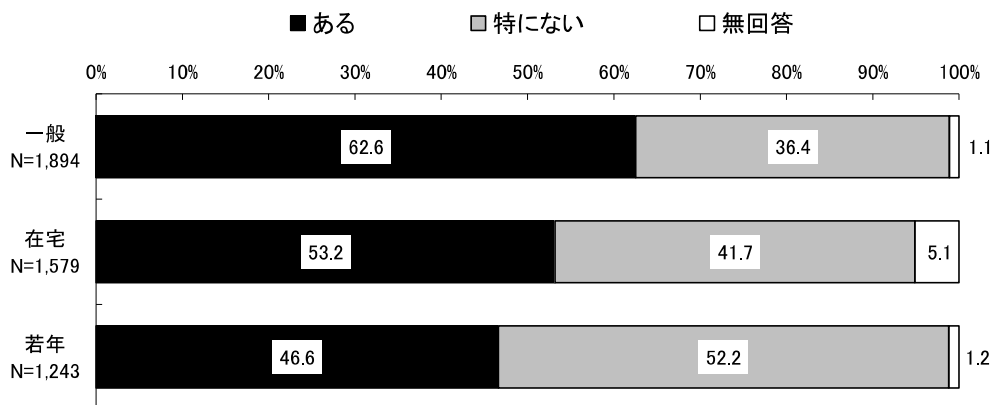
	合計	自宅では家族に介護の負担がかかると思うから (%)	自宅では必要な医療や介護が受けられないから (%)	自宅で最期を迎えることができないという想像ができない (イメージがわからない) から (%)	自宅で療養すると、費用がかかると思うから (%)	病院等の専門機関で治療を受けたいから (%)	その他 (%)	無回答 (%)	
全体	1254	46.6%	40.3%	12.8%	5.8%	34.8%	3.0%	4.6%	
要介護度	要支援1	303	46.2%	41.6%	14.9%	5.0%	37.3%	2.6%	5.9%
	要支援2	269	47.2%	34.6%	10.8%	4.1%	36.4%	4.1%	5.2%
	要介護1	249	49.4%	39.8%	14.5%	6.8%	34.1%	3.2%	3.2%
	要介護2	179	45.3%	44.7%	12.8%	6.7%	36.3%	2.2%	2.8%
	要介護3	107	43.0%	39.3%	8.4%	5.6%	31.8%	1.9%	4.7%
	要介護4	60	53.3%	55.0%	11.7%	8.3%	38.3%	0.0%	6.7%
	要介護5	33	45.5%	48.5%	9.1%	12.1%	15.2%	6.1%	3.0%

2. 介護予防

(1) 介護予防（フレイル予防）の取り組み状況

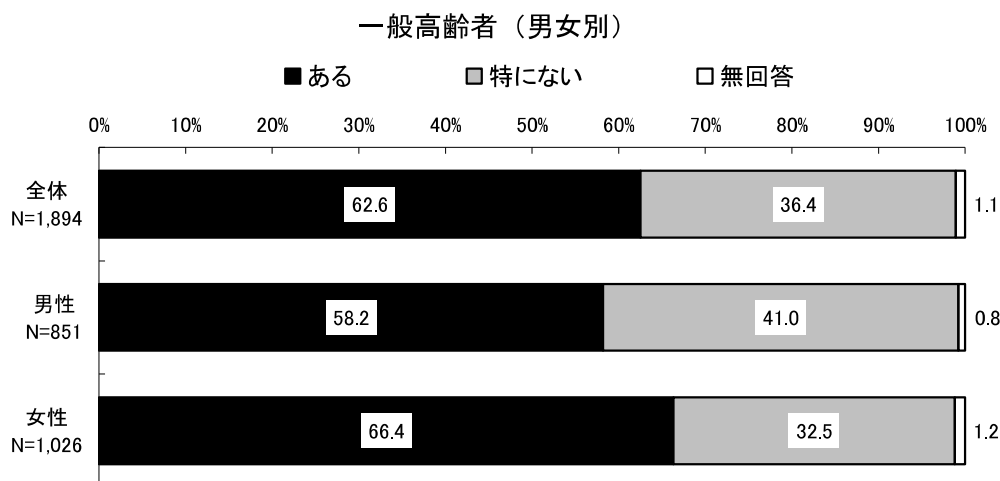
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

健康づくりや介護予防（フレイル予防）のために、日ごろから取り組んでいることがあるかどうか尋ねたところ、「ある」の割合は一般高齢者で62.6%、在宅高齢者で53.2%、若年者で46.6%となっている。



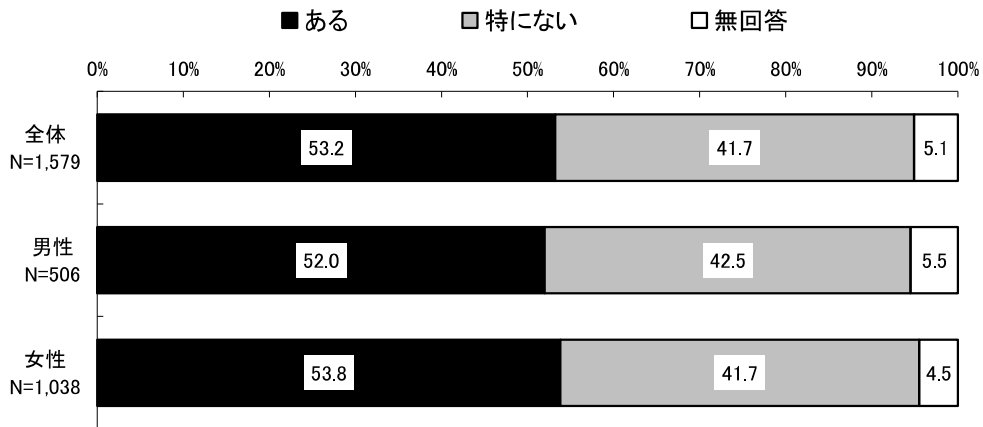
【属性別特徴】

男女別にみると、一般高齢者、在宅高齢者、若年者いずれも「ある」の割合は女性の方が男性に比べやや高くなっている。

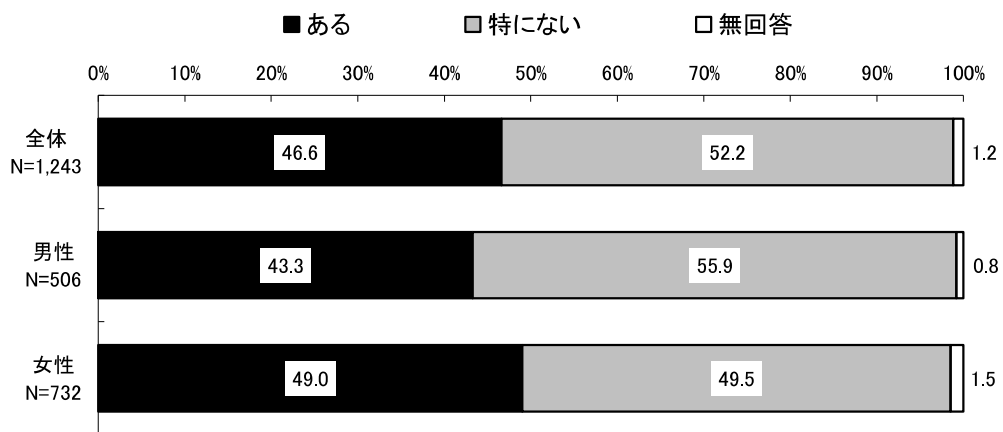




在宅高齢者（男女別）



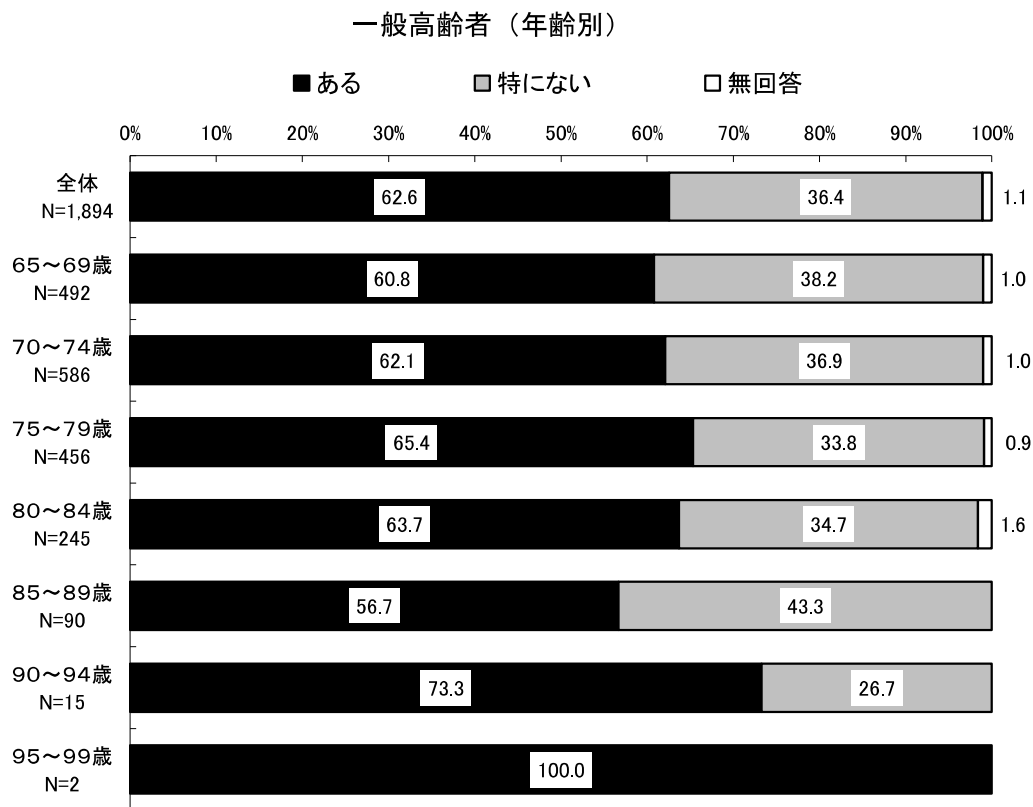
若年者（男女別）



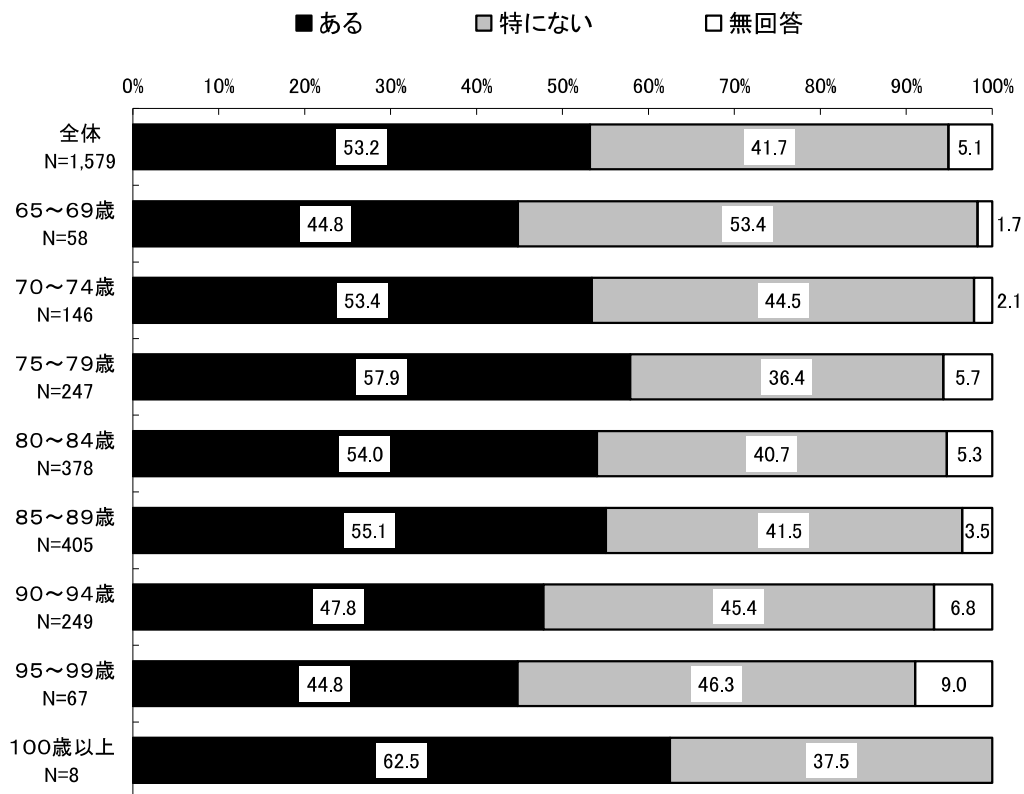
### 第3章 共通設問の調査結果

年齢別にみると、一般高齢者と在宅高齢者いずれも「ある」の割合は75～79歳で高い傾向にある。

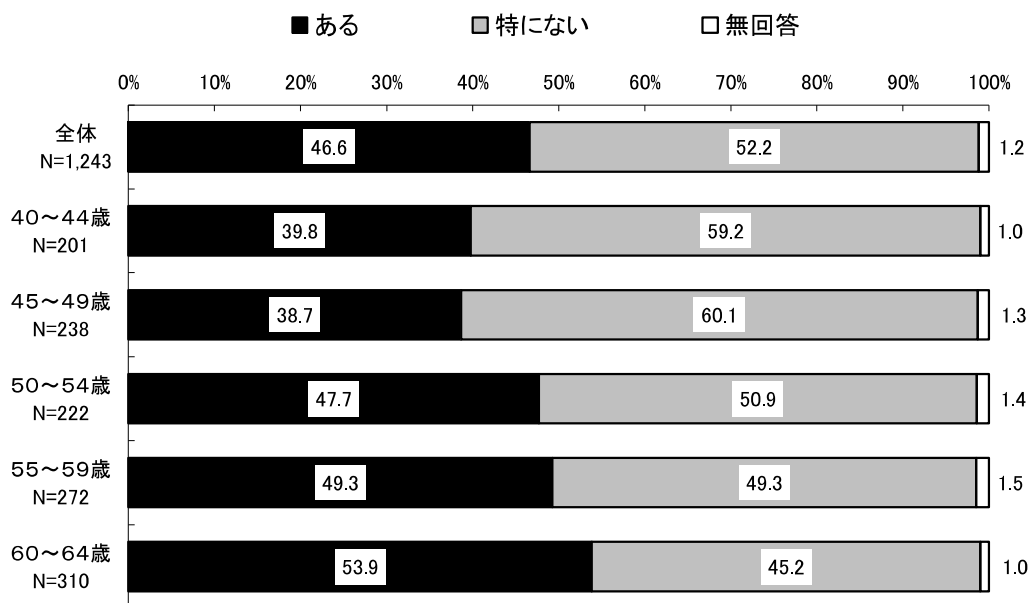
一方、若年者では年齢が高くなるにつれて、おおむね「ある」の割合が多くなっている。



在宅高齢者（年齢別）



若年者（年齢別）



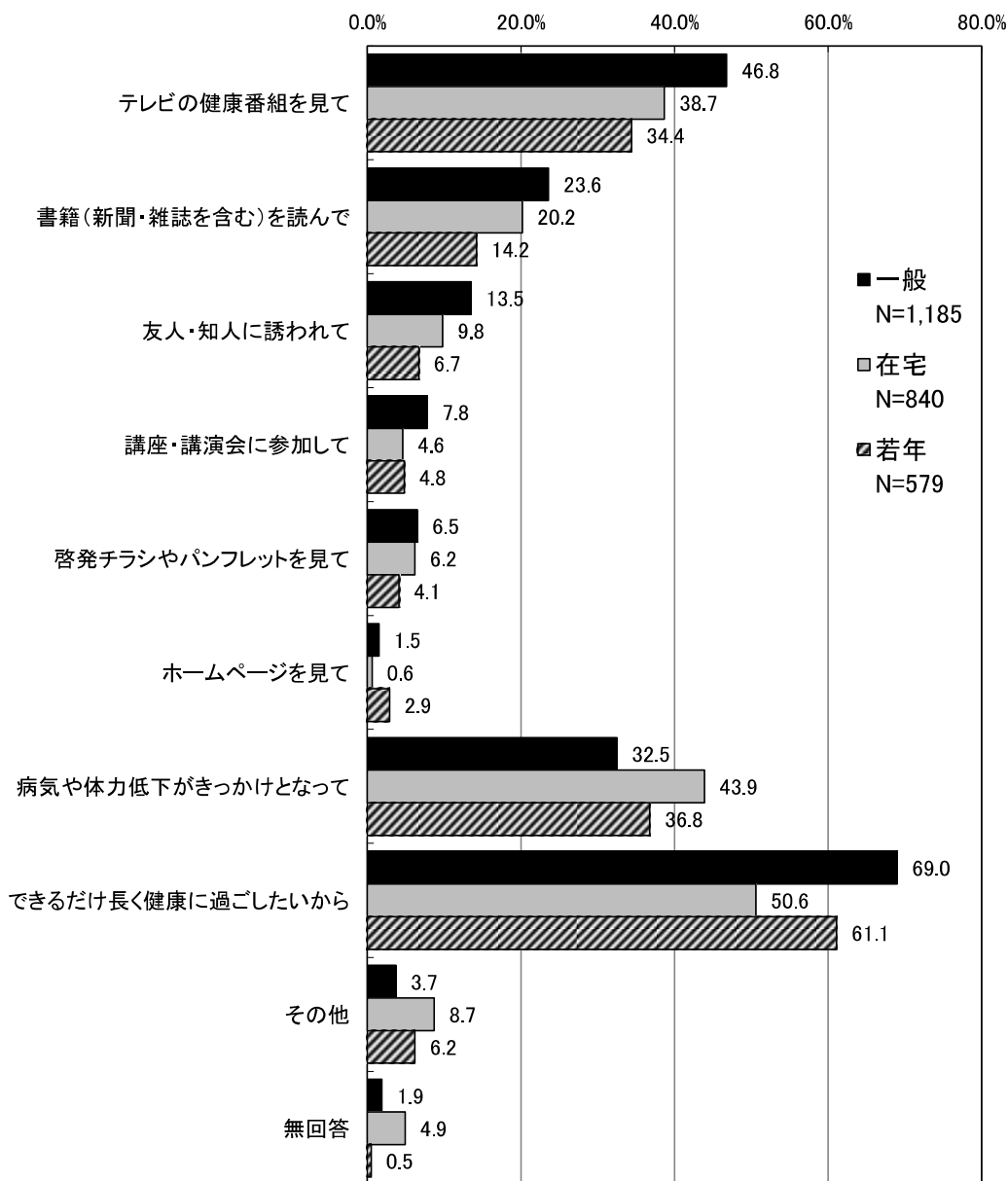
(1) - 1 介護予防（フレイル予防）に取り組んだきっかけ

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

介護予防（フレイル予防）に日ごろから取り組んでいることが「ある」と回答した人に対し、取り組んだきっかけを尋ねたところ、一般高齢者では、「できるだけ長く健康に過ごしたいから」が69.0%で最も多く、次いで「テレビの健康番組を見て」が46.8%、「病気や体力低下がきっかけとなって」が32.5%の順となっている。

在宅高齢者では、「できるだけ長く健康に過ごしたいから」が50.6%で最も多く、次いで「病気や体力低下がきっかけとなって」が43.9%、「テレビの健康番組を見て」が38.7%の順となっている。

若年者では、「できるだけ長く健康に過ごしたいから」が61.1%で最も多く、次いで「病気や体力低下がきっかけとなって」が36.8%、「テレビの健康番組を見て」が34.4%の順となっている。



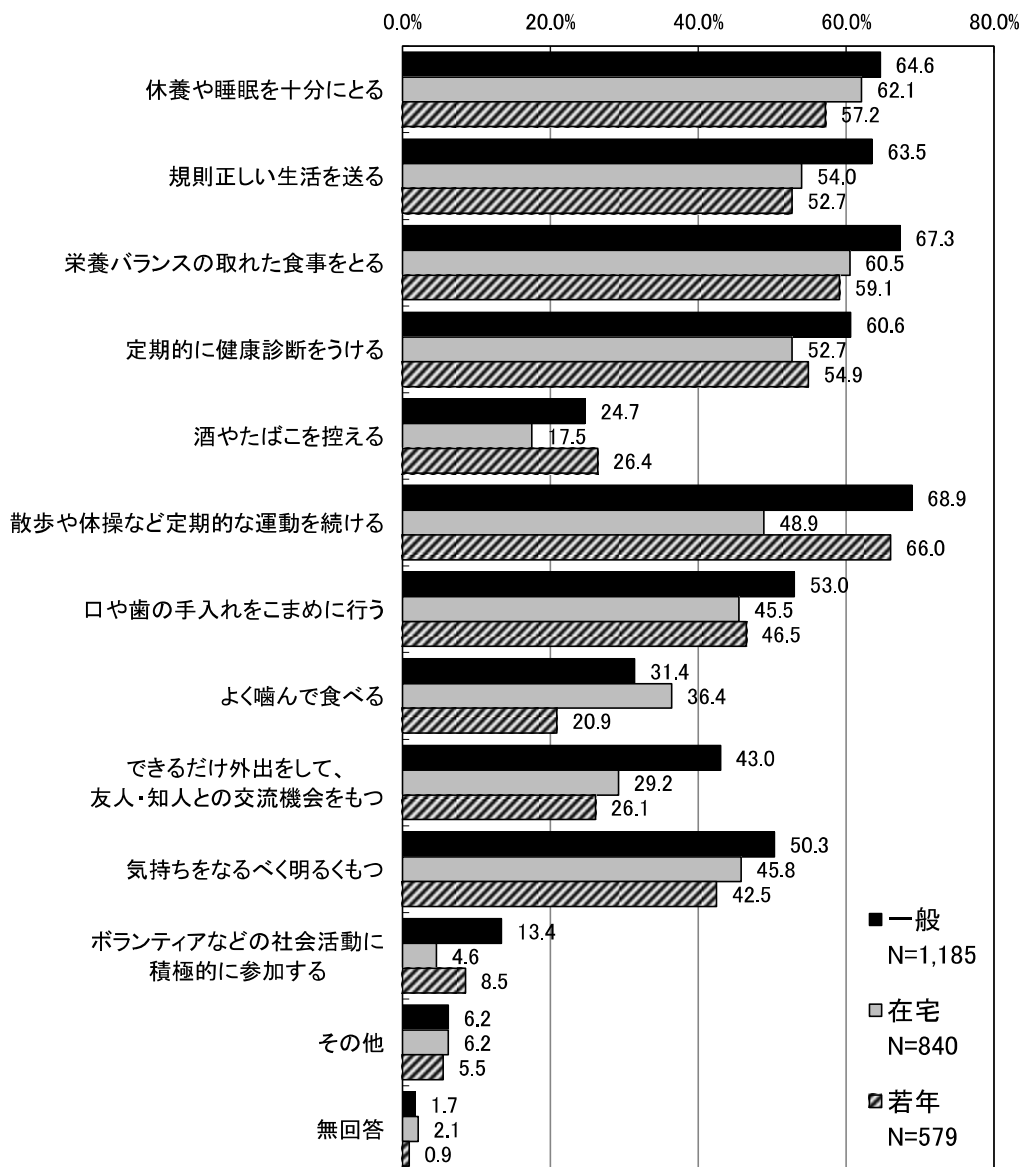
(1) - 2 介護予防（フレイル予防）に取り組み内容

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

介護予防（フレイル予防）に日ごろから取り組んでいることが「ある」と回答した人に対し、その内容を尋ねたところ、一般高齢者では、「散歩や体操など定期的な運動を続ける」が68.9%で最も多く、次いで「栄養バランスの取れた食事をとる」が67.3%、「休養や睡眠を十分にとる」が64.6%の順となっている。

在宅高齢者では、「休養や睡眠を十分にとる」が62.1%で最も多く、次いで「栄養バランスの取れた食事をとる」が60.5%、「規則正しい生活を送る」が54.0%の順となっている。

若年者では、「散歩や体操など定期的な運動を続ける」が66.0%で最も多く、次いで「栄養バランスの取れた食事をとる」が59.1%、「休養や睡眠を十分にとる」が57.2%の順となっている。



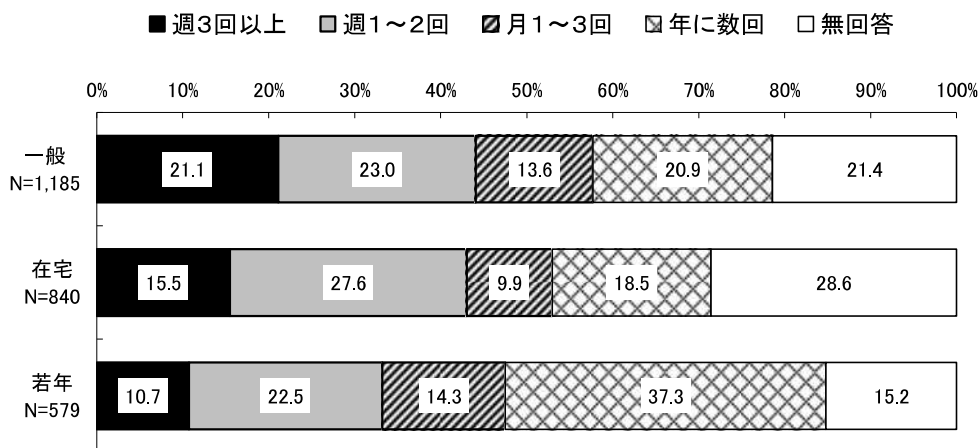
(1) - 3 「通いの場」への参加頻度

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

介護予防（フレイル予防）に日ごろから取り組んでいることが「ある」と回答した人に対し、「通いの場」への参加頻度を尋ねたところ、一般高齢者では、「週1～2回」が23.0%で最も多く、次いで「週3回以上」が21.1%となっている。

在宅高齢者では、「週1～2回」が27.6%で最も多く、次いで「年に数回」が18.5%となっている。

若年者では、「年に数回」が37.3%で最も多く、次いで「週1～2回」が22.5%となっている。



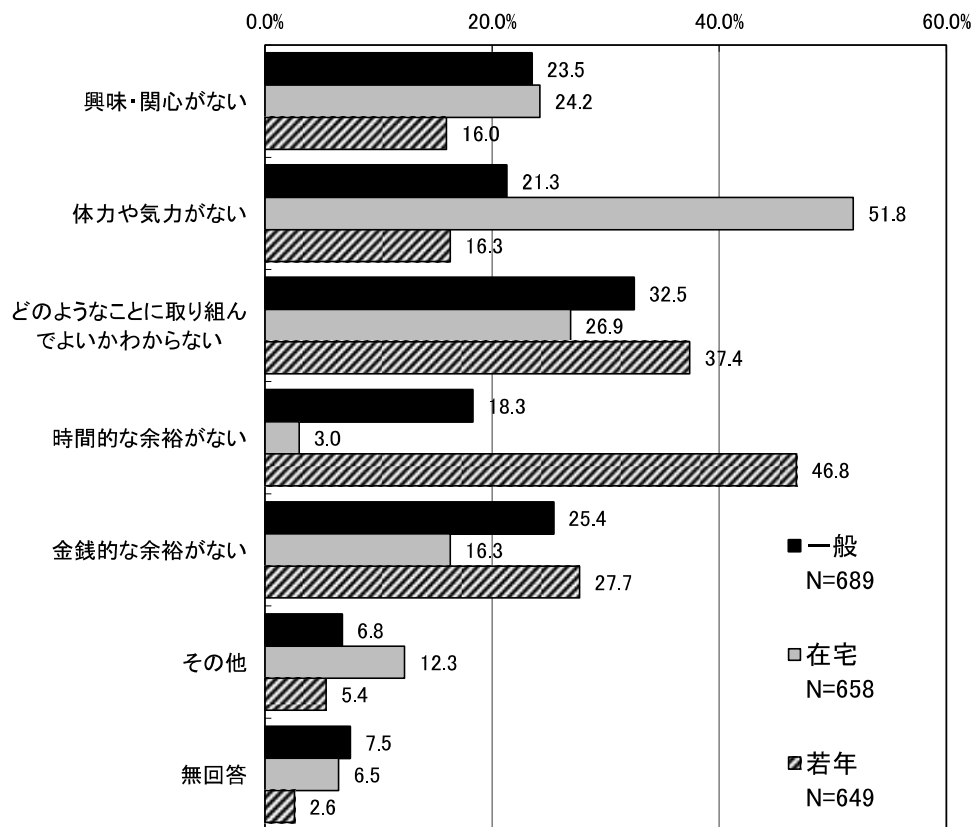
(1) - 4 介護予防（フレイル予防）に取り組まない理由

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

介護予防（フレイル予防）に日ごろから取り組んでいることが「特にない」と回答した人に理由を尋ねたところ、一般高齢者では、「どのようなことに取り組んでよいかわからない」が32.5%で最も多く、次いで「金銭的な余裕がない」が25.4%、「興味・関心がない」が23.5%の順となっている。

在宅高齢者では、「体力や気力がない」が51.8%で最も多く、次いで「どのようなことに取り組んでよいかわからない」が26.9%、「興味・関心がない」が24.2%の順となっている。

若年者では、「時間的な余裕がない」が46.8%で最も多く、次いで「どのようなことに取り組んでよいかわからない」が37.4%、「金銭的な余裕がない」が27.7%の順となっている。

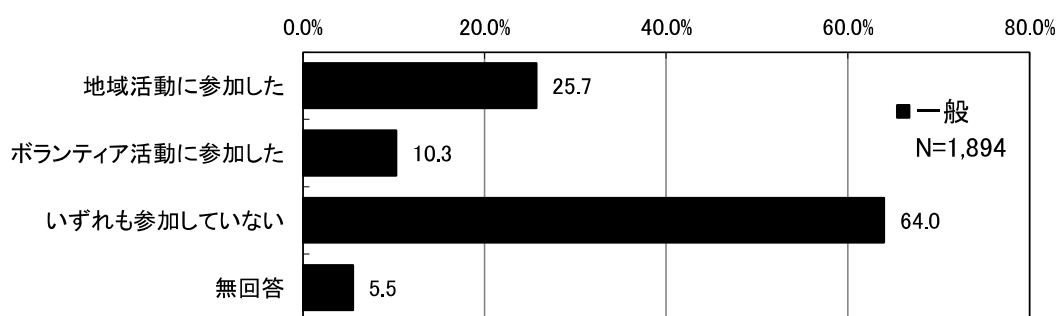


3. 生きがい・社会参加

(1) 地域活動の状況

対象：『一般高齢者』

この1年間に、自治会やまちづくり協議会、老人クラブなどの地域活動に参加したかどうかを尋ねたところ、「地域活動に参加した」人が25.7%、「ボランティア活動に参加した」人が10.3%、「いずれも参加していない」人が64.0%であった。



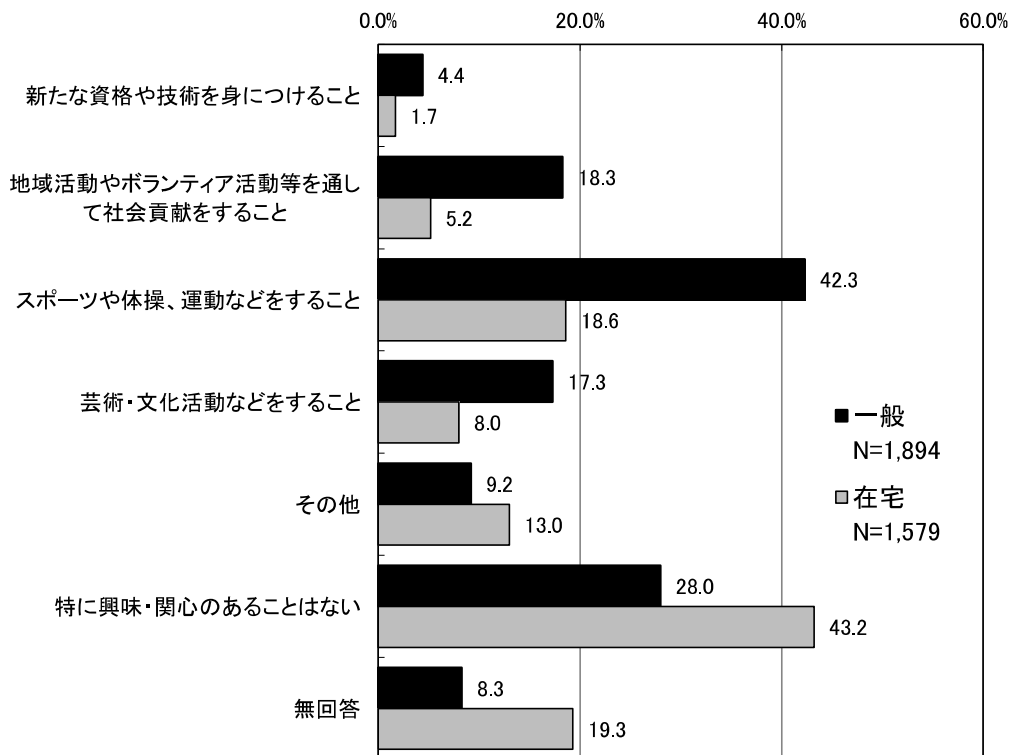


(2) 興味・関心のあること、今後取り組みたいこと

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

興味・関心があること、今後取り組みたいことについて尋ねたところ、一般高齢者で「スポーツや体操、運動などをする事」が42.3%で最も高く、次いで「特に興味・関心のあることはない」が28.0%となっている。

在宅高齢者では、「特に興味・関心のあることはない」が43.2%で最も高く、次いで「スポーツや体操、運動などをする事」が18.6%となっている。

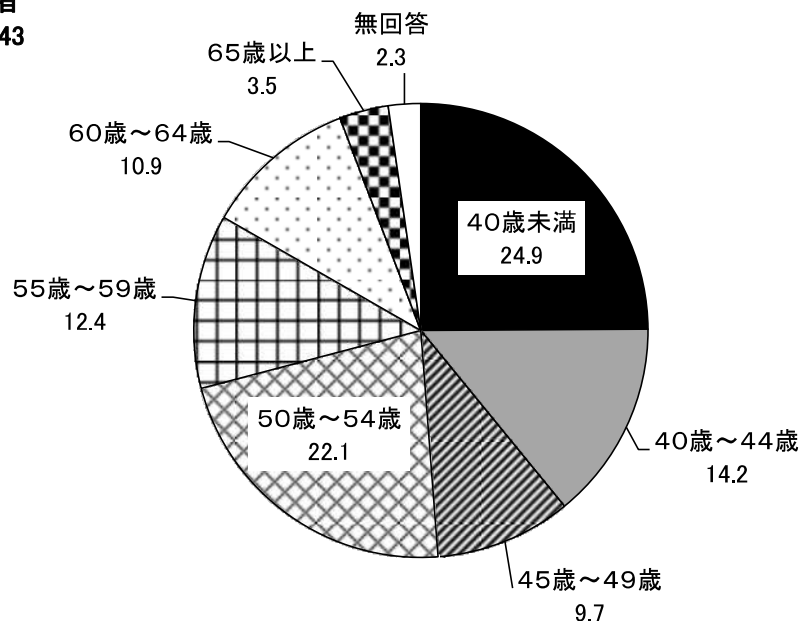


(3) 老後に向けての準備開始時期

対象：『若年者』

自身が老後に向けての準備（健康づくり、趣味、貯蓄など）を何歳から始めたか、あるいは何歳から始めたらよいと思うか尋ねたところ、「40歳未満」が24.9%で最も多く、次いで「50歳～54歳」が22.1%となっている。

若年者  
N=1,243

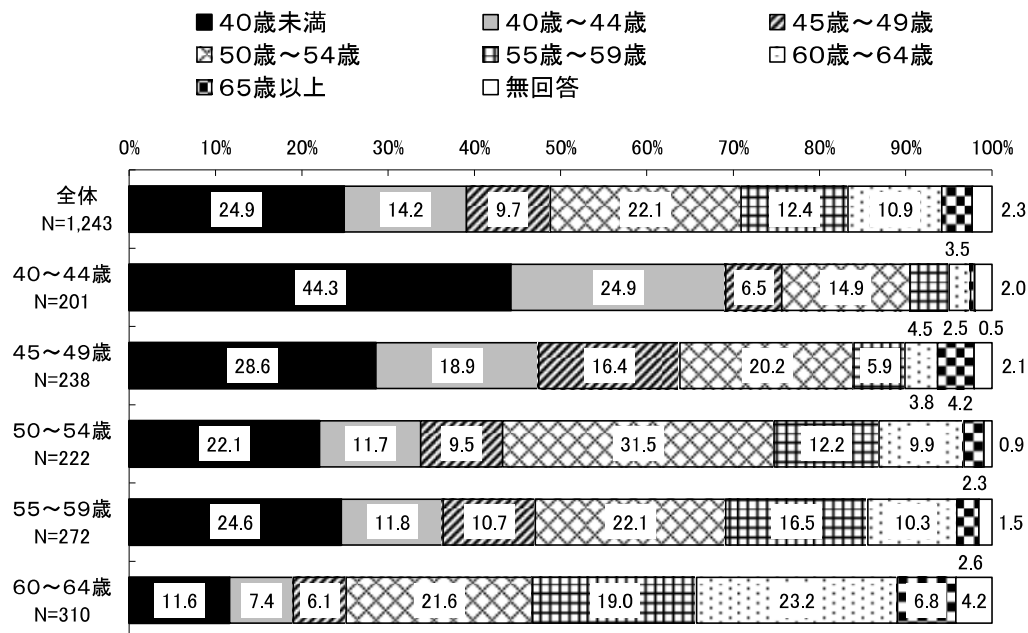


【属性別特徴】

若年者について年齢別にみると、40～44歳、45～49歳については、「40歳未満」との回答が最も多くなっている。

おおむね若い年齢ほど、若いうちから始めた（始めたらよいと思う）割合が高い傾向がみられる。

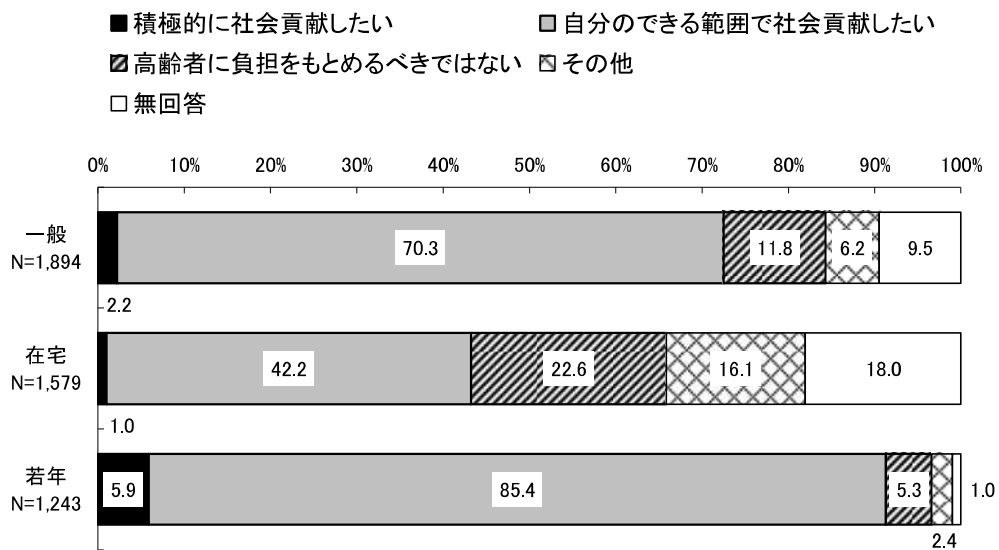
若年者（年齢別）



(4) 高齢者（高齢者になった時）の社会貢献

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

高齢化が進む中、高齢者（高齢者となった時）としての社会貢献についてどのように考えるか尋ねたところ、「自分のできる範囲で社会貢献したい」が最も多く、一般高齢者で70.3%、在宅高齢者で42.2%、若年者で85.4%となっている。次いで、一般高齢者と在宅高齢者では「高齢者に負担をもとめるべきではない」が一般高齢者で11.8%、在宅高齢者で22.6%となっており、若年者では「積極的に社会貢献したい」が5.9%となっている。



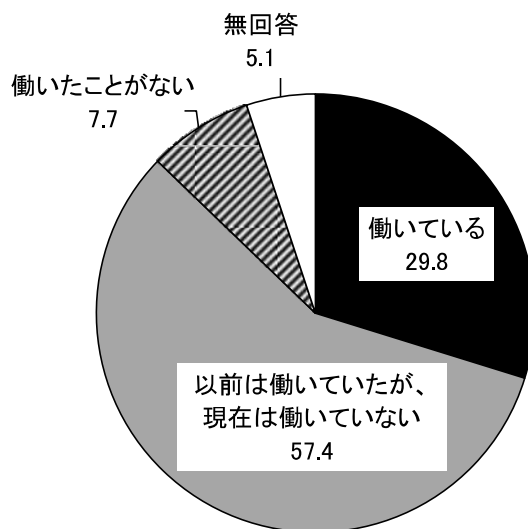
4. 就労

(1) 就労状況

対象：『一般高齢者』

就労状況については、「以前は働いていたが、現在は働いていない」が57.4%で最も多く、次いで「働いている」が29.8%、「働いたことがない」が7.7%となっている。

一般高齢者  
N=1,894

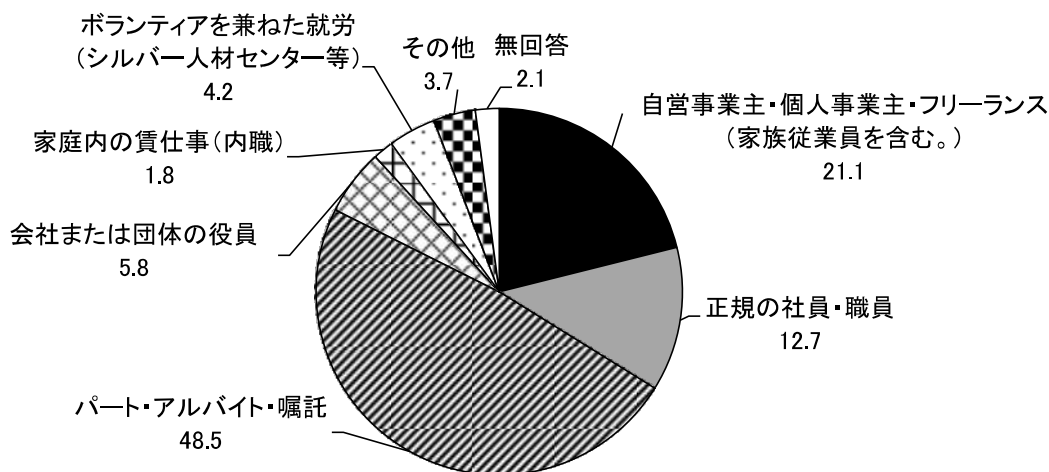


(1) - 1 就労形態

対象：『一般高齢者』

「働いている」と回答した人に就労形態を尋ねたところ、「パート・アルバイト・嘱託」が48.5%で最も多く、次いで、「自営事業主・個人事業主・フリーランス (家族従業員を含む。)」が21.1%、「正規の社員・職員」が12.7%となっている。

一般高齢者  
N=565

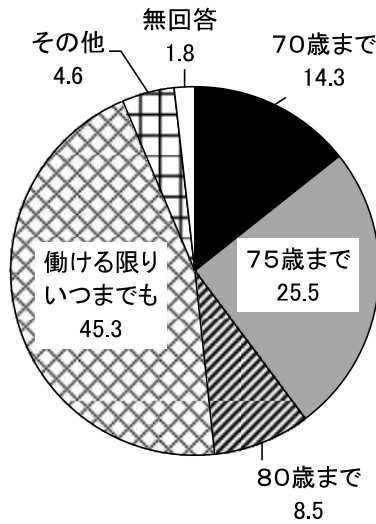


(1) —2 いくつまで働きたいか

対象：『一般高齢者』

「働いている」と回答した人にいくつまで働きたいか尋ねたところ、「働ける限りいつまでも」が45.3%で最も多く、次いで「75歳まで」が25.5%、「70歳まで」が14.3%、「80歳まで」が8.5%となっている。

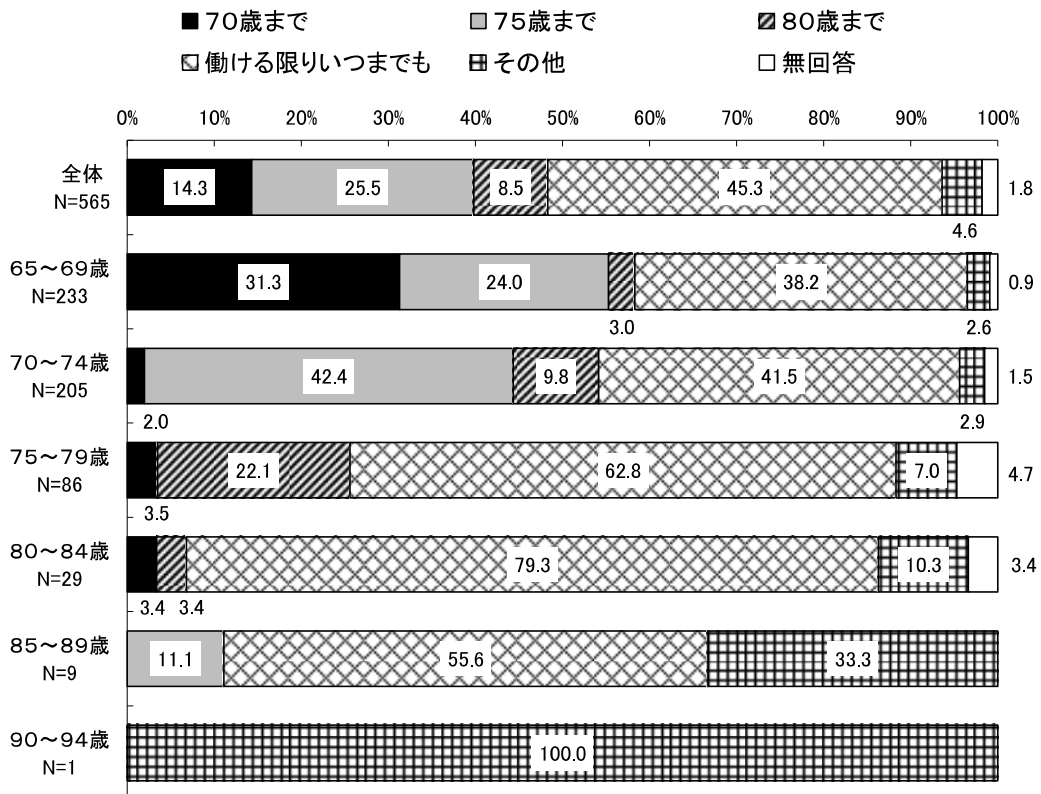
一般高齢者  
N=565



【属性別特徴】

年齢別にみると、70～74歳、90～94歳を除くいずれの年齢層においても「働ける限りいつまでも」と回答した割合が高い。70～74歳では「75歳まで」の割合が42.4%で最も多い。

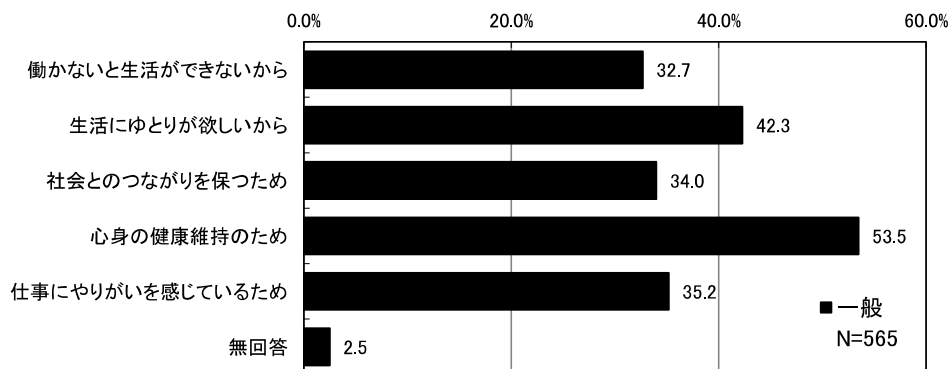
一般高齢者（年齢別）



(1) —3 働く目的

対象：『一般高齢者』

「働いている」と回答した人に働く目的を尋ねたところ、「心身の健康維持のため」が53.5%で最も多く、次いで「生活にゆとりが欲しいから」が42.3%、「仕事にやりがいを感じているため」が35.2%、「社会とのつながりを保つため」が34.0%、「働かないと生活ができないから」が32.7%となっている。



【属性別特徴】

年齢別にみると、おおむね年齢が若いほど「働かないと生活ができないから」、「生活にゆとりが欲しいから」の割合が高くなっている。

一般高齢者（年齢別）

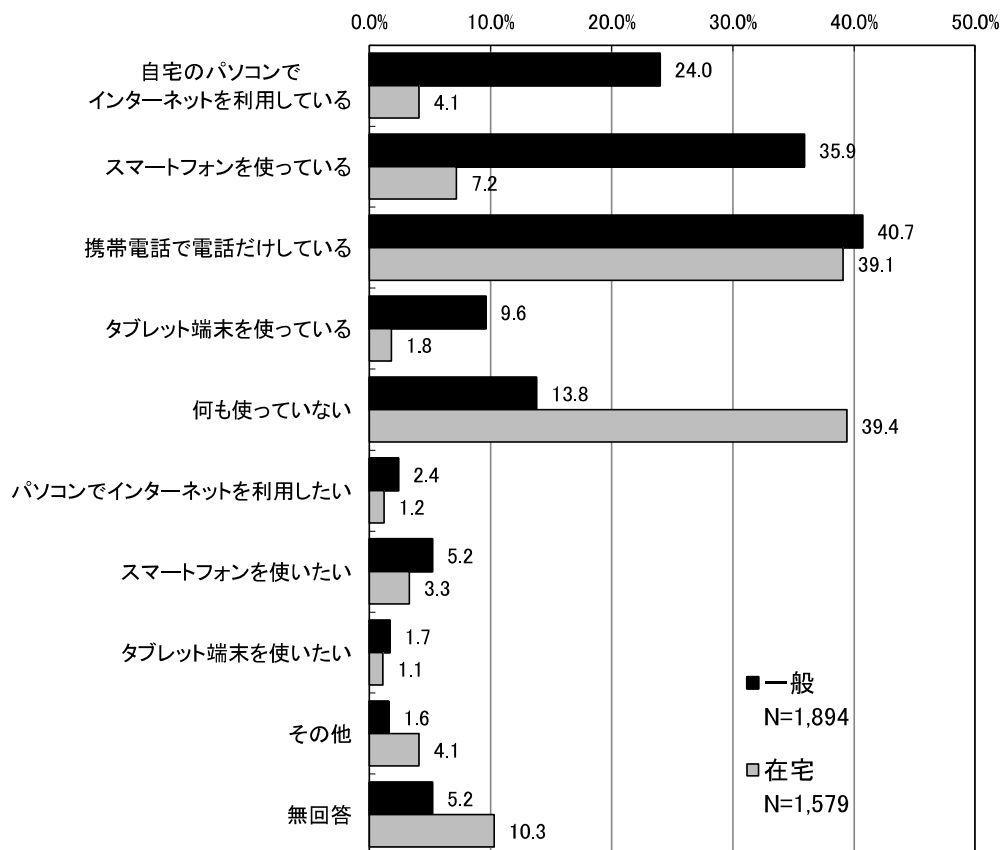
		調査数	働かないと生活ができないから	生活にゆとりが欲しいから	社会とのつながりを保つため	心身の健康維持のため	仕事にやりがいを感じているため	無回答
全体		565	32.7%	42.3%	34.0%	53.5%	35.2%	2.5%
年齢	65～69歳	233	38.2%	43.8%	35.2%	54.5%	31.3%	1.7%
	70～74歳	205	29.3%	48.8%	33.7%	53.2%	33.7%	2.0%
	75～79歳	86	32.6%	32.6%	32.6%	52.3%	39.5%	4.7%
	80～84歳	29	24.1%	27.6%	31.0%	55.2%	55.2%	3.4%
	85～89歳	9	11.1%	11.1%	33.3%	44.4%	44.4%	11.1%
	90～94歳	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

5. ITリテラシー

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

インターネット等の活用状況について尋ねたところ、一般高齢者では、「携帯電話で電話だけしている」が40.7%で最も多く、次いで「スマートフォンを使っている」が35.9%、「自宅のパソコンでインターネットを利用している」が24.0%の順となっている。

在宅高齢者では、「何も使っていない」が39.4%で最も多く、次いで「携帯電話で電話だけしている」が39.1%、「スマートフォンを使っている」が7.2%の順となっている。



【属性別特徴】

「スマートフォンを使用している」、「携帯電話で電話だけしている」と回答した人について、年齢別にみると、一般高齢者では65～69歳のうち過半数が「スマートフォンを使用している」と回答している。また、一般高齢者・在宅高齢者いずれも年齢が高くなるにつれて割合が低くなる傾向にある。

一般高齢者・在宅高齢者（年齢別）

		スマートフォンを使用している人			携帯電話で電話だけしている人		
		高齢者全体	一般高齢者	在宅高齢者	高齢者全体	一般高齢者	在宅高齢者
全体 (高齢者全体 N=3,473) (一般高齢者 N=1,894) (在宅高齢者 N=1,579)		22.8%	35.9%	7.2%	40.0%	40.7%	39.1%
年齢別	65～69歳 (高齢者全体 N=550) (一般高齢者 N=492) (在宅高齢者 N=58)	53.3%	56.7%	24.1%	30.7%	30.1%	36.2%
	70～74歳 (高齢者全体 N=732) (一般高齢者 N=586) (在宅高齢者 N=146)	35.1%	39.4%	17.8%	42.6%	42.7%	42.5%
	75～79歳 (高齢者全体 N=703) (一般高齢者 N=456) (在宅高齢者 N=247)	21.6%	27.9%	10.1%	47.9%	46.7%	50.2%
	80～84歳 (高齢者全体 N=623) (一般高齢者 N=245) (在宅高齢者 N=378)	9.1%	13.9%	6.1%	46.5%	46.9%	46.3%
	85～89歳 (高齢者全体 N=495) (一般高齢者 N=90) (在宅高齢者 N=405)	4.4%	7.8%	3.7%	36.2%	37.8%	35.8%
	90～94歳 (高齢者全体 N=264) (一般高齢者 N=15) (在宅高齢者 N=249)	3.0%	0.0%	3.2%	29.2%	40.0%	28.5%
	95～99歳 (高齢者全体 N=69) (一般高齢者 N=2) (在宅高齢者 N=67)	1.4%	0.0%	1.5%	23.2%	50.0%	22.4%
	100歳以上 (高齢者全体 N=8) (一般高齢者 N=0) (在宅高齢者 N=8)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



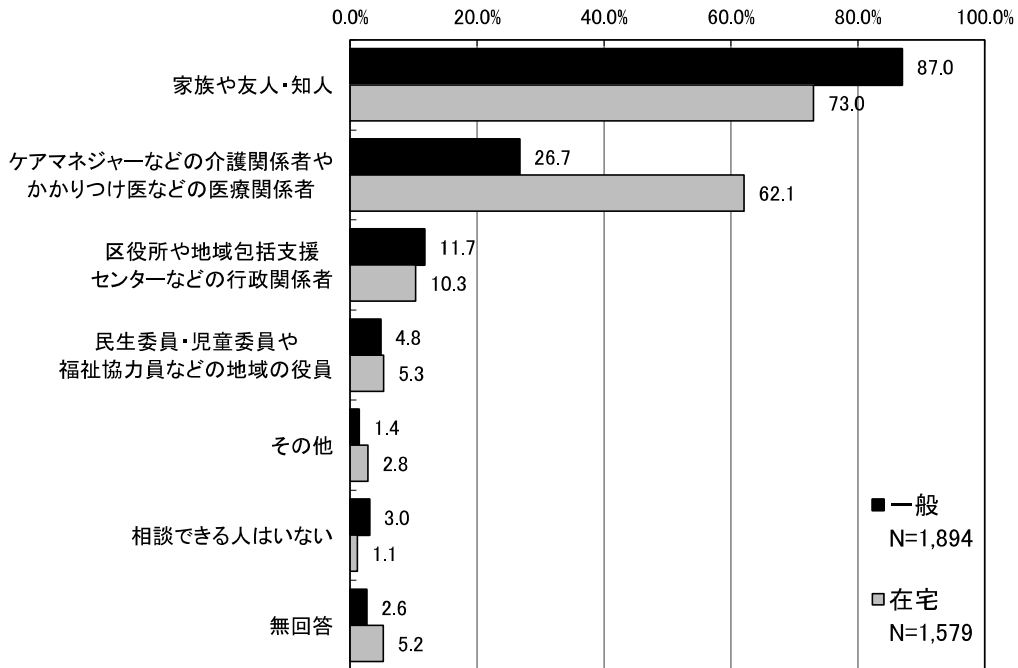
6. 地域との関わり・支援の状況

(1) 相談できる人

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

介護や病気などで困ったときに相談できる人について尋ねたところ、「家族や友人・知人」が一般高齢者で87.0%、在宅高齢者で73.0%と最も多くなっている。

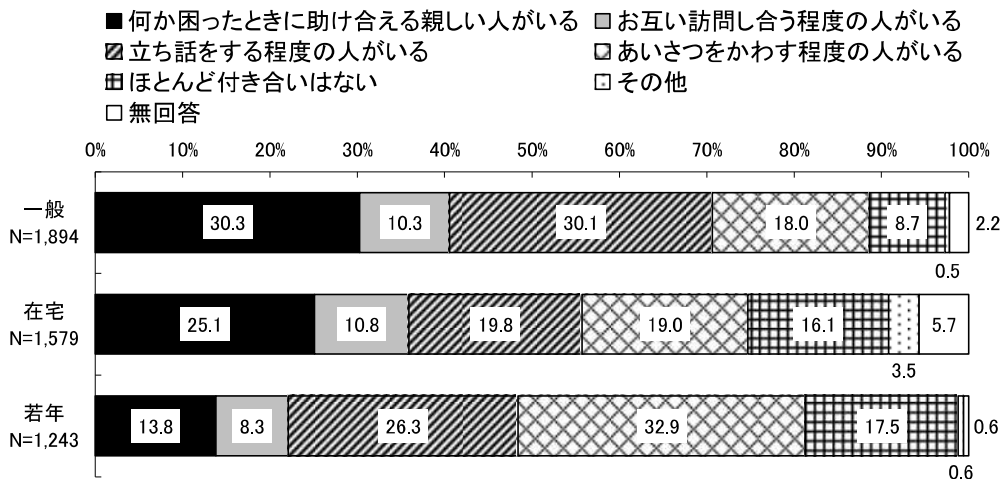
また在宅高齢者では、「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」が62.1%と一般高齢者に比べて大幅に高かった。



(2) 近所づきあい

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

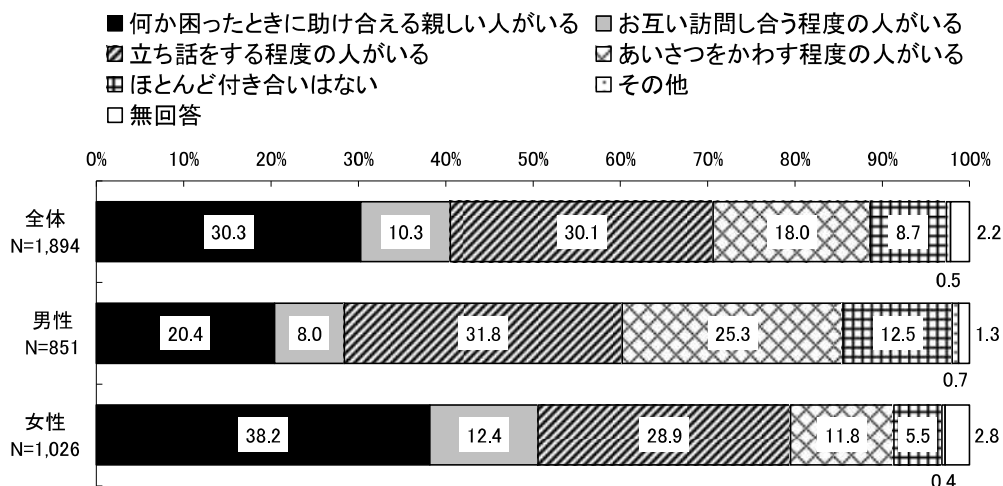
近所で親しく付き合っている人がいるか尋ねたところ、「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」は、一般高齢者が30.3%、在宅高齢者が25.1%で最も多いが、若年者では13.8%で4番目となっている。若年者では「あいさつをかわす程度の人がある」が32.9%で最も多い。また、2番目に多いのは、いずれも「立ち話をする程度の人がある」となっている。



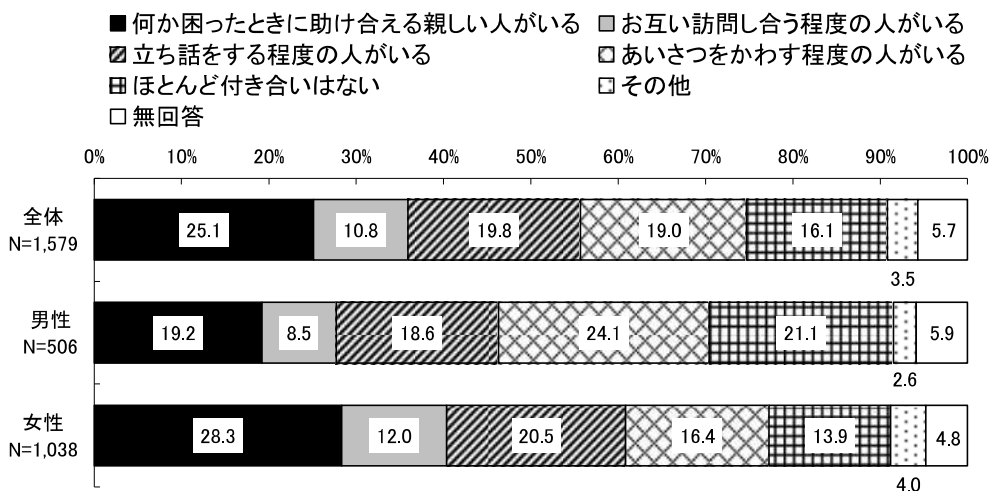
【属性別特徴】

男女別にみると、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれにおいても、「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」、「お互い訪問し合う程度の人がある」の割合は女性の方が男性より高い。

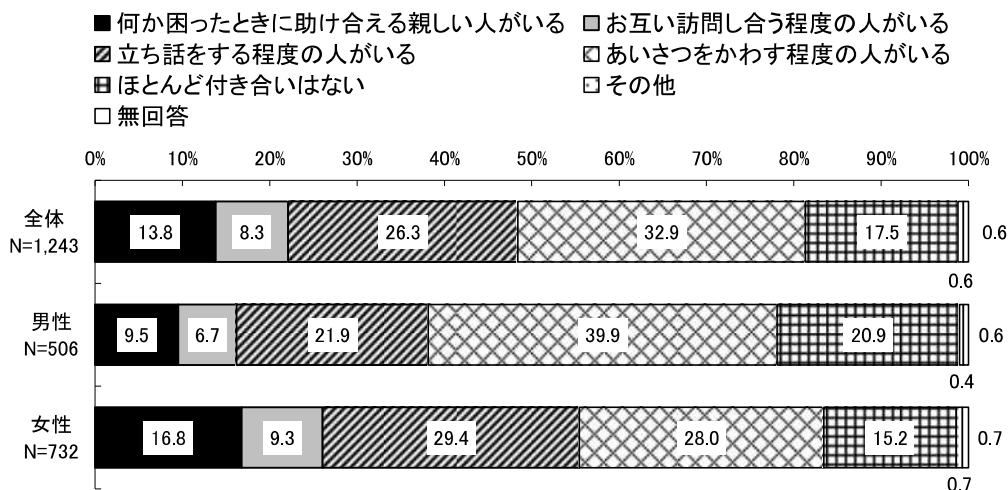
一般高齢者（男女別）



在宅高齢者（男女別）



若年者（男女別）

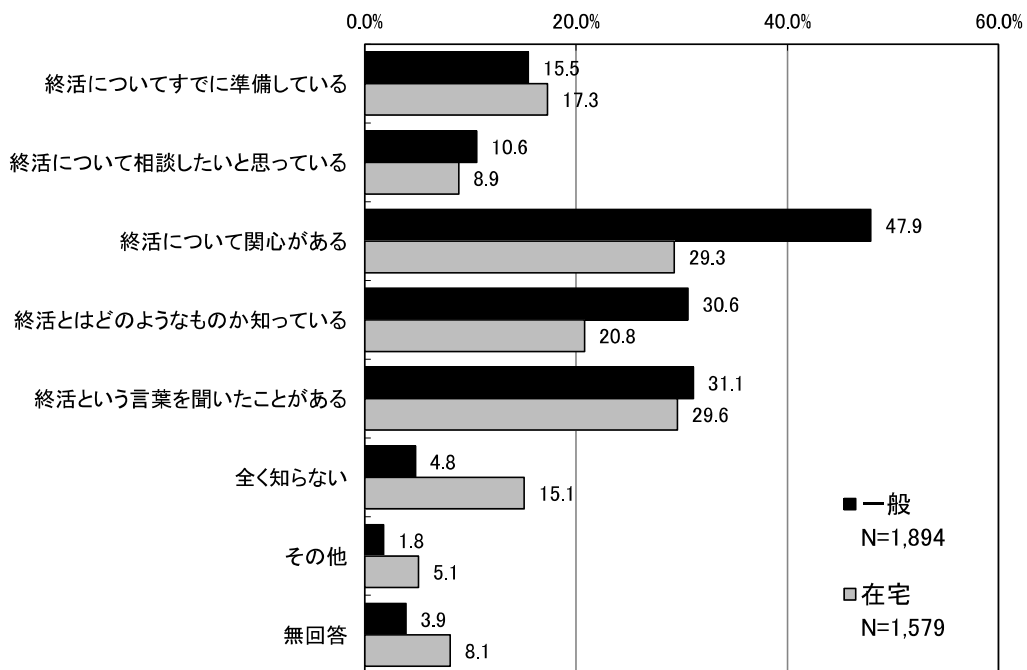


7. 終活

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

終活について尋ねたところ、一般高齢者では、「終活について関心がある」が47.9%で最も多く、次いで「終活という言葉聞いたことがある」が31.1%、「終活とはどのようなものか知っている」が30.6%の順となっている。

在宅高齢者では、「終活という言葉聞いたことがある」が29.6%で最も多く、次いで「終活について関心がある」が29.3%、「終活とはどのようなものか知っている」が20.8%の順となっている。

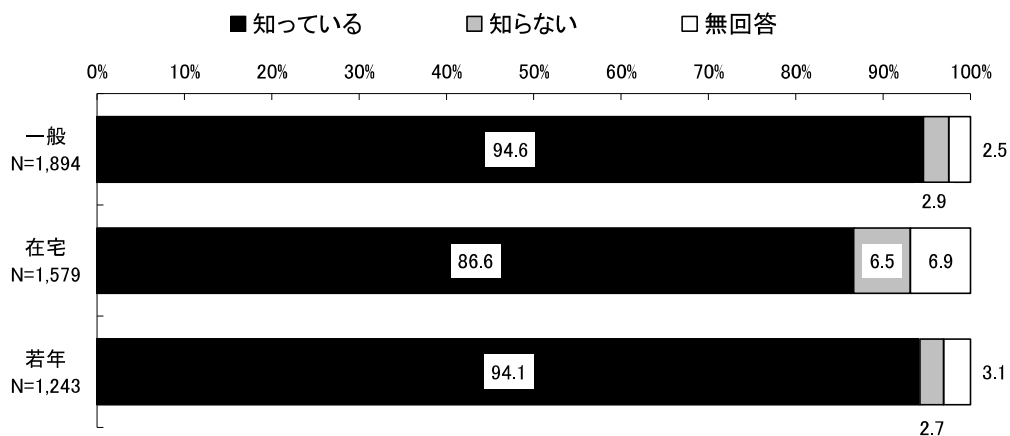


8. 認知症

(1) 認知症は誰でもかかりうる病気であることを知っているか

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

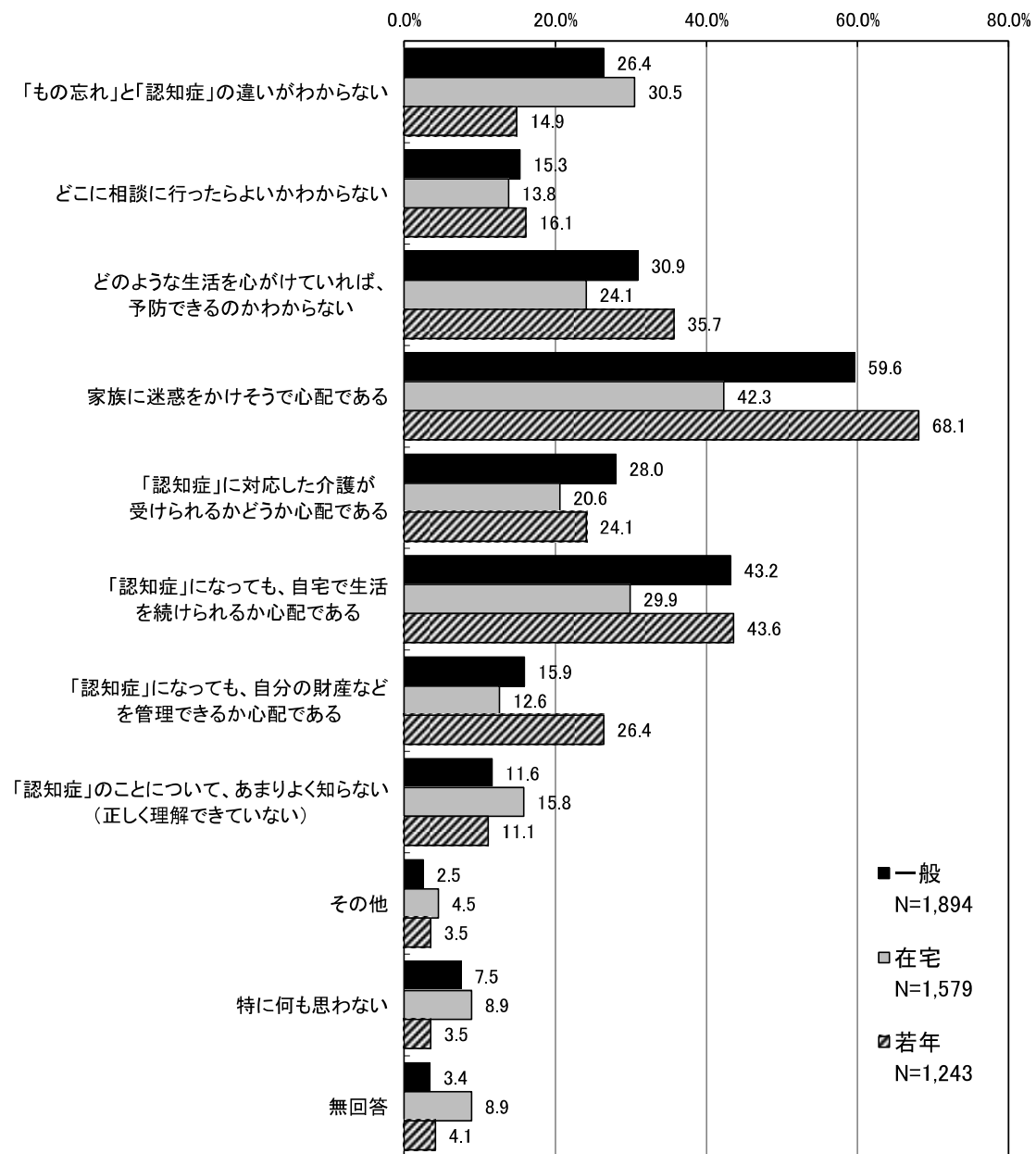
認知症が誰でもかかりうる病気であることを知っているか尋ねたところ、「知っている」の割合は一般高齢者で94.6%、在宅高齢者で86.6%、若年者で94.1%となっている。



(2) 認知症と聞いて最初に思うこと

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

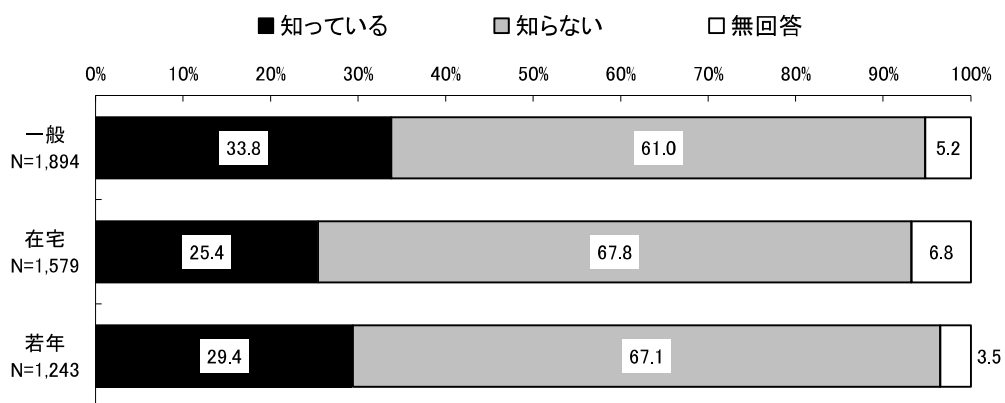
認知症と聞いて、最初に思うことはどのようなことか尋ねたところ、「家族に迷惑をかけそうで心配である」が最も多く、一般高齢者が59.6%、在宅高齢者が42.3%、若年者が68.1%となっている。次いで、一般高齢者と若年者では「『認知症』になっても、自宅で生活を続けられるか心配である」が一般高齢者で43.2%、若年者で43.6%となっており、在宅高齢者では「『もの忘れ』と『認知症』の違いがわからない」が30.5%となっている。



(3) 認知症の人(本人)の講演会活動などの認知度

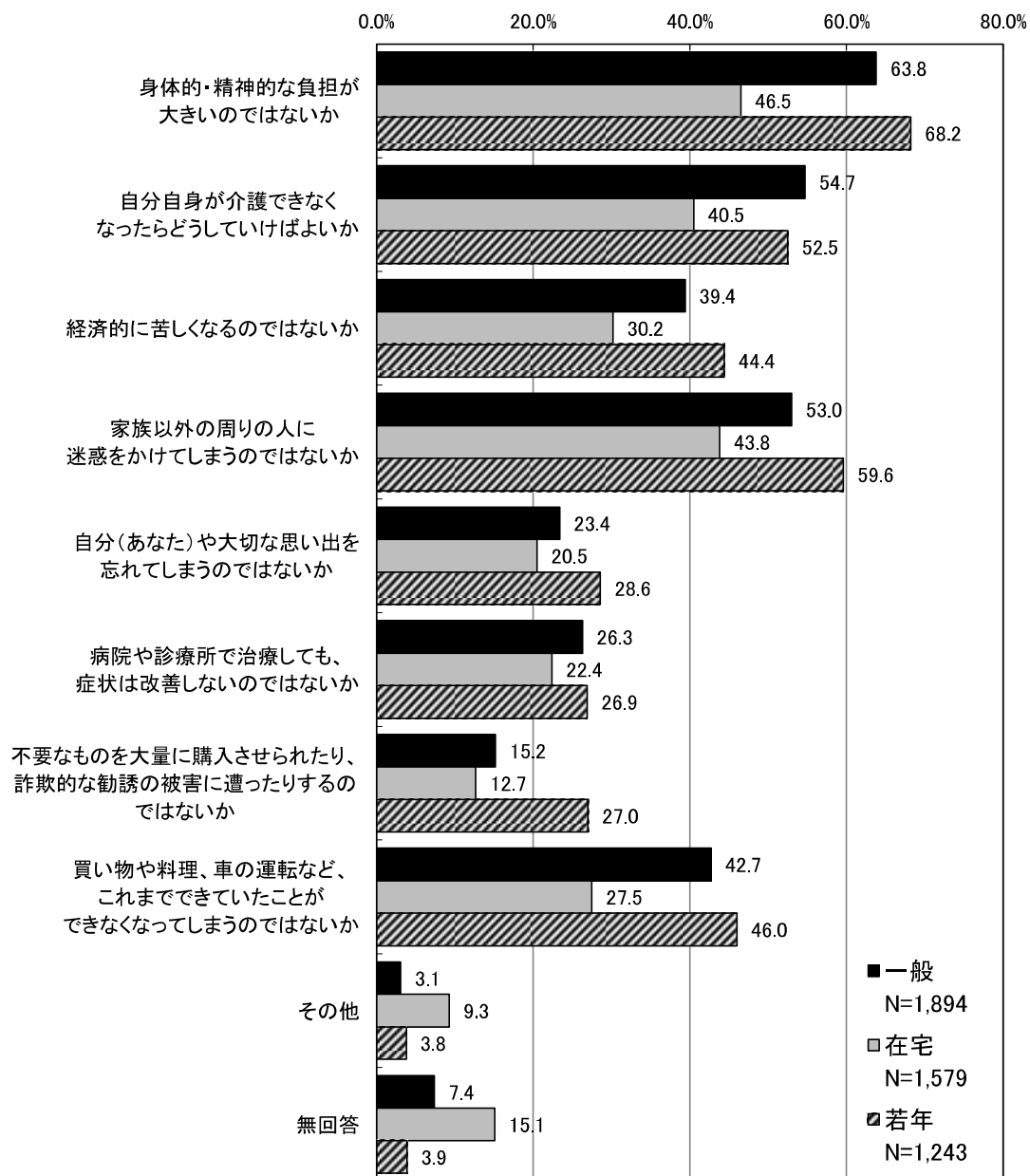
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

認知症の人(本人)が自身の体験談や思いなどを講演会などで発信する活動について知っているか尋ねたところ、「知っている」人の割合は、一般高齢者で33.8%、在宅高齢者で25.4%、若年者で29.4%となっている。



(4) 家族が認知症になった場合、または認知症のご家族がいる方の心配だと思う（感じる）こと  
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

家族が認知症になった場合や、現在、認知症の家族がいる方はどのようなことを心配だと思う（感じる）か尋ねたところ、「身体的・精神的な負担が大きいのではないか」が最も多く、一般高齢者が63.8%、在宅高齢者が46.5%、若年者が68.2%となっている。次いで、一般高齢者では「自分自身が介護できなくなったらどうしていけばよいか」が54.7%、在宅高齢者では「自分自身が介護できなくなったらどうしていけばよいか」が40.5%、在宅高齢者と若年者では「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」が在宅高齢者で43.8%、若年者で59.6%となっている。

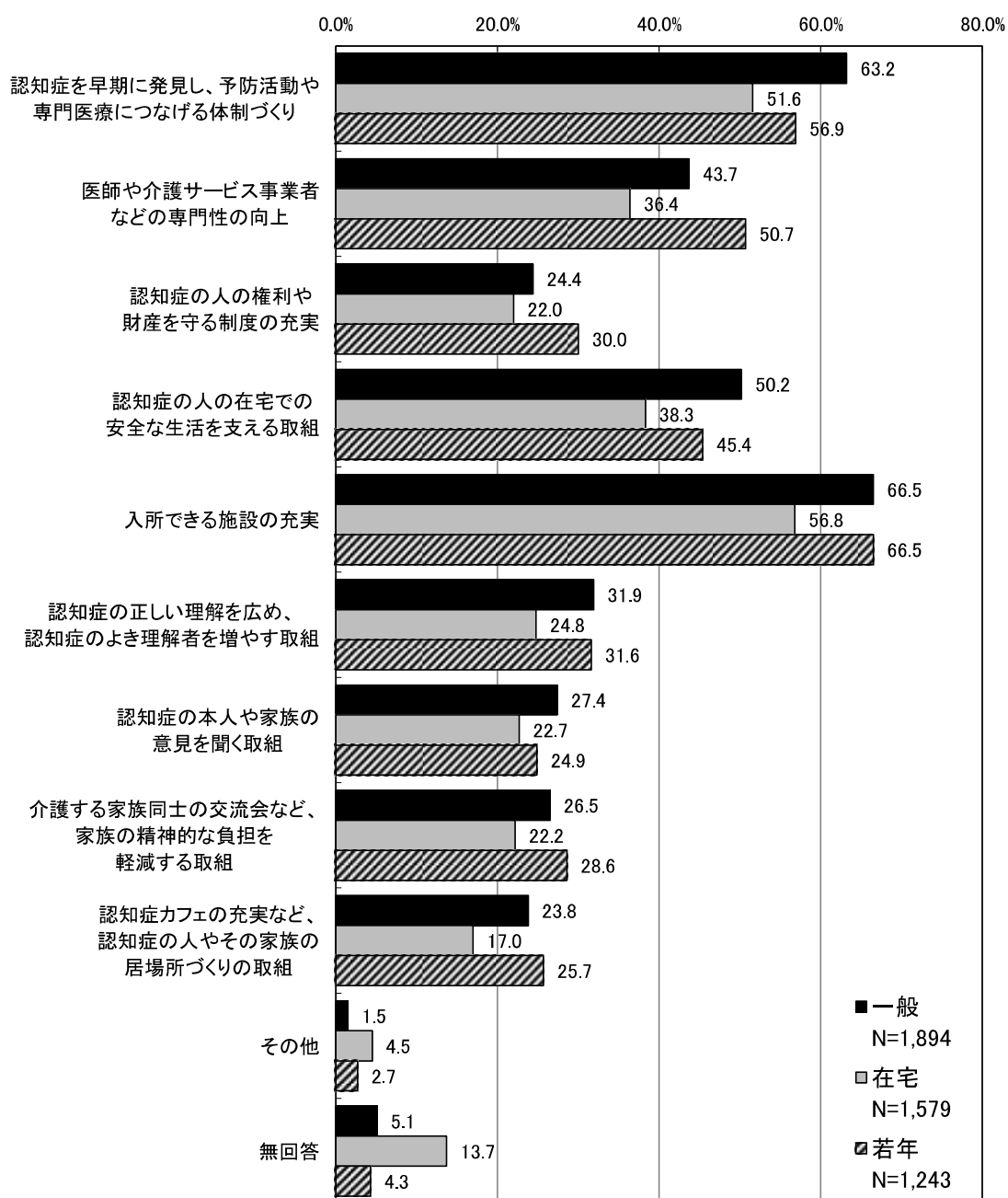


(5) 認知症に関して市が力を入れるべき取組

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

認知症に関して市が力を入れるべき取組については、一般高齢者、在宅高齢者、若年者いずれも「入所できる施設の充実」が最も多く、一般高齢者と若年者ともに66.5%、在宅高齢者が56.8%となっている。次いで「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり」が一般高齢者で63.2%、在宅高齢者で51.6%、若年者が56.9%となっている。

また、一般高齢者では「認知症の人の在宅での安全な生活を支える取組」、若年者では「医師や介護サービス事業者などの専門性の向上」がそれぞれ50.2%、50.7%と高かった。





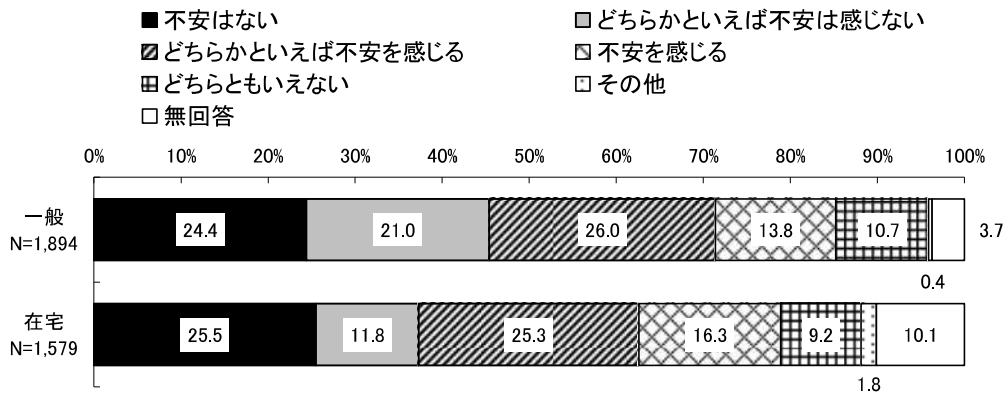
9. 虐待・権利擁護

(1) 高齢者の権利侵害に対する不安

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

虐待や財産をねらった詐欺など高齢者の権利を侵害するものに対する不安があるか尋ねたところ、一般高齢者では「どちらかといえば不安を感じる」が26.0%で最も多く、在宅高齢者では「不安はない」が25.5%で最も多くなっている。

「不安はない」、「どちらかといえば不安を感じない」を合わせた割合は、一般高齢者で45.4%、在宅高齢者で37.3%となっている。これに対して「不安を感じる」、「どちらかといえば不安を感じる」を合わせた割合は、一般高齢者で39.8%、在宅高齢者で41.6%となっている。

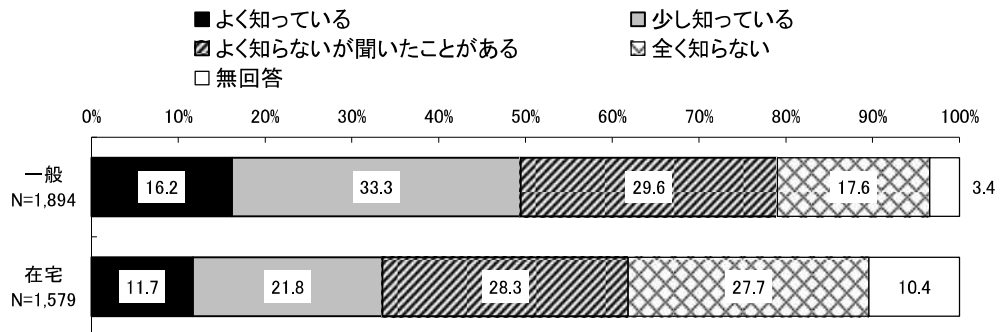


(2) 成年後見制度の認知度

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

成年後見制度を知っているか尋ねたところ、一般高齢者では「少し知っている」が33.3%で最も多く、次いで「よく知らないが聞いたことがある」が29.6%となっている。

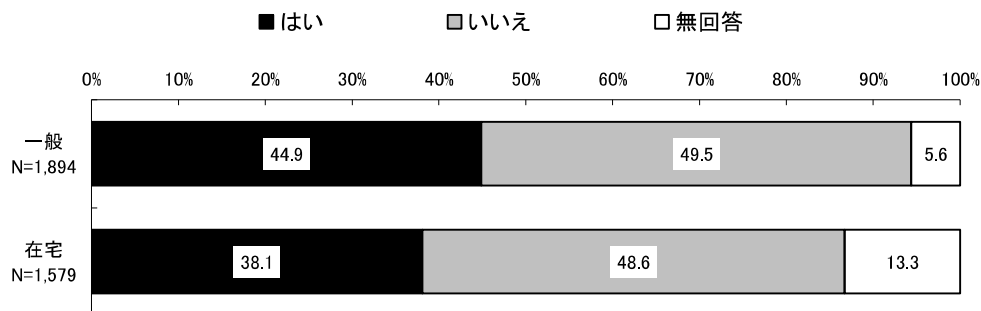
在宅高齢者では「よく知らないが聞いたことがある」が28.3%で最も多く、次いで「全く知らない」が27.7%となっている。



(3) 成年後見制度の利用意向

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

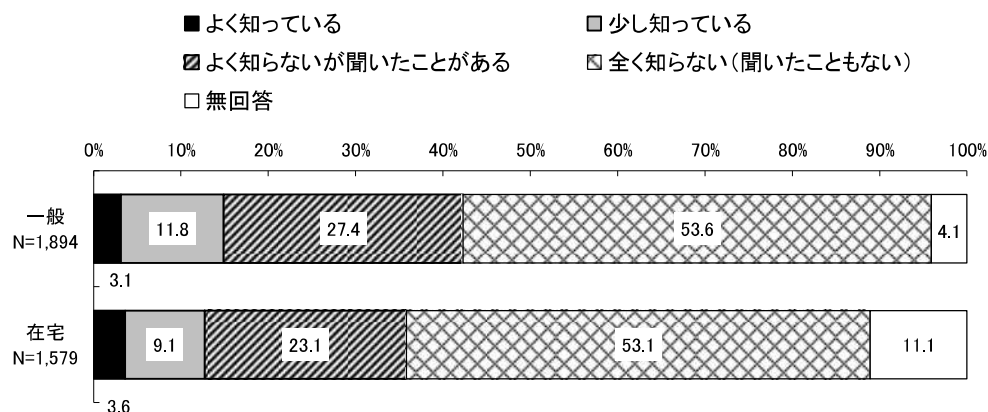
認知症などで判断が十分にできなくなったとき、「成年後見制度」を利用したいか尋ねたところ、「はい」と回答した割合は、一般高齢者で44.9%、在宅高齢者で38.1%となっている。



(4) 市民後見人の認知度

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

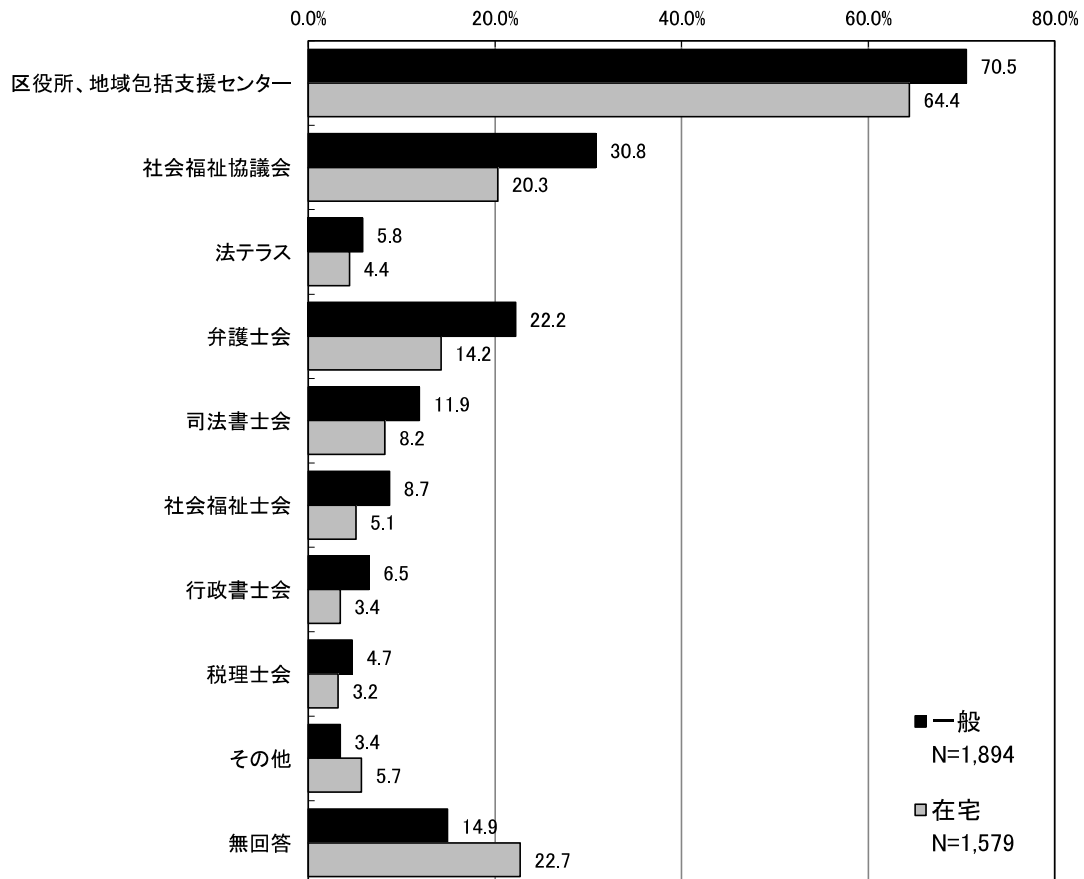
市民後見人を知っているか尋ねたところ、「全く知らない」が一般高齢者で53.6%、在宅高齢者で53.1%と最も多く、次いで「よく知らないが聞いたことがある」が一般高齢者で27.4%、在宅高齢者で23.1%となっている。



(5) 成年後見制度の相談窓口の認知度

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

成年後見制度の相談に応じてくれる窓口を知っているか尋ねたところ、「区役所・地域包括支援センター」が一般高齢者で70.5%、在宅高齢者で64.4%と最も多く、次いで「社会福祉協議会」が一般高齢者で30.8%、在宅高齢者で20.3%、「弁護士会」が一般高齢者で22.2%、在宅高齢者で14.2%の順となっている。

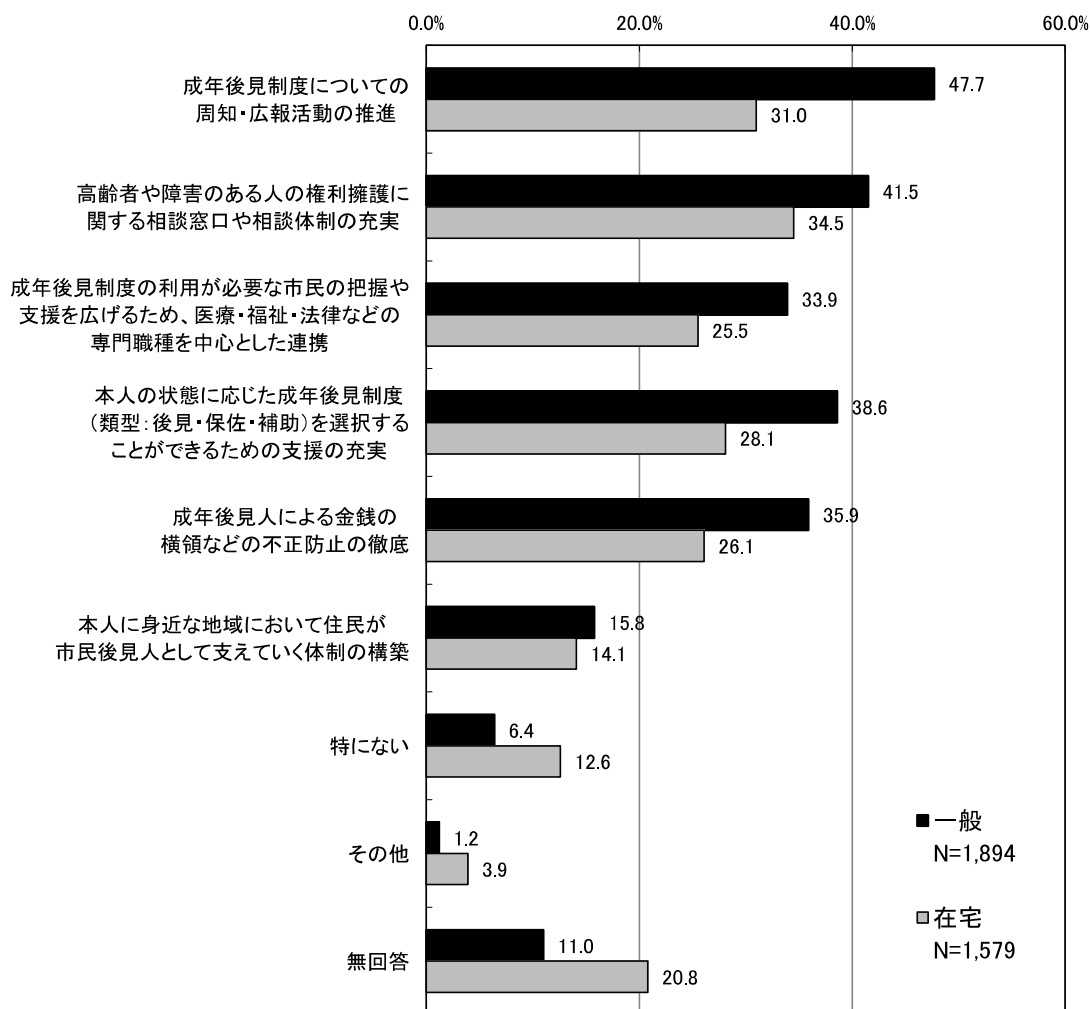


(6) 成年後見制度の利用促進・充実

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

成年後見制度の利用の促進・充実を図るためにどのようなことが必要か尋ねたところ、一般高齢者では、「成年後見制度についての周知・広報活動の推進」が47.7%で最も多く、次いで「高齢者や障害のある人の権利擁護に関する相談窓口や相談体制の充実」が41.5%、「本人の状態に応じた成年後見制度（類型：後見・保佐・補助）を選択することができるための支援の充実」が38.6%の順となっている。

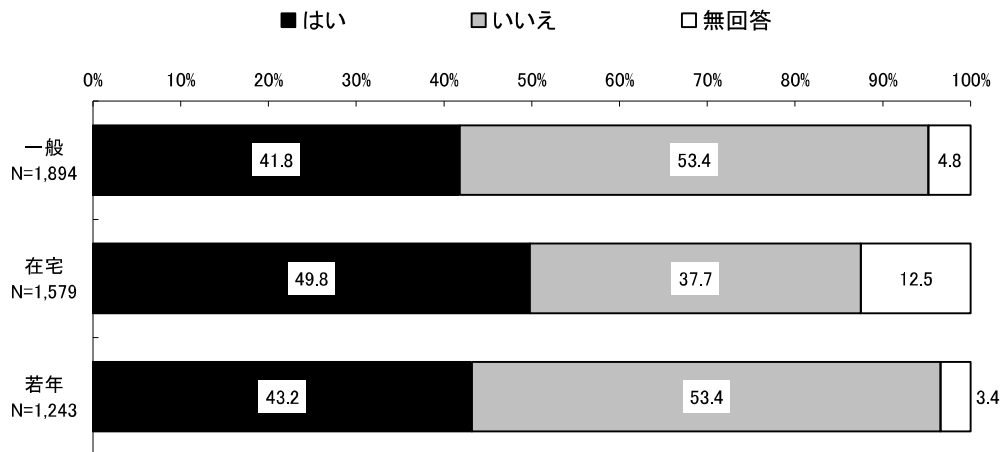
在宅高齢者では、「高齢者や障害のある人の権利擁護に関する相談窓口や相談体制の充実」が34.5%で最も多く、次いで「成年後見制度についての周知・広報活動の推進」が31.0%、「本人の状態に応じた成年後見制度（類型：後見・保佐・補助）を選択することができるための支援の充実」が28.1%の順となっている。



10. 地域包括支援センター

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

「地域包括支援センターを知っていますか」という質問に対して、「はい」と回答した割合は、一般高齢者で41.8%、在宅高齢者で49.8%、若年者で43.2%となっている。

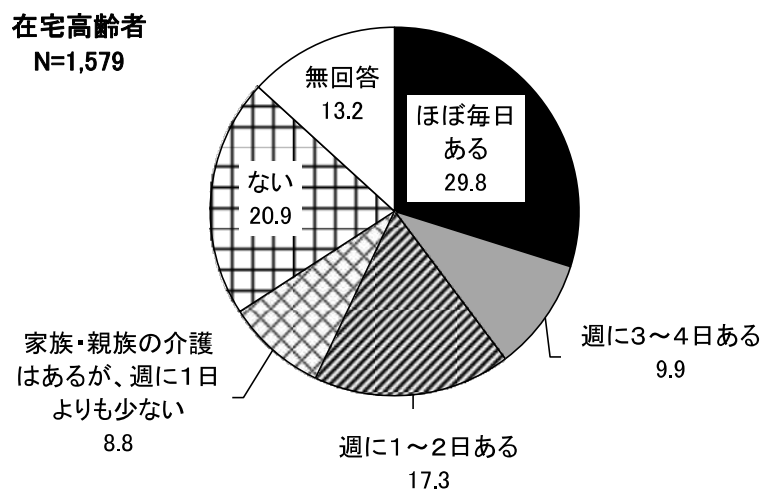


1.1. 介護保険制度

(1) 家族や親族からの介護の頻度

対象：『在宅高齢者』

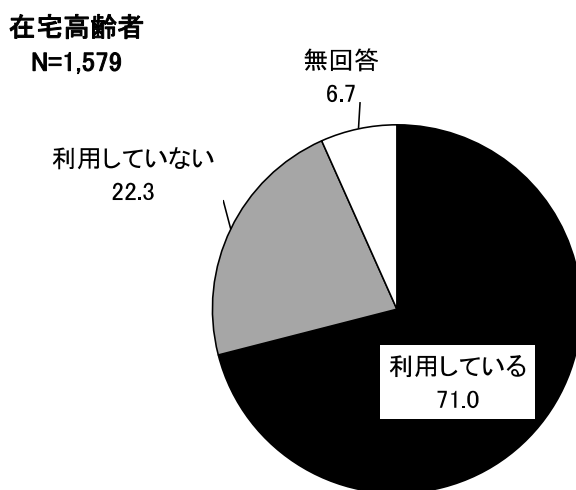
家族や親族からの介護が週どのくらいあるか尋ねたところ、「ほぼ毎日ある」が29.8%で最も多く、次いで「ない」が20.9%、「週に1～2日ある」で17.3%となっている。



(2) 介護保険サービスの利用状況

対象：『在宅高齢者』

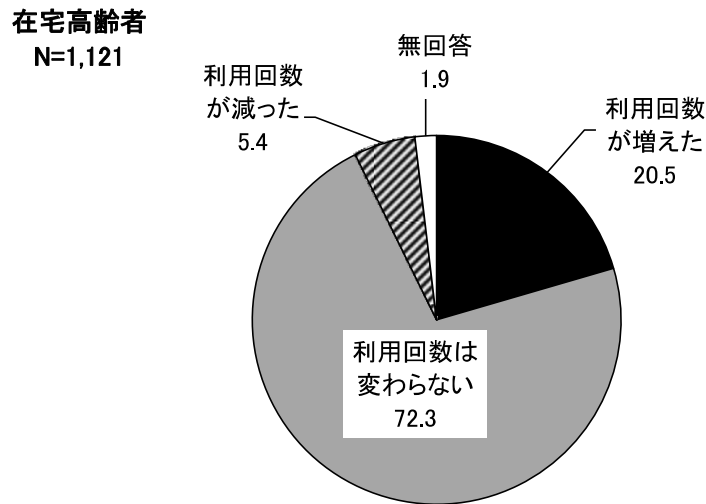
現在、介護保険のサービスを「利用している」在宅高齢者は71.0%であり、「利用していない」人は22.3%となっている。



(2) - 1 介護保険サービスの利用回数の変化

対象：『在宅高齢者』

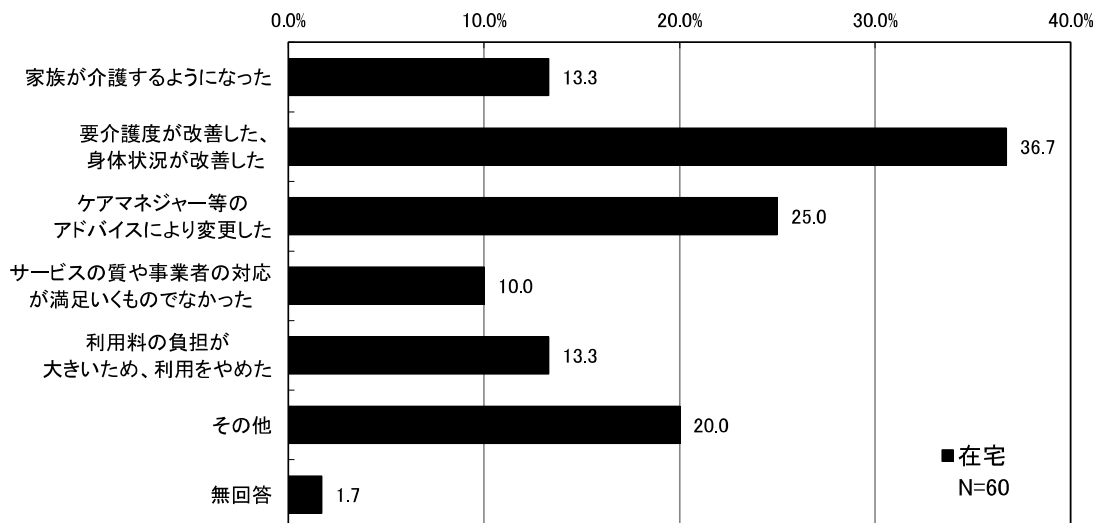
介護サービスを利用すると回答した人にこの1年間で、利用回数の変化があったか尋ねたところ、「利用回数は変わらない」が72.3%と過半数を占め、「利用回数が増えた」が20.5%、「利用回数が減った」が5.4%となっている。



(2) - 1 - 1 介護保険サービスの利用回数が減った理由

対象：『在宅高齢者』

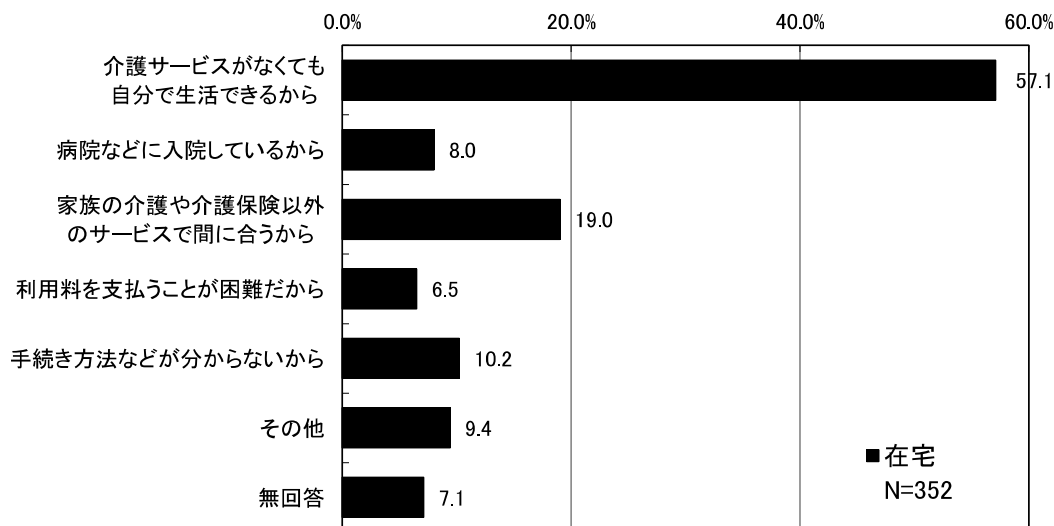
介護保険のサービスの利用回数が減ったと回答した人に理由を尋ねたところ、「要介護度が改善した、身体状況が改善した」が36.7%で最も多く、次いで「ケアマネジャー等のアドバイスにより変更した」が25.0%、「その他」20.0%となっている。



(2) - 2 介護保険サービスを利用していない理由

対象：『在宅高齢者』

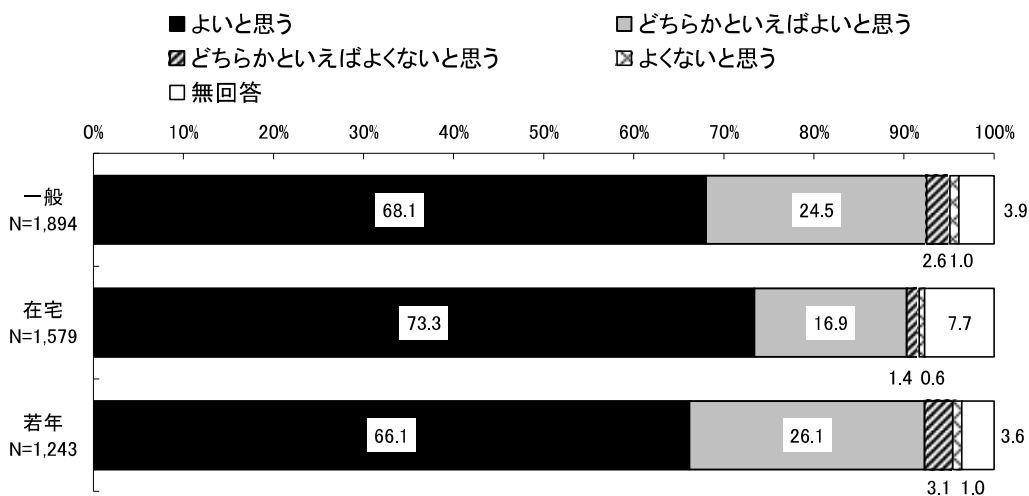
介護保険のサービスを利用していないと回答した人に理由を尋ねたところ、「介護サービスがなくても自分で生活できるから」が57.1%で最も多く、次いで「家族の介護や介護保険以外のサービスで間に合うから」が19.0%、「手続き方法などが分からないから」が10.2%となっている。



(3) 介護保険制度に対する考え

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

介護保険についてどのように考えるか尋ねたところ、「よいと思う」が一般高齢者で68.1%、在宅高齢者で73.3%、若年者で66.1%と最も多く、「どちらかといえばよいと思う」と答えた人と合わせると、一般高齢者で92.6%、在宅高齢者で90.2%、若年者で92.2%と、いずれも9割を超えている。



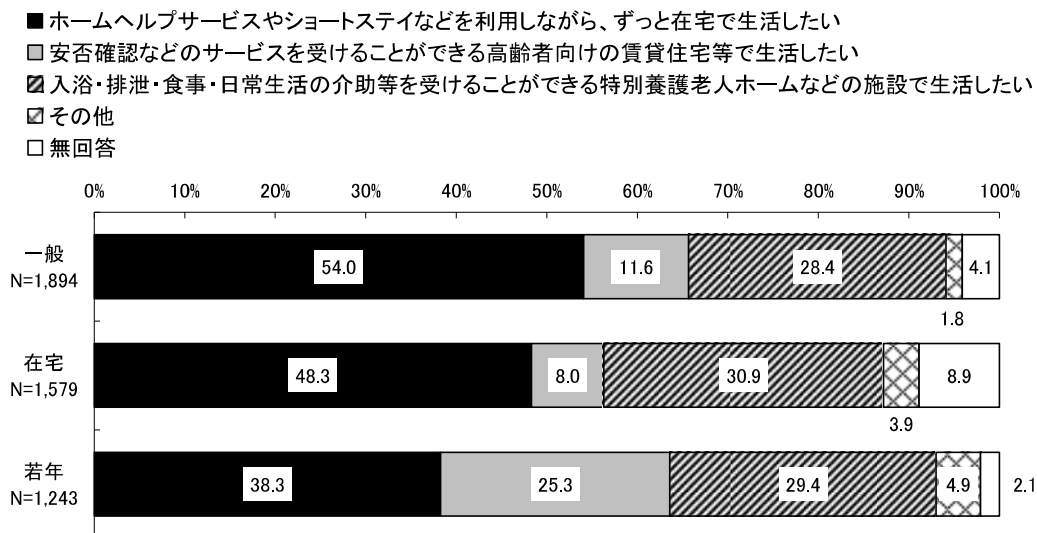


1.2. 保健・福祉サービスの利用意向

(1) 介護が必要な状態になったときに希望する生活場所

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

介護が必要な状態になったとき（在宅高齢者の場合は、現在よりもさらに介護が必要になったとき）に、どこで生活することを希望するか尋ねたところ、「ホームヘルプサービスやショートステイなどを利用しながら、ずっと在宅で生活したい」が一般高齢者で54.0%、在宅高齢者で48.3%、若年者で38.3%と最も多くなっている。また、若年者では「安否確認などのサービスを受けることができる高齢者向けの賃貸住宅等で生活したい」が25.3%と一般高齢者の11.6%、在宅高齢者の8.0%に比べて割合が高くなっている。

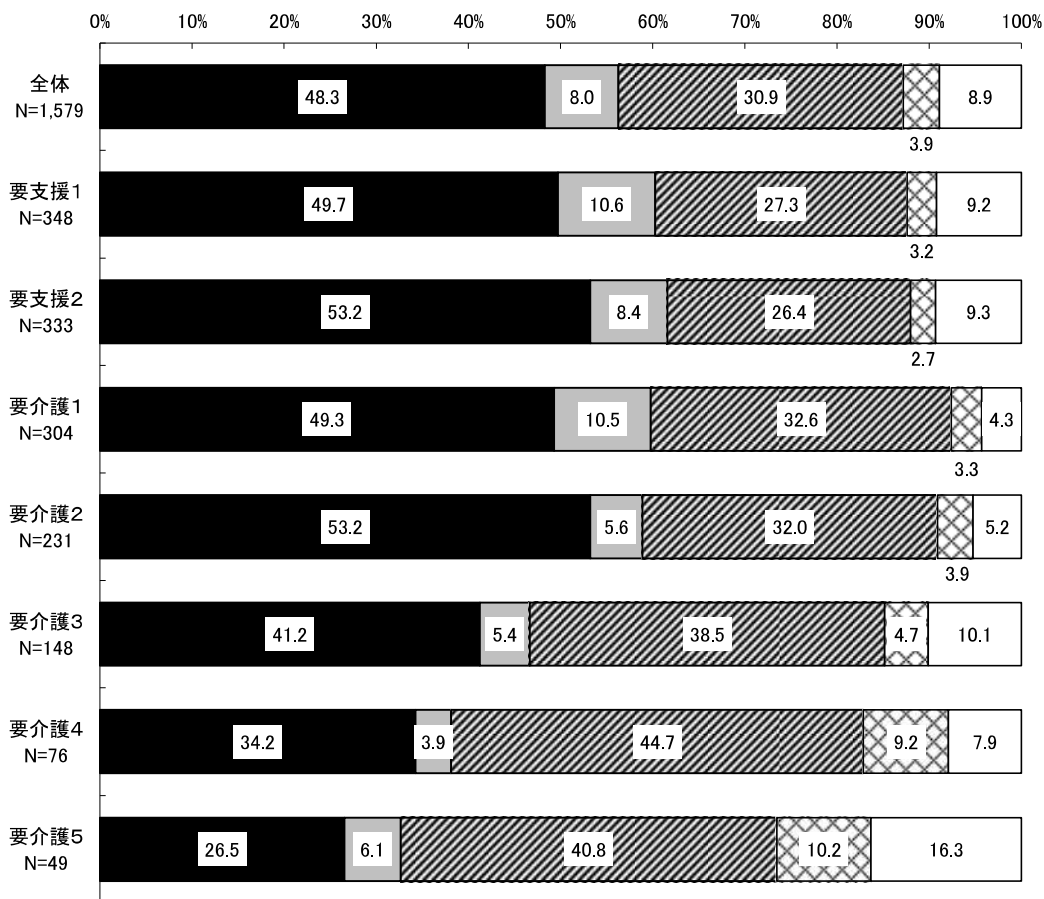


【属性別特徴】

在宅高齢者について要介護度別にみると、要介護4、要介護5では「入浴・排泄・食事・日常生活の介助等を受けることができる特別養護老人ホームなどの施設で生活したい」の割合が最も高くなっている。その他の要介護度区分については、「ホームヘルプサービスやショートステイなどを利用しながら、ずっと在宅で生活したい」の割合が高い。

在宅高齢者（要介護度別）

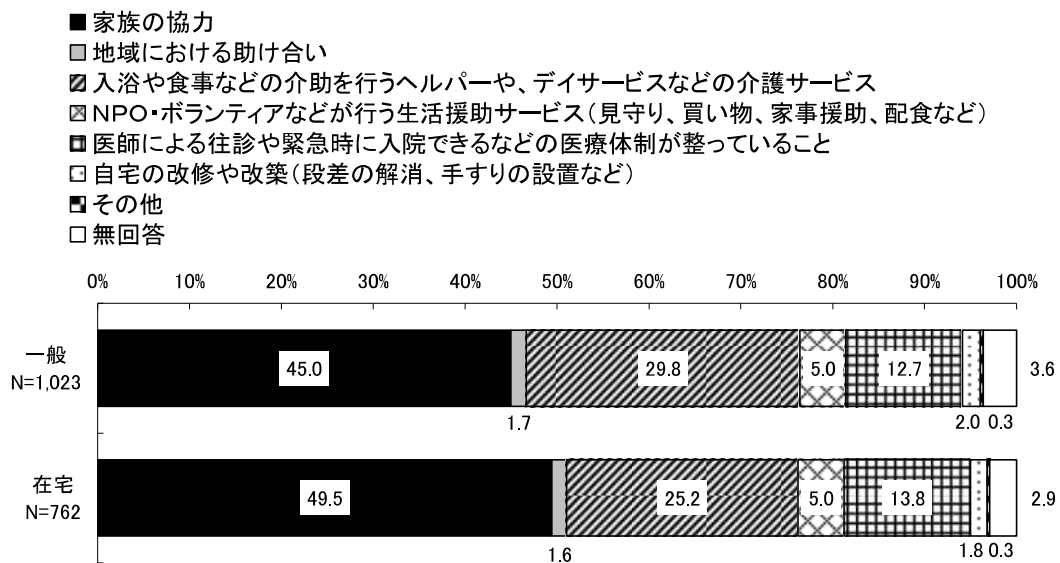
- ホームヘルプサービスやショートステイなどを利用しながら、ずっと在宅で生活したい
- 安否確認などのサービスを受けることができる高齢者向けの賃貸住宅等で生活したい
- ▨ 入浴・排泄・食事・日常生活の介助等を受けることができる特別養護老人ホームなどの施設で生活したい
- ▩ その他
- 無回答



(1) -1 自宅で暮らし続けるために最も必要なこと

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

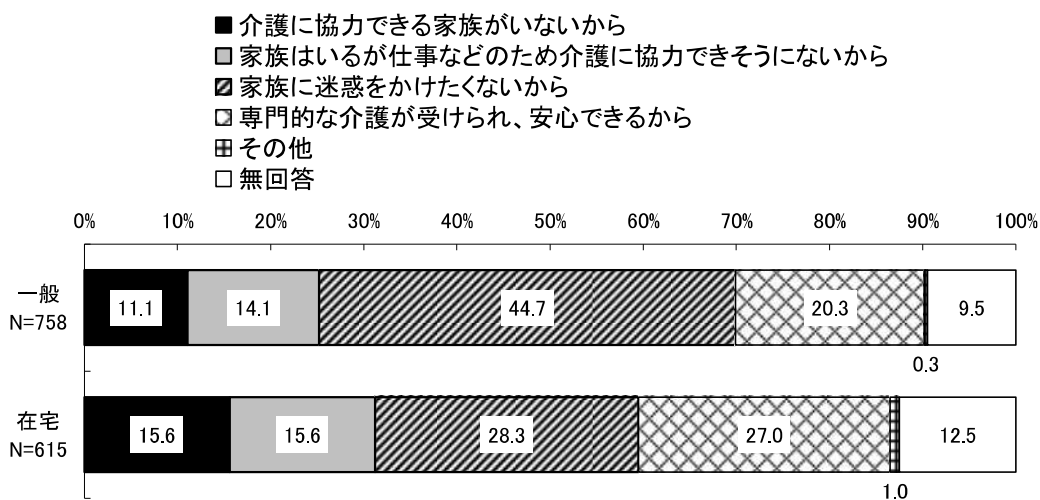
「ホームヘルプサービスやショートステイなどを利用しながら、ずっと在宅で生活したい」と回答した人に、自宅で暮らし続けるために最も必要なことを尋ねたところ、「家族の協力」が一般高齢者で45.0%、在宅高齢者で49.5%と最も多く、次いで「入浴や食事などの介助を行うヘルパーや、デイサービスなどの介護サービス」が一般高齢者で29.8%、在宅高齢者で25.2%、「医師による往診や緊急時に入院できるなどの医療体制が整っていること」が一般高齢者で12.7%、在宅高齢者で13.8%の順となっている。



(1) - 2 施設で生活を希望する理由

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

「安否確認などのサービスを受けることができる高齢者向けの賃貸住宅等で生活したい」、「入浴・排泄・食事・日常生活の介助等を受けることができる特別養護老人ホームなどの施設で生活したい」と回答した人に理由を尋ねたところ、「家族に迷惑をかけたくないから」が一般高齢者で44.7%、在宅高齢者で28.3%と最も多く、次いで「専門的な介護が受けられ、安心できる」が高齢者で20.3%、在宅高齢者で27.0%となっている。

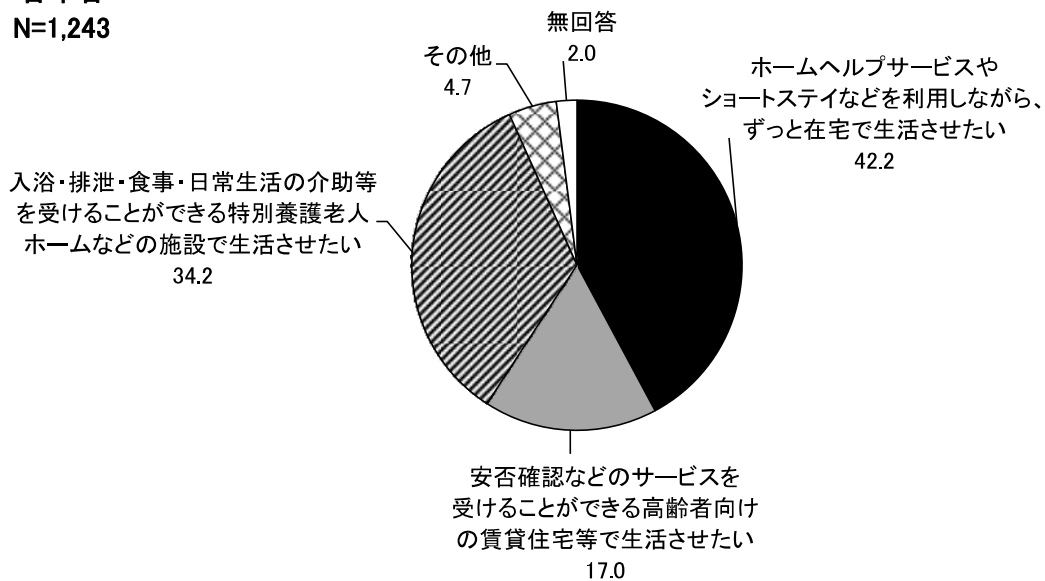


(2) 家族の介護を行う場合に希望する介護

対象：『若年者』

家族の介護を行うこととなったとき、どのような介護を希望するか尋ねたところ、「ホームヘルプサービスやショートステイなどを利用しながら、ずっと在宅で生活させたい」が42.2%で最も多く、次いで「入浴・排泄・食事・日常生活の介助等を受けることができる特別養護老人ホームなどの施設で生活させたい」が34.2%、「安否確認などのサービスを受けることができる高齢者向けの賃貸住宅等で生活させたい」が17.0%となっている。

**若年者**  
N=1,243

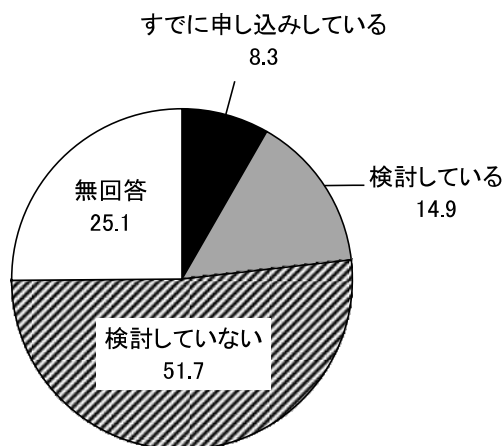


(3) 施設への入所申し込み

対象：『在宅高齢者』

施設への入所申し込みについては、「すでに申し込みしている」が8.3%、「検討している」が14.9%、「検討していない」が51.7%となっている。

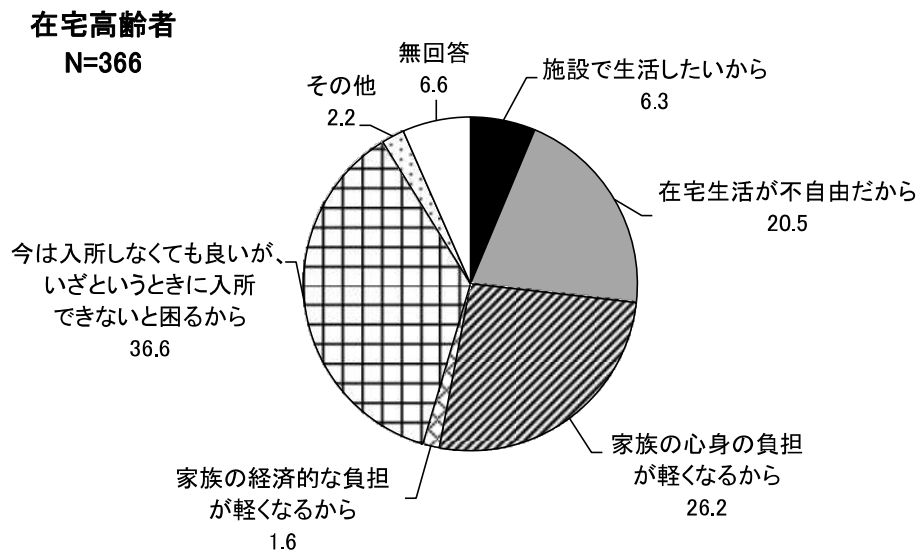
**在宅高齢者**  
N=1,579



(3) - 1 施設への入所申込理由

対象：『在宅高齢者』

施設への入所申し込みについて「すでに申し込みしている」または「検討している」と答えた人に対し、施設への入所申し込みをしている理由を尋ねたところ、「今は入所しなくても良いが、いざというときに入所できないと困るから」が36.6%で最も多く、次いで「家族の心身の負担が軽くなるから」が26.2%、「在宅生活が不自由だから」が20.5%となっている。

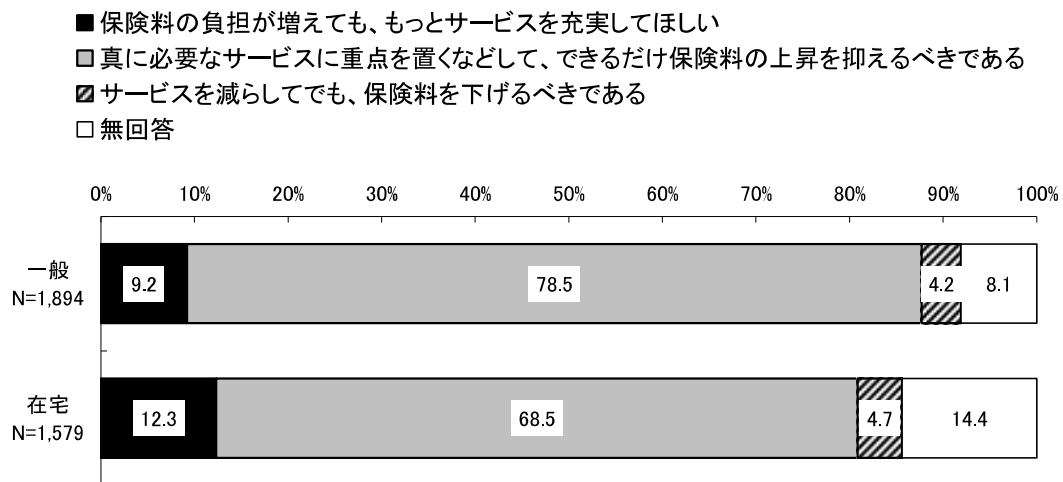


1.3. 介護保険の負担に対する考え方

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

介護保険サービスと介護保険料の関係についての考えを尋ねたところ、「真に必要なサービスに重点を置くなどして、できるだけ保険料の上昇を抑えるべきである」が一般高齢者で78.5%、在宅高齢者が68.5%で最も多くなっている。

「保険料の負担が増えても、もっとサービスを充実してほしい」は一般高齢者で9.2%、在宅高齢者で12.3%となっている。一方、「サービスを減らしてでも、保険料を下げるべきである」は一般高齢者で4.2%、在宅高齢者で4.7%となっている。



14. 生活環境

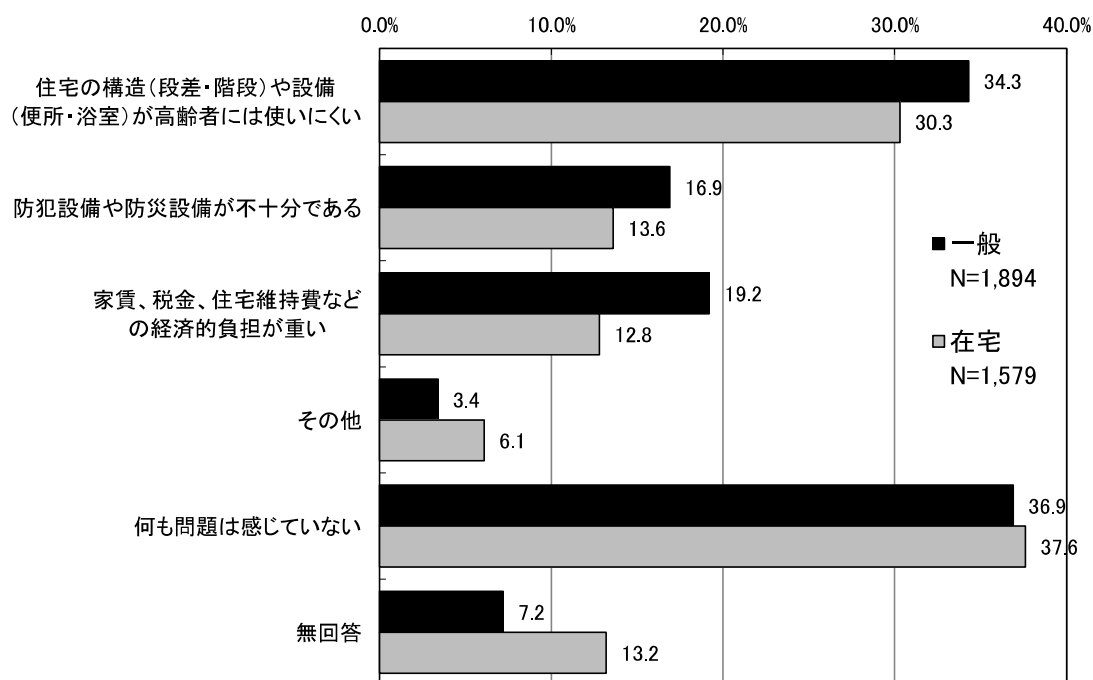
(1) 住宅の問題点

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

現在住んでいる住宅についてどのような問題を感じているか尋ねたところ、「何も問題は感じていない」が一般高齢者で36.9%、在宅高齢者で37.6%と最も多くなっている。

「住宅の構造（段差・階段）や設備（便所・浴室）が高齢者には使いにくい」が一般高齢者で34.3%、次いで「家賃、税金、住宅維持費などの経済的負担が重い」が19.2%、「防犯設備や防災設備が不十分である」が16.9%となっている。

「住宅の構造（段差・階段）や設備（便所・浴室）が高齢者には使いにくい」が在宅高齢者で30.3%、次いで「防犯設備や防災設備が不十分である」が13.6%、「家賃、税金、住宅維持費などの経済的負担が重い」が12.8%となっている。

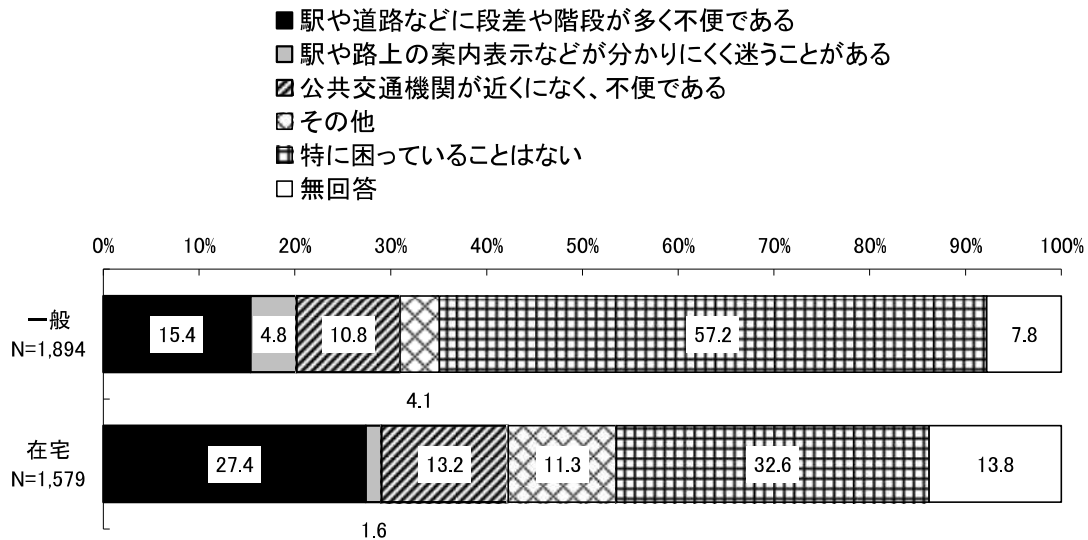




(2) 外出・移動時の問題点

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

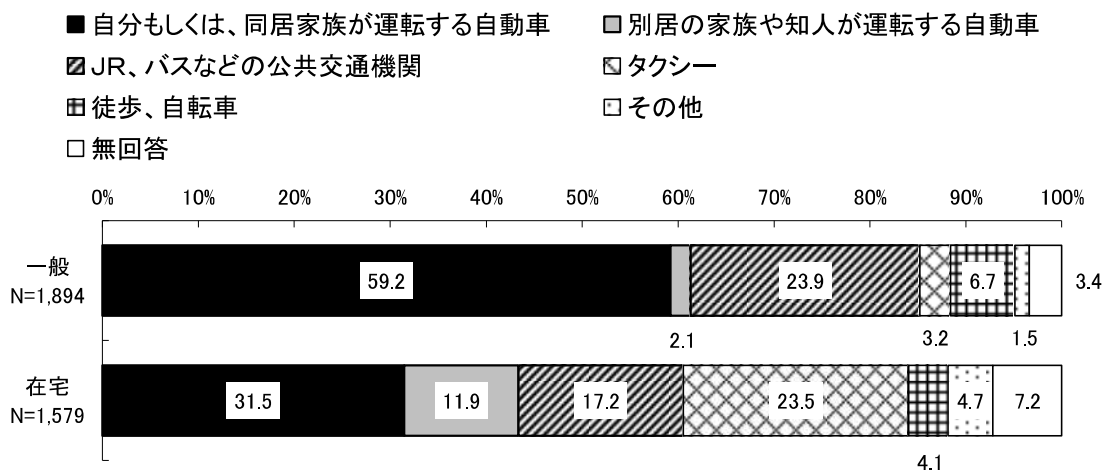
外出や移動のときに最も困っていることは何か尋ねたところ、「特に困っていることはない」が一般高齢者で57.2%、在宅高齢者で32.6%と最も多く、次いで「駅や道路などに段差や階段が多く不便である」が一般高齢者で15.4%、在宅高齢者で27.4%、「公共交通機関が近くになく、不便である」が一般高齢者で10.8%、在宅高齢者で13.2%となっている。



(3) 外出の際に最も利用する移動手段

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

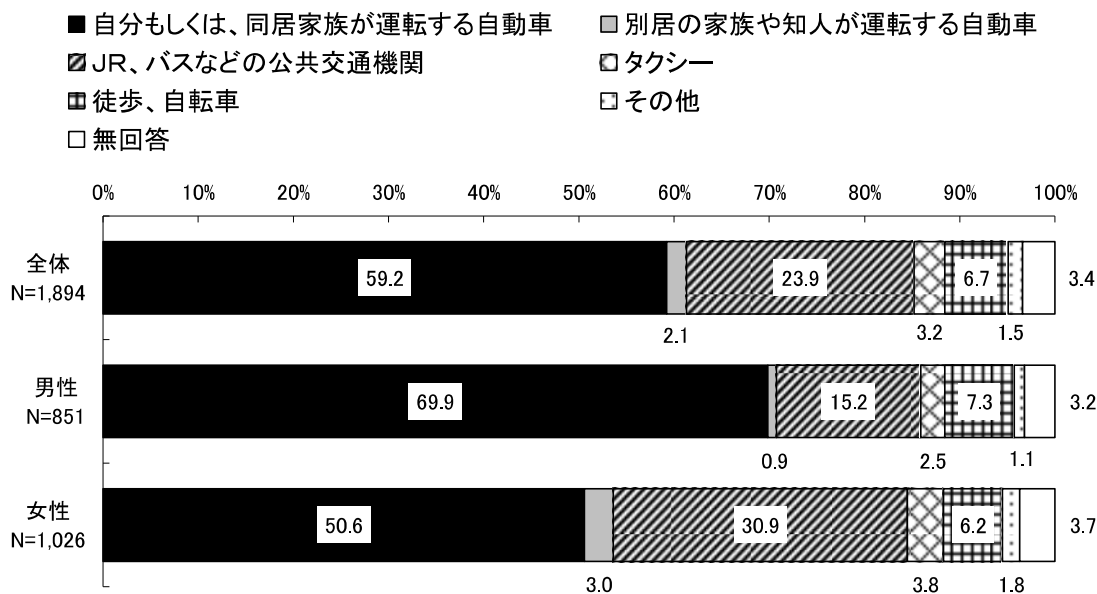
外出する際に最も多く使用する移動手段については、一般高齢者で「自分もしくは、同居家族が運転する自動車」が59.2%と過半数を占め、次いで「JR、バスなどの公共交通機関」が23.9%となっている。在宅高齢者では「自分もしくは、同居家族が運転する自動車」が31.5%で最も多く、次いで「タクシー」が23.5%、「JR、バスなどの公共交通機関」が17.2%、「別居の家族や知人が運転する自動車」が11.9%となっている。



【属性別特徴】

一般高齢者について男女別にみると、男性では「自分もしくは、同居家族が運転する自動車」の割合が女性に比べ大幅に高い一方、「JR、バスなどの公共交通機関」が低くなっている。

一般高齢者（男女別）

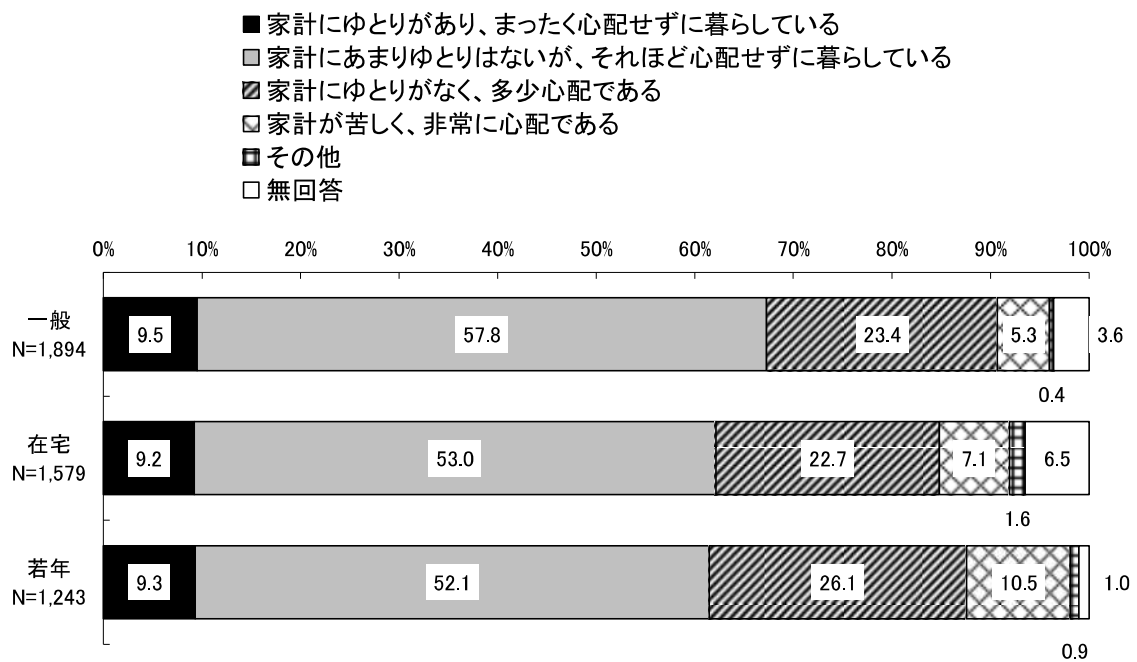


15. 暮らし向き

(1) 現在の暮らし向き

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

現在の暮らし向きについては、「家計にゆとりがあり、まったく心配せずに暮らしている」は、一般高齢者で9.5%、在宅高齢者で9.2%、若年者で9.3%となっている。「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配せずに暮らしている」は一般高齢者で57.8%、在宅高齢者で53.0%、若年者で52.1%となっており、過半数を占めている。

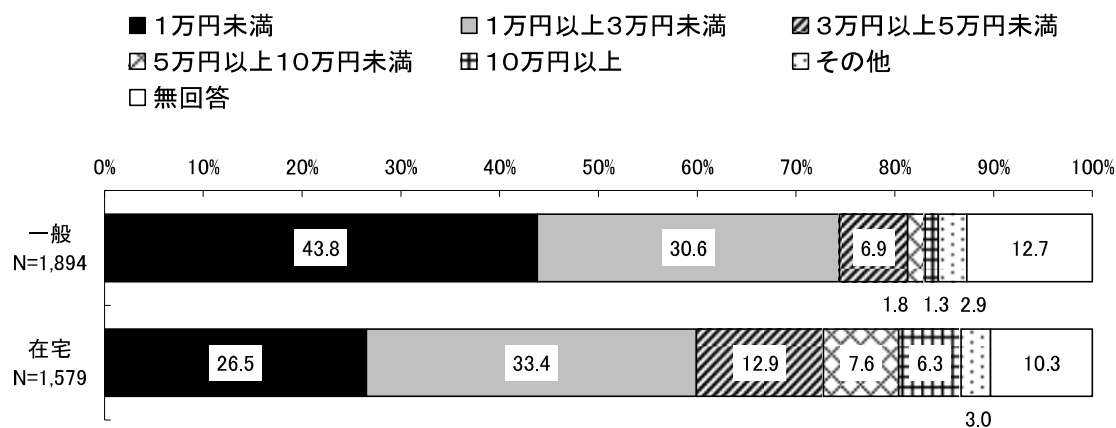


(2) 保健・医療・福祉関係サービスへの支出

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

保健・医療・福祉関係のサービスに対して支払っている金額（月額）について尋ねたところ、一般高齢者では「1万円未満」が43.8%で最も多く、次いで「1万円以上3万円未満」が30.6%となっている。

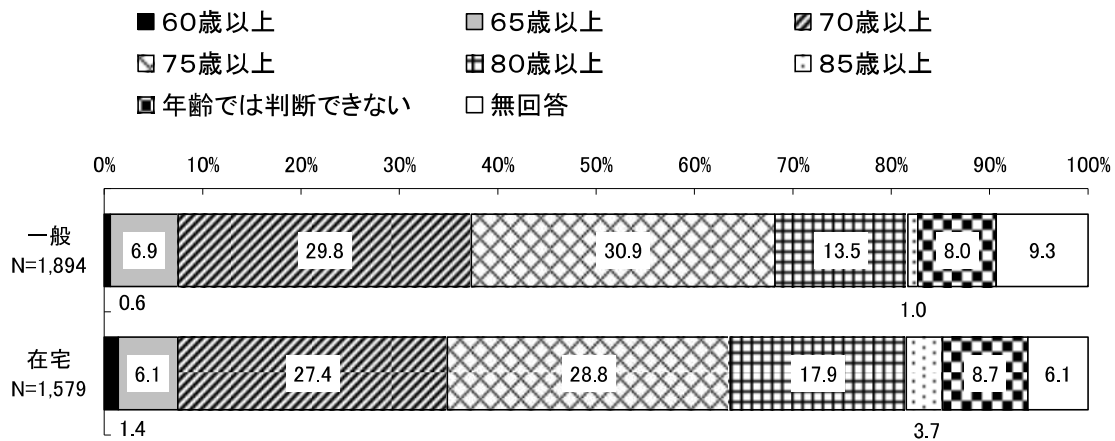
在宅高齢者では「1万円以上3万円未満」が33.4%で最も多く、次いで「1万円未満」が26.5%、「3万円以上5万円未満」が12.9%となっている。



16. 高齢者

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

何歳頃から「高齢者」だと思うか尋ねたところ、「75歳以上」が一般高齢者で30.9%、在宅高齢者で28.8%と最も多く、次いで「70歳以上」が一般高齢者で29.8%、在宅高齢者で27.4%、「80歳以上」が一般高齢者で13.5%、在宅高齢者で17.9%の順となっている。



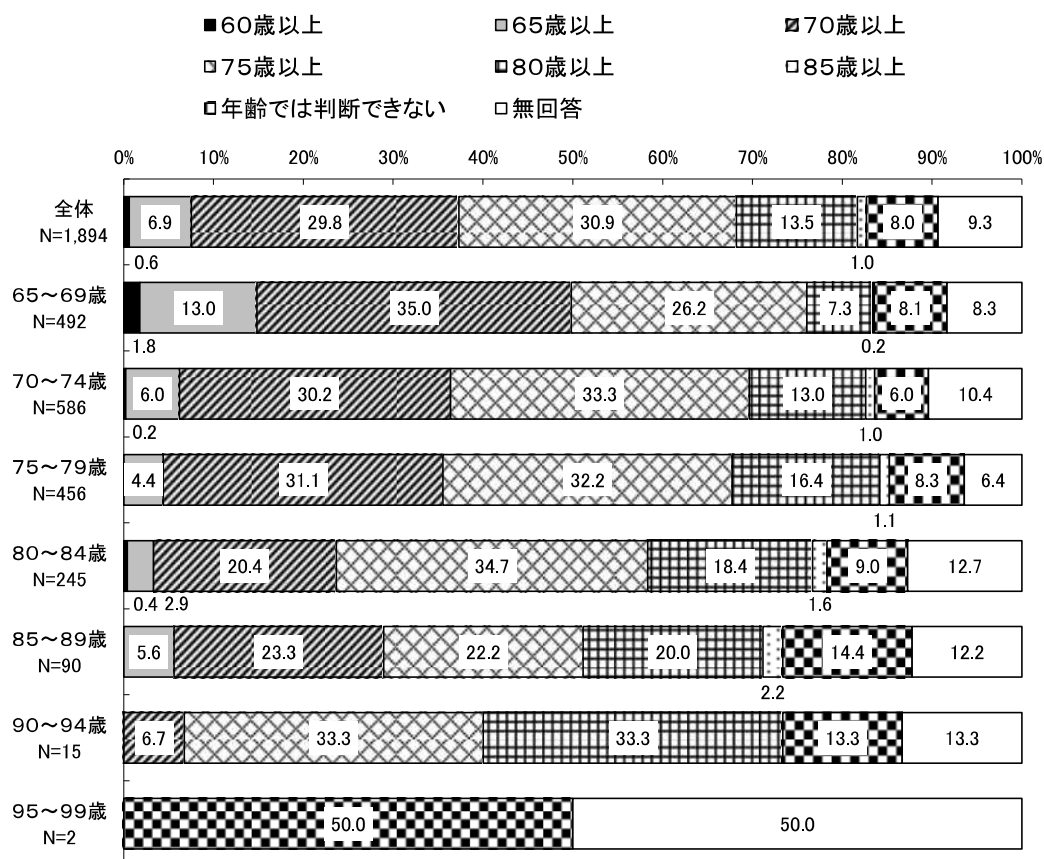
【属性別特徴】

年齢別にみると、回答者の年齢があがるにつれて「高齢者」という言葉からイメージする年齢は高くなる傾向がみられる。

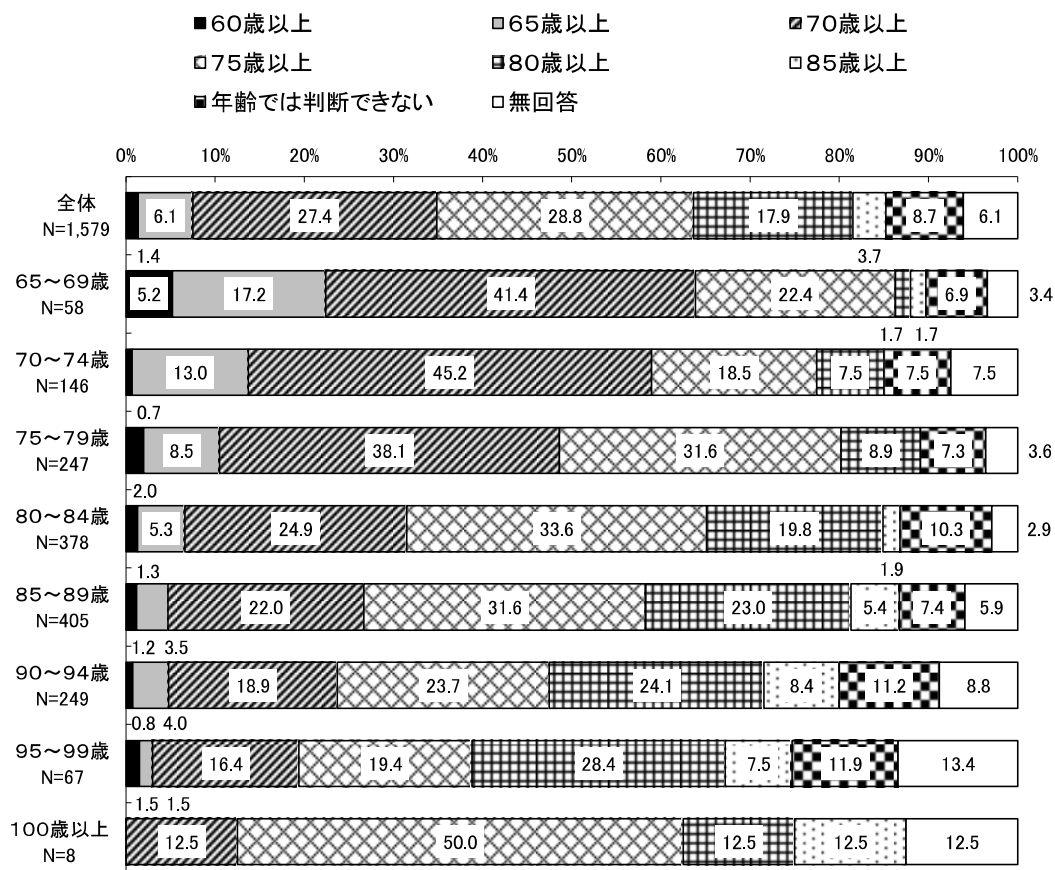
一般高齢者についてみると、65～69歳、85～89歳では、「70歳以上」の割合が最も多くなっているが、70～74歳、75～79歳、80～84歳では「75歳以上」が最も多くなっている。90～94歳では「75歳以上」と「80歳以上」が同率で最も多くなっている。

在宅高齢者については、79歳以下の年齢層では「70歳以上」の割合が最も多く、80～84歳、85～89歳では「75歳以上」、90～94歳、95～99歳では「80歳以上」が最も多くなっている。

一般高齢者（年齢別）



在宅高齢者（年齢別）



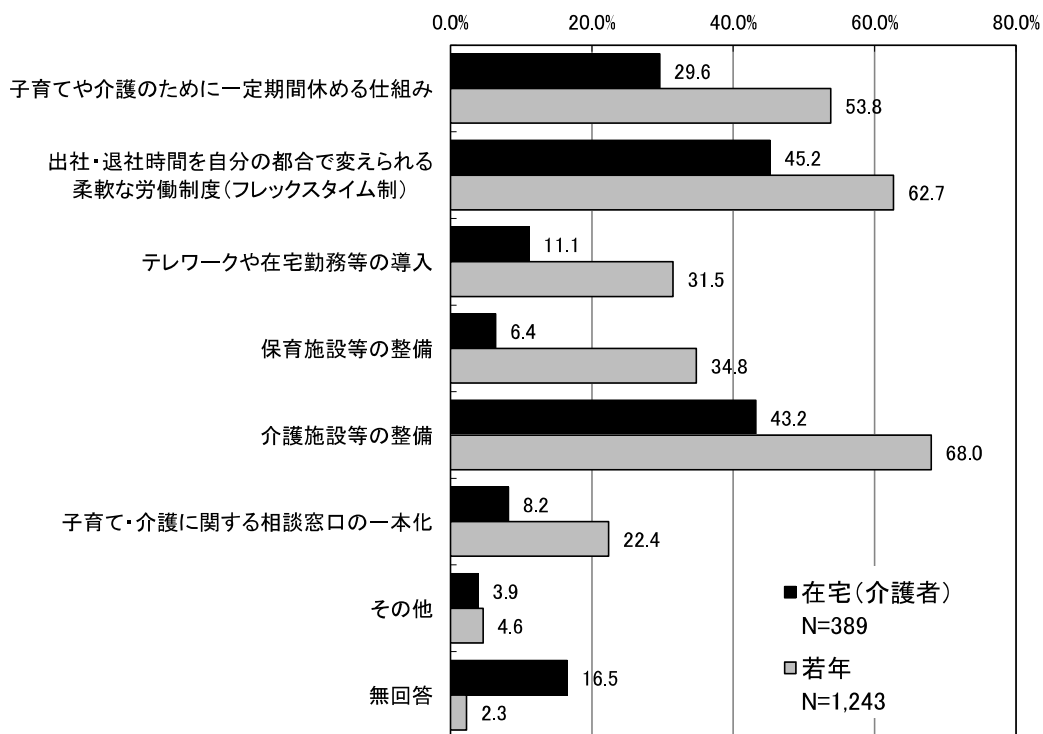
17. 高齢者福祉施策

(1) 介護者の負担軽減のために必要な支援

対象：『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

介護者の負担を軽くするために、どのような支援が必要と思うか尋ねたところ、在宅高齢者の介護者では「出社・退社時間を自分の都合で変えられる柔軟な労働制度（フレックスタイム制）」が45.2%で最も多く、次いで「介護施設等の整備」が43.2%となっている。

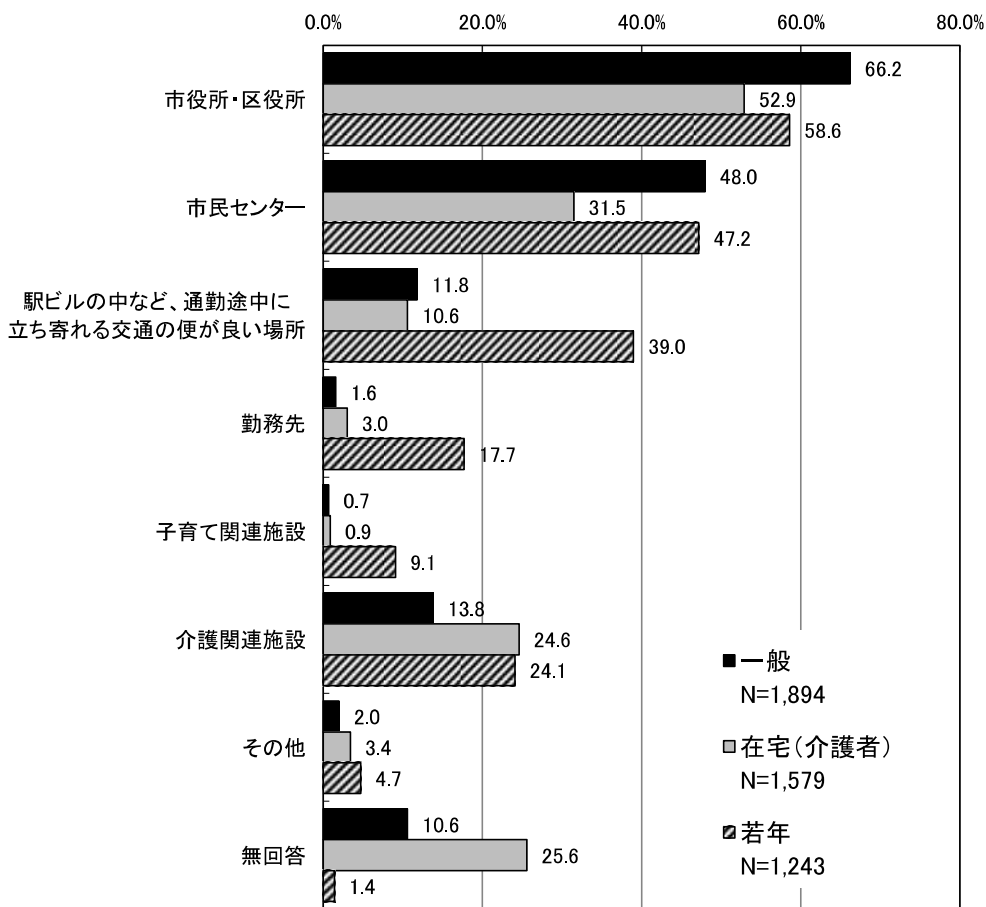
若年者では「介護施設等の整備」が68.0%で最も多く、次いで「出社・退社時間を自分の都合で変えられる柔軟な労働制度（フレックスタイム制）」が62.7%、「子育てや介護のために一定期間休める仕組み」が53.8%となっている。



(2) 相談窓口がどこにあれば気軽に立ち寄れるか

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

福祉に関する相談窓口がどこにあれば気軽に立ち寄れるか尋ねたところ、「市役所・区役所」が一般高齢者で66.2%、在宅高齢者（介護者）で52.9%、若年者で58.6%と最も多く、次いで「市民センター」が一般高齢者で48.0%、在宅高齢者（介護者）で31.5%、若年者で47.2%となっている。3番目は、一般高齢者、在宅高齢者（介護者）では「介護関連施設」が一般高齢者で13.8%、在宅高齢者（介護者）で24.6%となっている。若年者では「駅ビルの中など、通勤途中に立ち寄れる交通の便が良い場所」が39.0%となっている。





### (3) 北九州市が力を入れていくべき施策

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

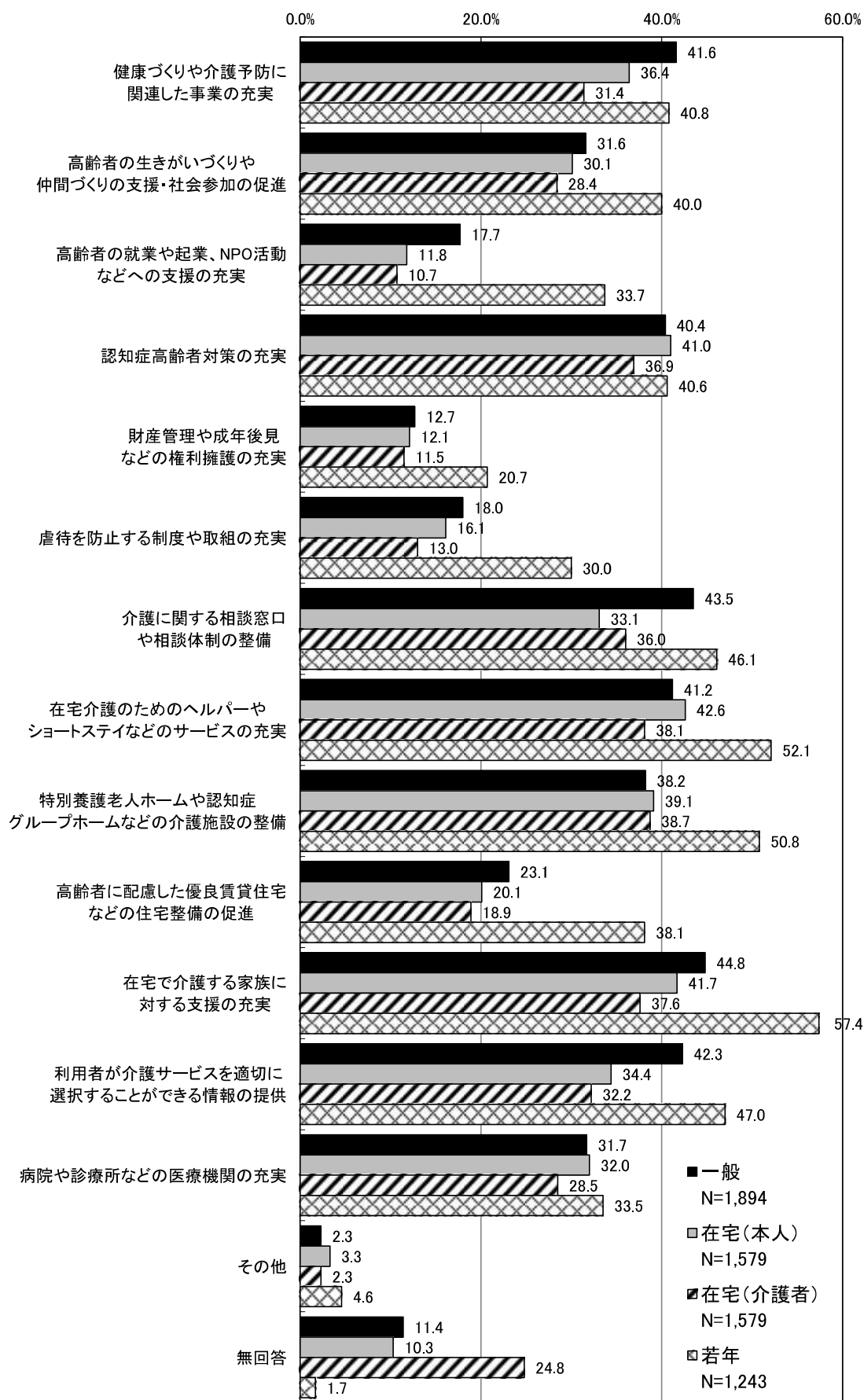
どのような施策に力を入れていくべきか尋ねたところ、一般高齢者では、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が44.8%で最も多く、次いで「介護に関する相談窓口や相談体制の整備」43.5%、「利用者が介護サービスを適切に選択することができる情報の提供」が42.3%の順となっている。

在宅高齢者本人では、「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」が42.6%で最も多く、次いで「在宅で介護する家族に対する支援の充実」41.7%、「認知症高齢者対策の充実」が41.0%の順となっている。

在宅高齢者（介護者）では、「特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの介護施設の整備」が38.7%で最も多く、次いで「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」38.1%、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が37.6%の順となっている。

若年者では、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が57.4%で最も多く、次いで「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」52.1%、「特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの介護施設の整備」が50.8%の順となっている。

### 第3章 共通設問の調査結果

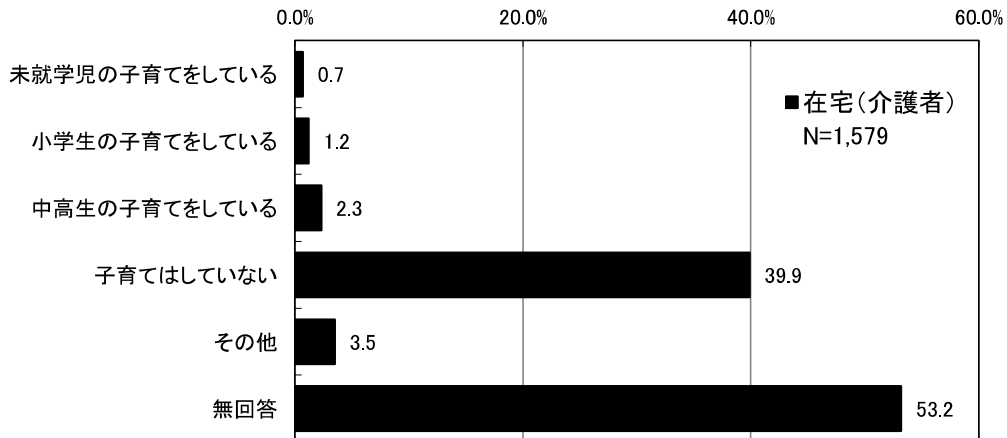


18. 子育てと介護（ダブルケア）

(1) 子育ての状況

対象：『在宅高齢者（介護者）』

介護者が現在、子育てをしているか尋ねたところ、「子育てしていない」が39.9%で最も多く、「中高生の子育てをしている」が2.3%、「小学生の子育てをしている」が1.2%、「未就学児の子育てをしている」が0.7%となっている。

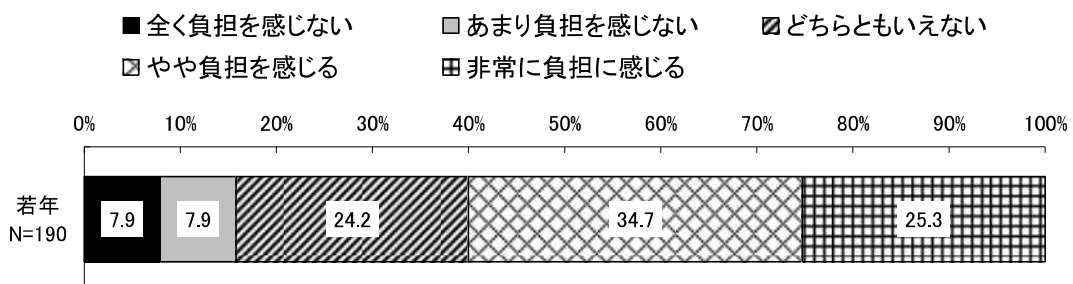
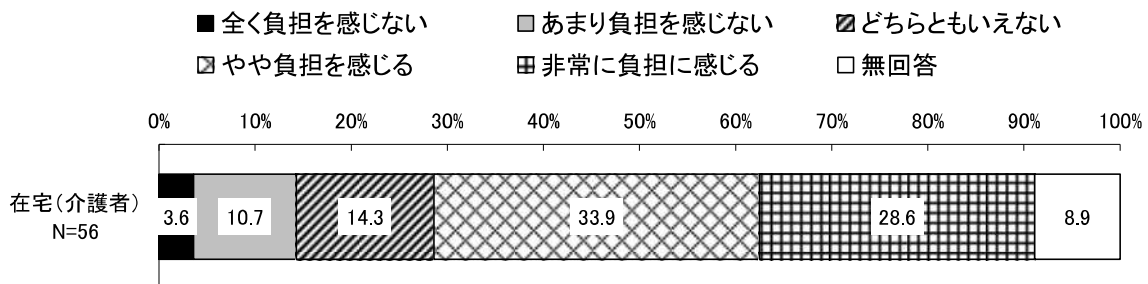


(2) 子育て介護（ダブルケア）に対する負担感

対象：『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

子育てと介護（ダブルケア）の負担感を尋ねたところ、在宅高齢者（介護者）は「やや負担を感じる」が33.9%で最も多く、次いで「非常に負担を感じる」が28.6%となっている。

若年者については、介護と子育ての両方を行っているか回答を求めたところ有効回答数1,243名のうち190名（15.3%）から回答を得た。これらの190名に子育てと介護（ダブルケア）の負担感を尋ねたところ、「やや負担を感じる」が34.7%で最も多く、次いで「非常に負担を感じる」が25.3%となっている。

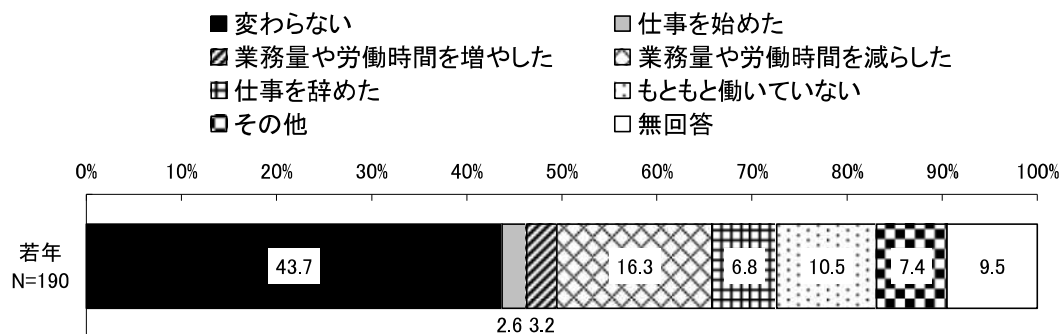
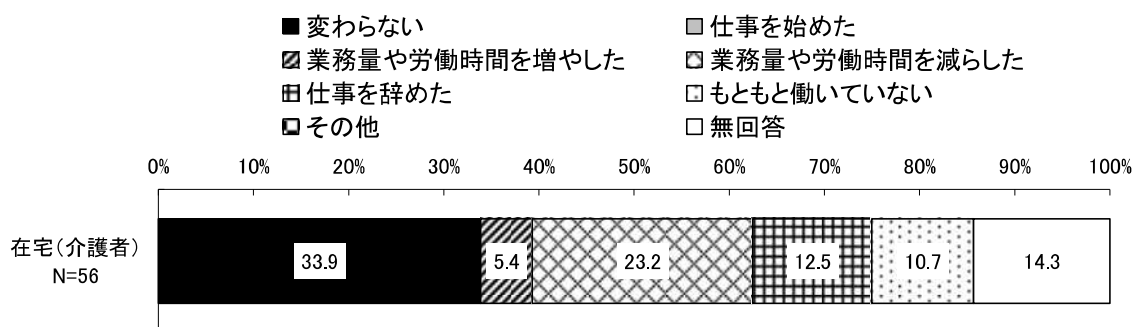


(3) ダブルケアによる就労状況の変化

対象：『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

ダブルケアが始まる前と後の就業状況の変化を尋ねたところ、在宅高齢者（介護者）では「変わらない」が33.9%で最も多く、次いで「業務量や労働時間を減らした」が23.2%、「仕事を辞めた」が12.5%となっている。

若年者では「変わらない」が43.7%で最も多く、次いで「業務量や労働時間を減らした」が16.3%、「もともと働いていない」が10.5%となっている。

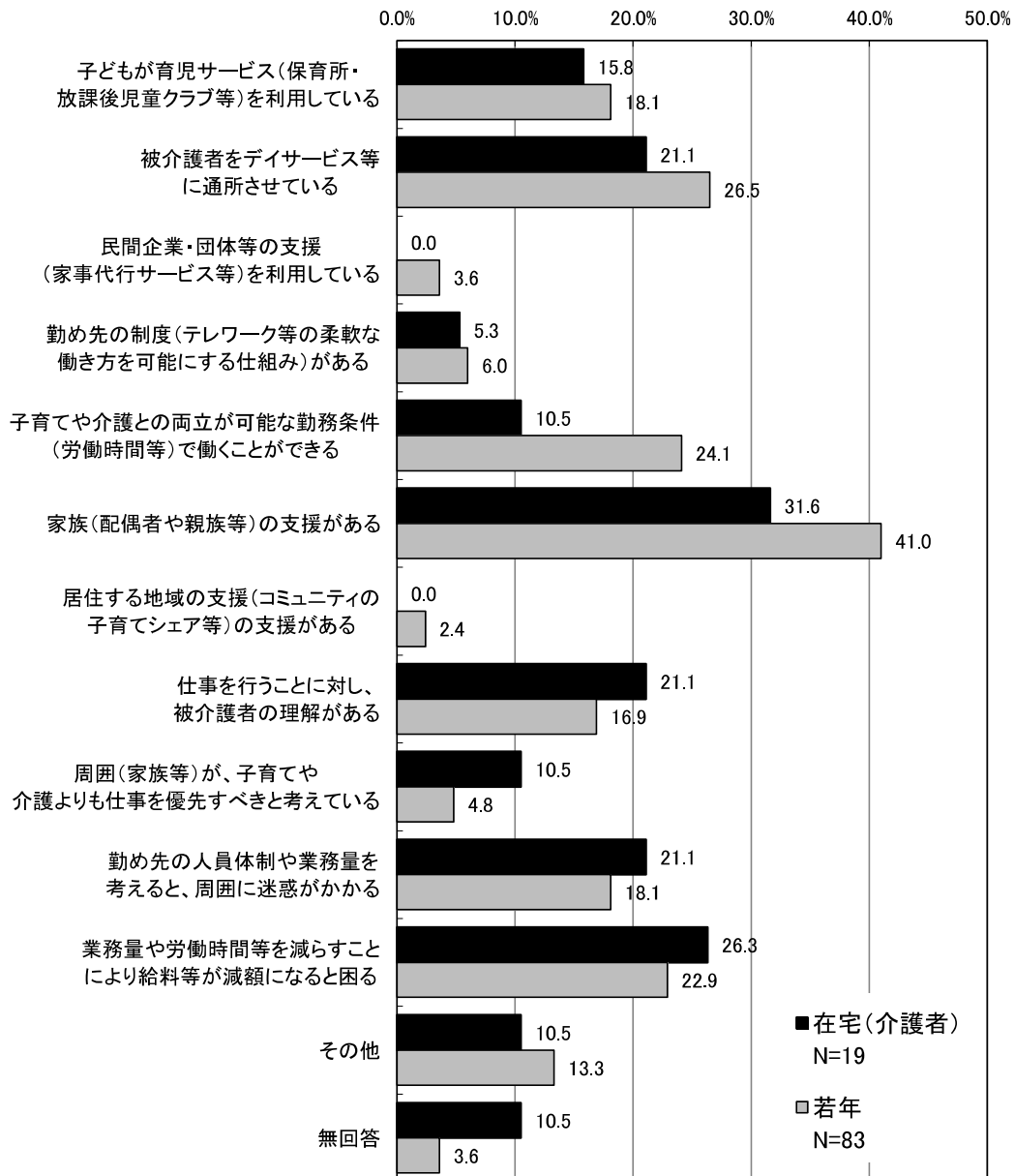


(3) - 1 就業状況が変わらない理由

対象：『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

就業状況が変わらないと答えた人にその理由を尋ねたところ、在宅高齢者（介護者）では「家族（配偶者や親族等）の支援がある」が31.6%で最も多く、次いで「業務量や労働時間等を減らすことにより給料等が減額になると困る」が26.3%で、「被介護者をデイサービス等に通所させている」、「仕事を行うことに対し、被介護者の理解がある」、「勤め先の人員体制や業務量を考えると、周囲に迷惑がかかる」がいずれも21.1%となっている。

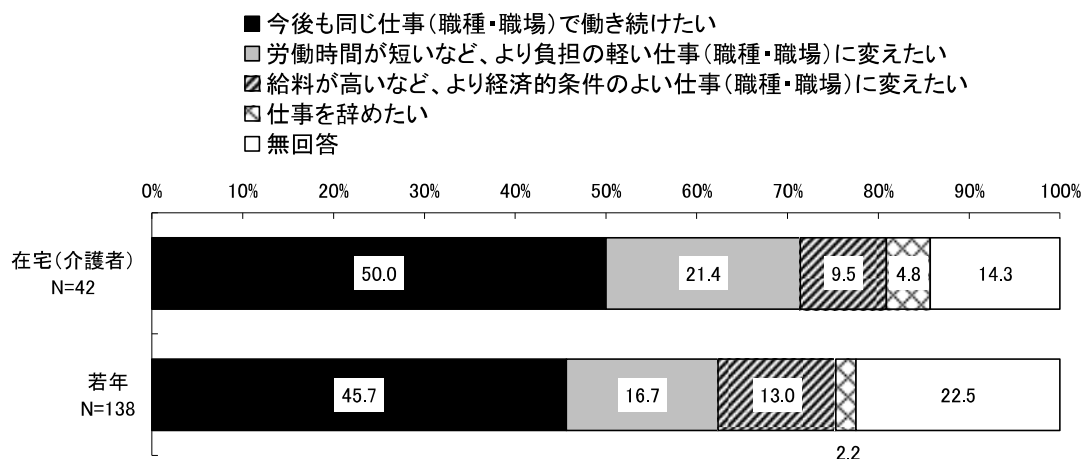
若年者では「家族（配偶者や親族等）の支援がある」が41.0%で最も多く、次いで「被介護者をデイサービス等に通所させている」が26.5%、「子育てや介護との両立が可能な勤務条件（労働時間等）で働くことができる」が24.1%、「業務量や労働時間等を減らすことにより給料等が減額になると困る」が22.9%となっている。



(3) - 2 今後の働き方

対象：『在宅高齢者（介護者）』、『若年者』

今後どのような働き方（働かない場合も含めて）を考えているか尋ねたところ、「今後同じ仕事（職種・職場）で働き続けたい」が在宅高齢者（介護者）で50.0%、若年者で45.7%と最も多く、次いで「労働時間が短いなど、より負担の軽い仕事（職種・職場）に変えたい」が在宅高齢者（介護者）で21.4%、若年者で16.7%、「給料が高いなど、より経済的条件のよい仕事（職種・職場）に変えたい」が在宅高齢者（介護者）で9.5%、若年者で13.0%となっている。



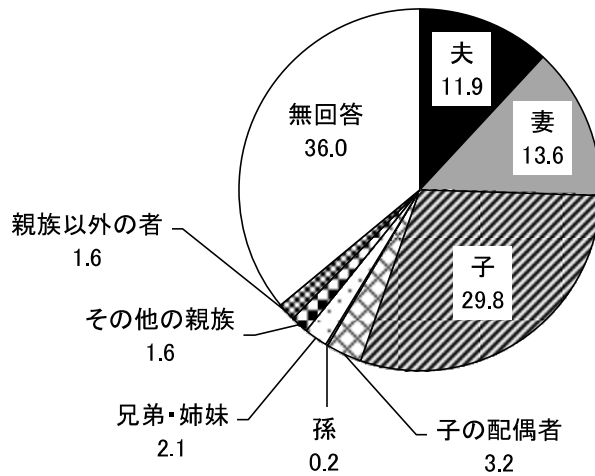
## 第4章 在宅高齢者の介護者

### 1. 主な介護者

#### (1) 要介護者との続柄

要介護者との続柄については、「子」が29.8%で最も多く、次いで「妻」が13.6%、「夫」が11.9%、「子の配偶者」が3.2%となっている。

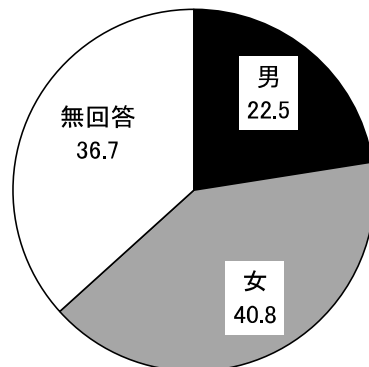
在宅(介護者)  
N=1,579



#### (2) 性別

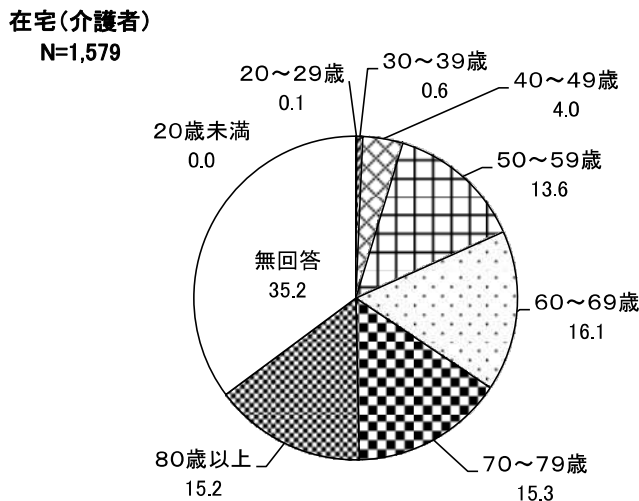
性別は、男性が22.5%、女性が40.8%となっており、女性の介護者が多い。

在宅(介護者)  
N=1,579



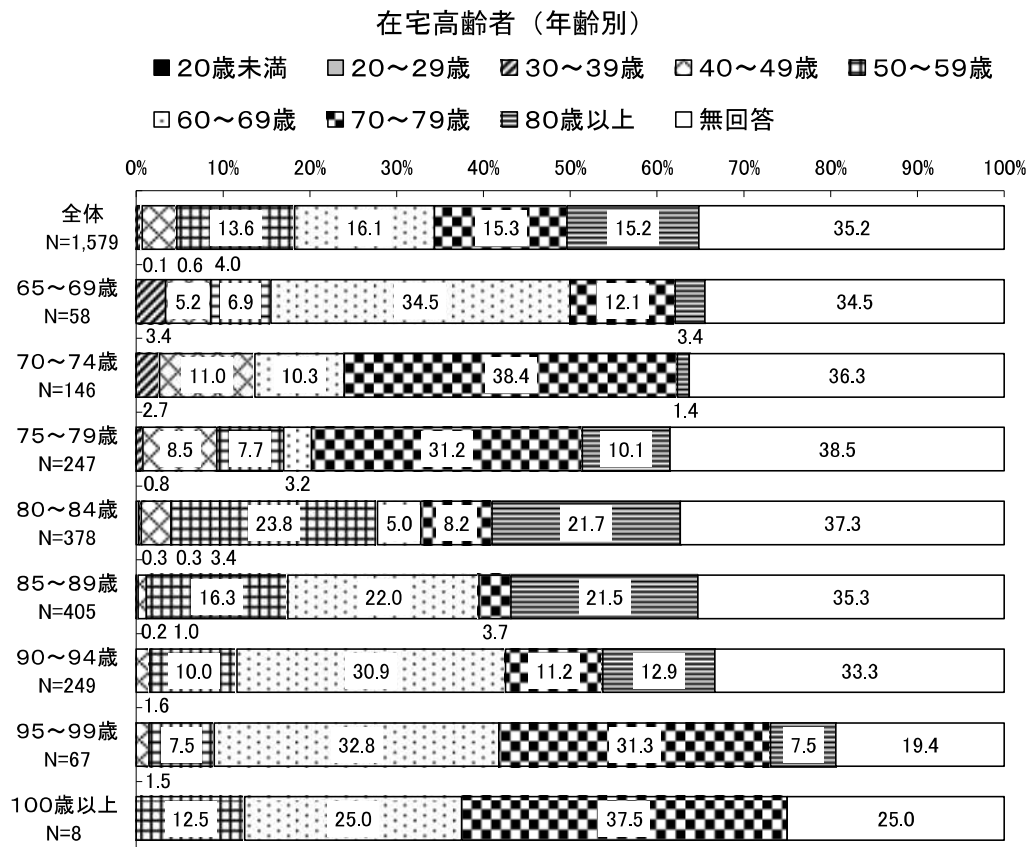
(3) 年齢

介護者の年齢で最も多いのは、「60～69歳」で16.1%である。次いで「70～79歳」が15.3%、「80歳以上」が15.2%、「50～59歳」が13.6%となっている。



【属性別特徴】

在宅高齢者について年齢別にみると、調査対象者の年齢が65～69歳では、主な介護者の年齢が「60～69歳」、調査対象者の年齢が70～74歳、75～79歳では主な介護者の年齢が「70～79歳」の割合が3割以上を占め、同世代が介護をしているケースが多い様子が見られる。調査対象者の年齢が80～84歳、85～89歳においては、主な介護者の年齢が子世代である「50～59歳」、「60～69歳」の割合がともに2割程度と高まっている。調査対象者の年齢が90～94歳、95～99歳では、主な介護者の年齢が「60～69歳」が3割程度を占めており、子世代による介護に移行している様子が見られる。

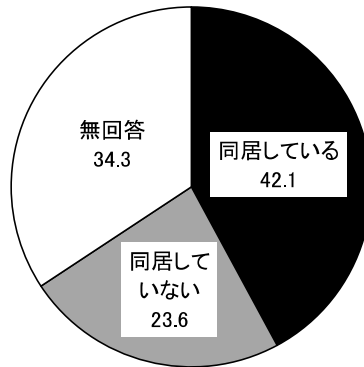




## (4) 要介護者との同居の状況

要介護者との同居の状況については、「同居している」が42.1%、「同居していない」が23.6%となっている。

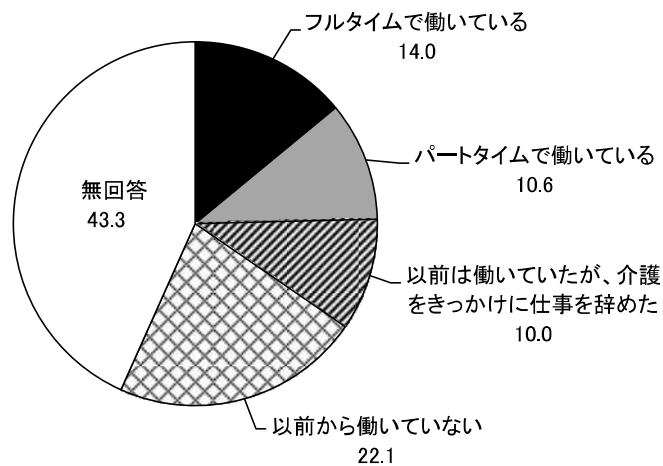
在宅(介護者)  
N=1,579



## (5) 勤務形態

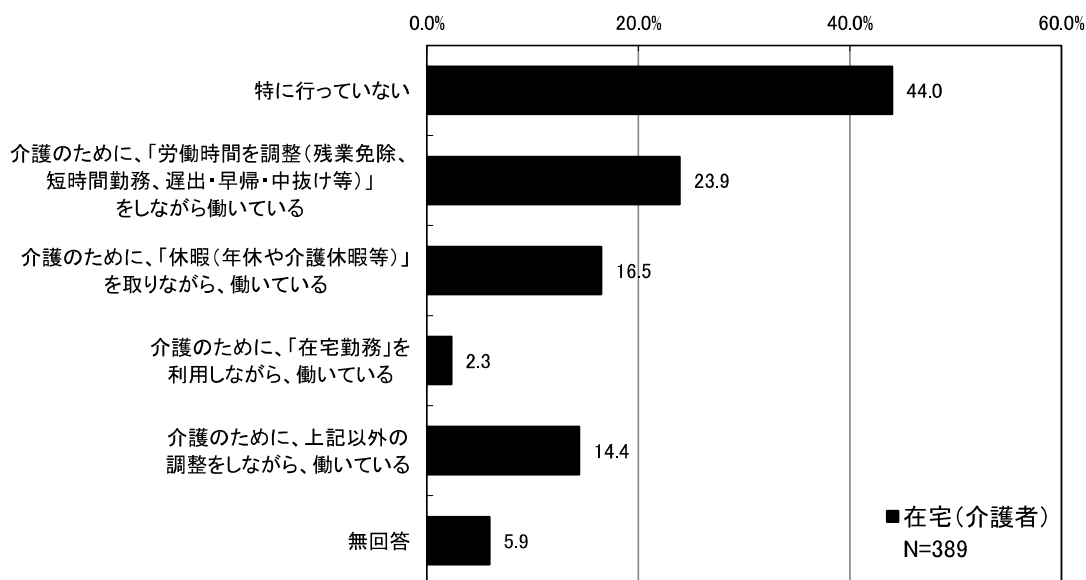
介護者の勤務形態については、「以前から働いていない」が22.1%で最も多く、次いで「フルタイムで働いている」14.0%、「パートタイムで働いている」が10.6%、「以前は働いていたが、介護をきっかけに仕事を辞めた」が10.0%となっている。

在宅(介護者)  
N=1,579



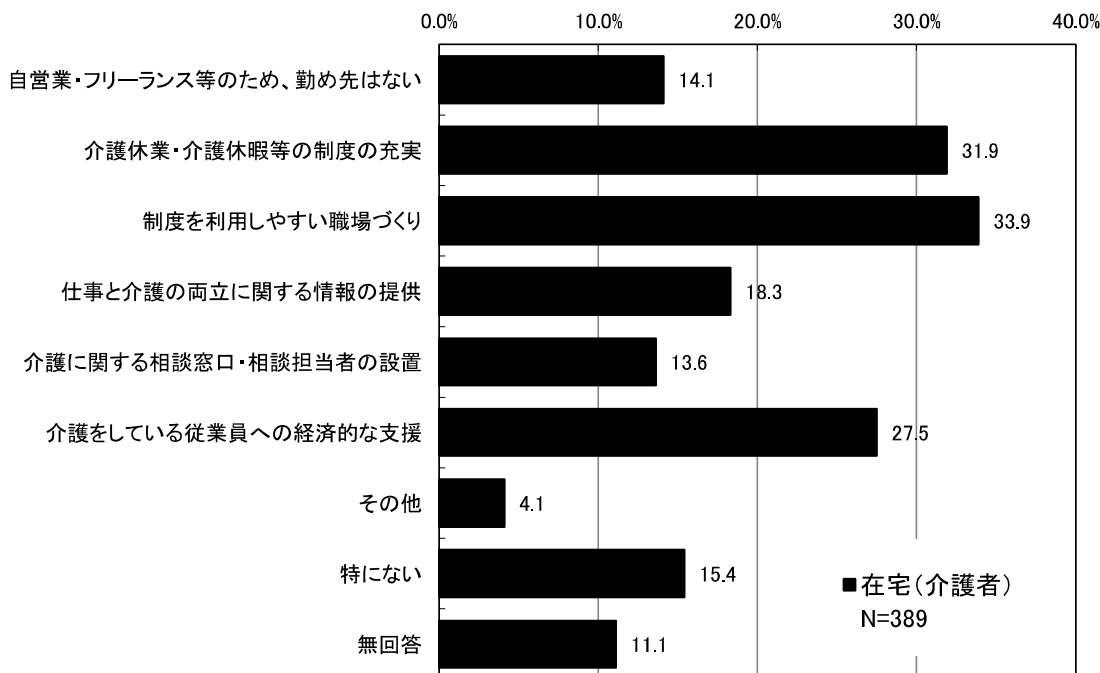
(5) - 1 働き方の調整等

働いている介護者に対し、働き方の調整等を行っているか尋ねたところ、「特に行っていない」が44.0%で最も多く、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』をしながら働いている」が23.9%、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」が16.5%、「介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている」が14.4%となっている。



(5) - 2 勤務先からの効果的な支援

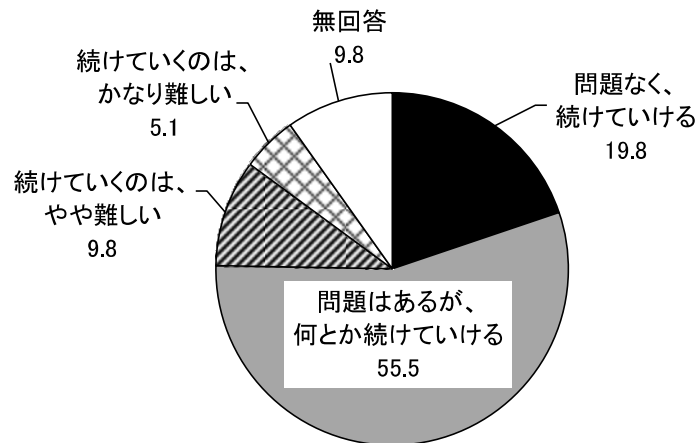
働いている介護者に対し、勤め先からどのような支援があれば仕事と介護の両立に効果があると思うか尋ねたところ、「制度を利用しやすい職場づくり」が33.9%で最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が31.9%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が27.5%となっている。



## (5) - 3 介護継続の可能性

働いている介護者に対し、今後も働きながら介護を続けていけそうか尋ねたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」が55.5%で最も多く、次いで「問題なく続けていける」が19.8%、「続けていくのは、やや難しい」が9.8%、「続けていくのは、かなり難しい」が5.1%となっている。

在宅(介護者)  
N=389

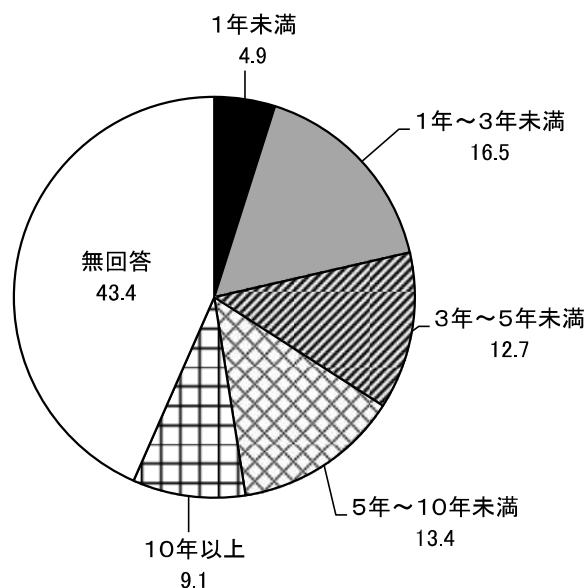


2. 介護の状況

(1) 介護期間

主な介護者がこれまで介護してきた期間を尋ねたところ、「1年～3年未満」が16.5%で最も多く、次いで「5年～10年未満」が13.4%、「3年～5年未満」が12.7%、「10年以上」が9.1%、「1年未満」が4.9%となっている。

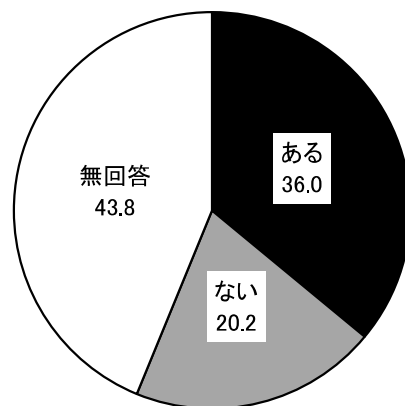
在宅(介護者)  
N=1,579



(2) 困っていることの有無

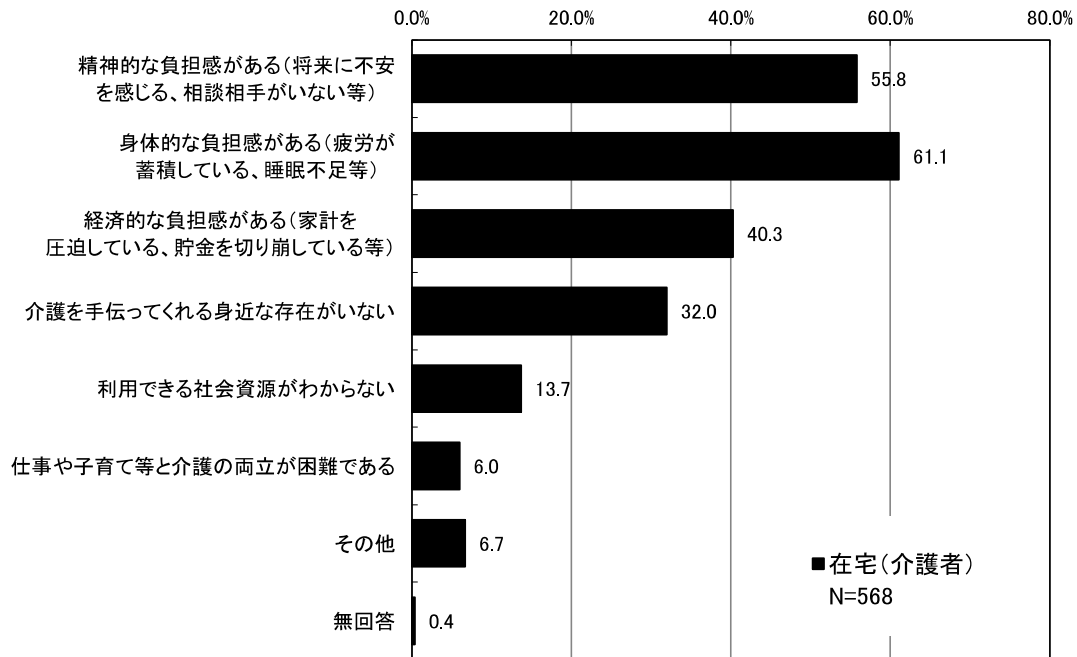
主な介護者が現在介護するうえで困っていることがあるか尋ねたところ。「ある」が36.0%、「ない」が20.2%となっている。

在宅(介護者)  
N=1,579



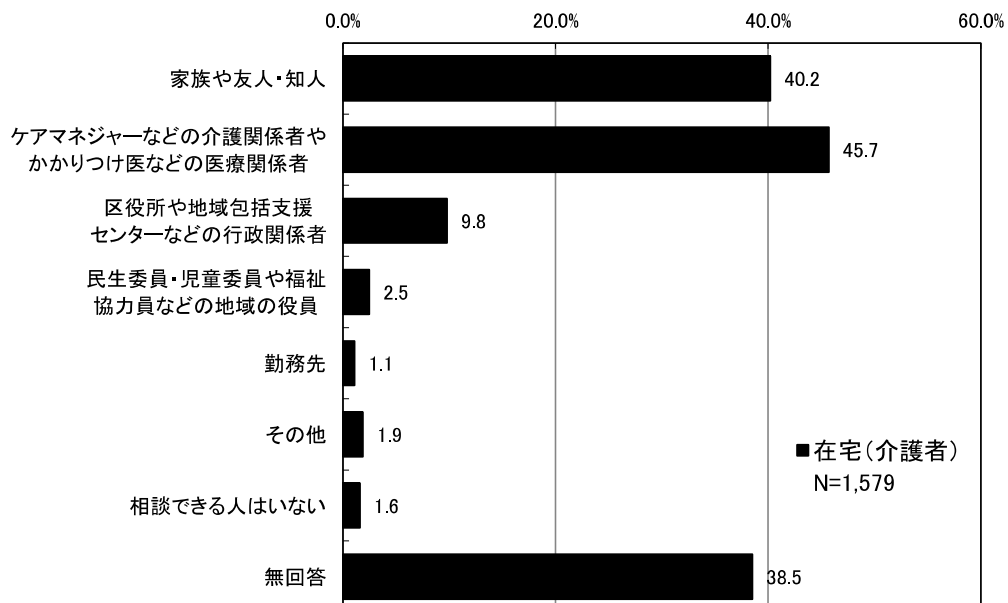
(2) - 1 介護するうえで困っている内容

困っていることは何か尋ねたところ、「身体的な負担感がある（疲労が蓄積している、睡眠不足等）」が61.1%で最も多く、「精神的な負担感がある（将来に不安を感じる、相談相手がいない等）」が55.8%、「経済的な負担感がある（家計を圧迫している、貯金を切り崩している等）」が40.3%、「介護を手伝ってくれる身近な存在がいない」が32.0%となっている。



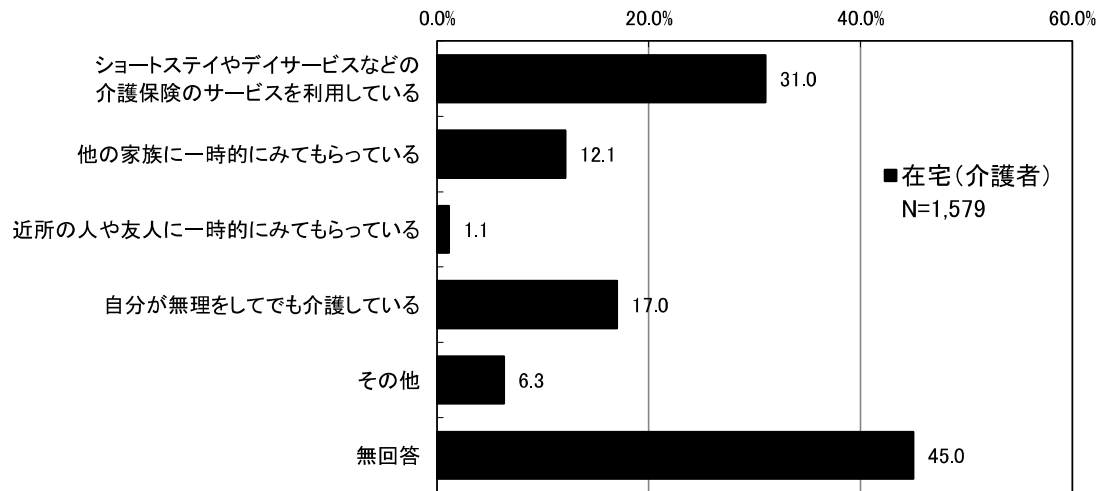
(3) 相談相手

介護のことで困ったときに相談する相手については、「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」が45.7%で最も多く、次いで「家族や友人・知人」が40.2%となっている。



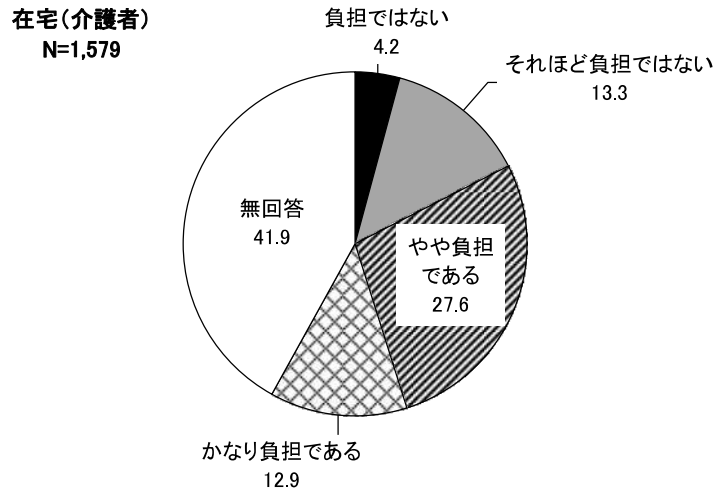
(3) 介護困難時の対処方法

介護をすることが困難な場合にどのような対処をしているか尋ねたところ、「ショートステイやデイサービスなどの介護保険のサービスを利用している」が31.0%で最も多く、次いで「自分が無理をしても介護している」が17.0%、「他の家族に一時的にみてもらっている」が12.1%となっている。



(4) 介護の負担感

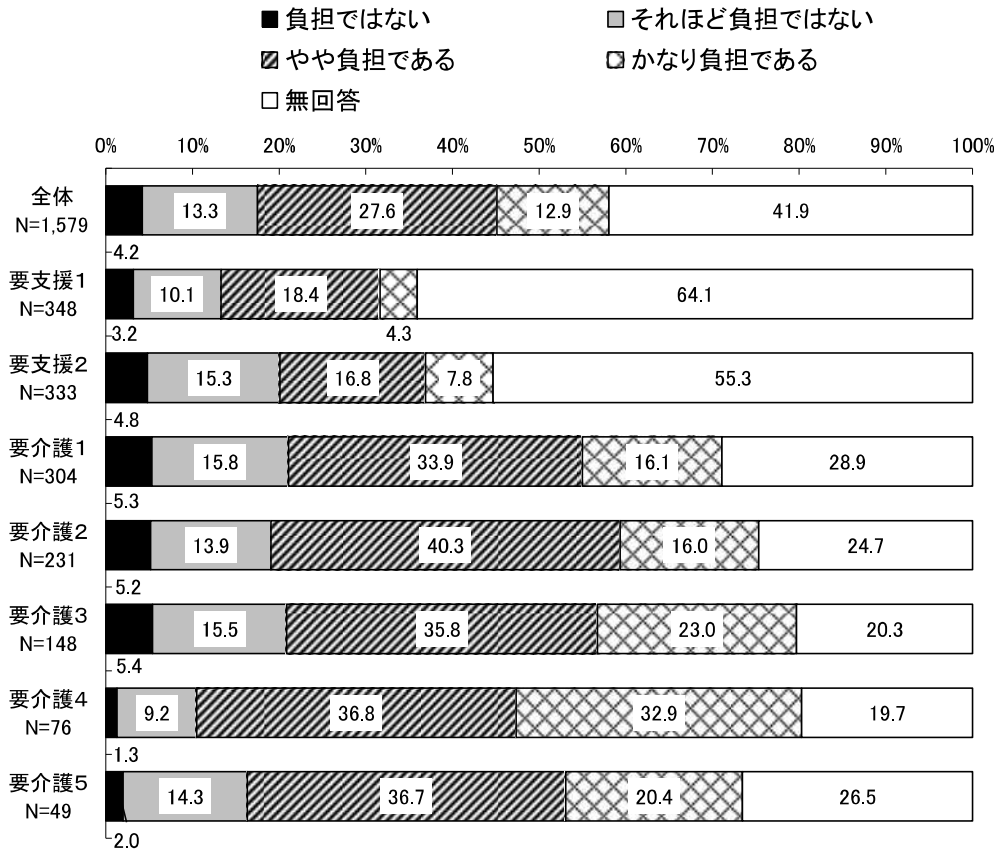
介護者が感じている介護の負担感については、「かなり負担である」が12.9%、「やや負担である」が27.6%となっており、介護に負担を感じている人は40.5%となっている。一方で、「それほど負担ではない」は13.3%、「負担ではない」は4.2%となっている。



【属性別特徴】

在宅高齢者について要介護度別にみると、おおむね要介護度が高いほど負担感が大きい傾向にあり、「かなり負担である」と「やや負担である」を合わせた割合は、要介護4で最も高い。また、要支援2と要介護1では、負担感にかなり大きな差がある様子がうかがえる。

在宅高齢者（年齢別）

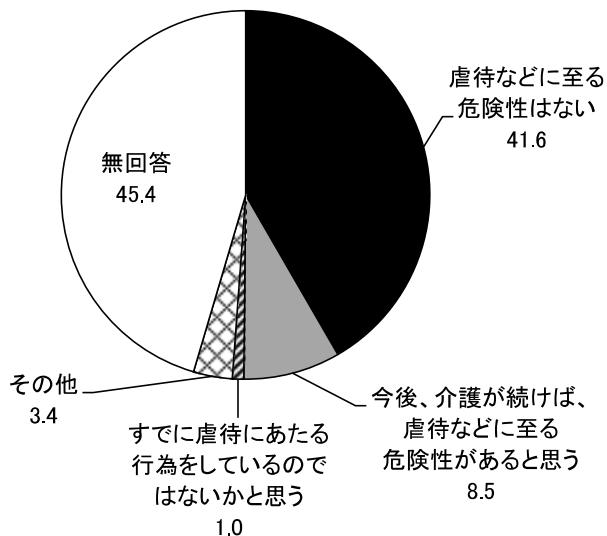


3. 高齢者の虐待

(1) 要介護者虐待の危険性

介護者に要介護者への虐待に至る危険性を感じたことがあるか尋ねたところ、「虐待に至る危険性はない」が41.6%で最も多く、次いで「今後、介護が続けば、虐待などに至る危険性があると思う」が8.5%、「すでに虐待にあたる行為をしているのではないかと思う」が1.0%となっている。

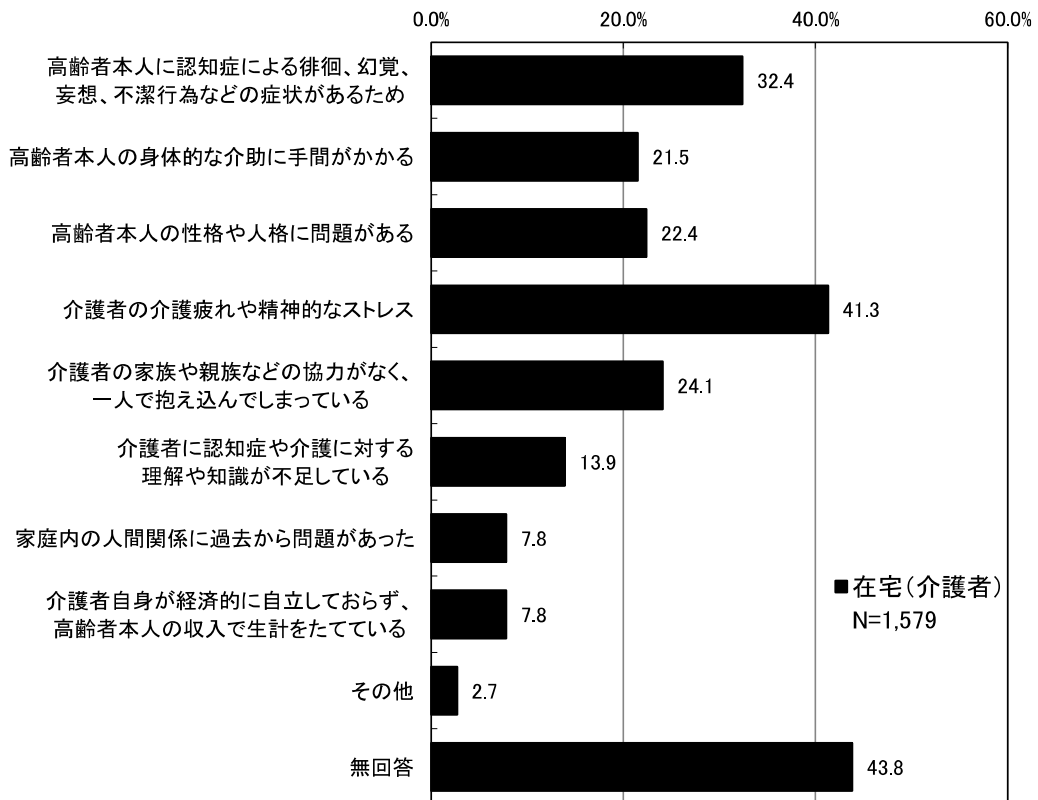
在宅(介護者)  
N=1,579





(2) 要介護者虐待につながる要因

高齢者への虐待はどのような要因で起こると思うか尋ねたところ、「介護者の介護疲れや精神的なストレス」が41.3%で最も多く、次いで「高齢者本人に認知症による徘徊、幻覚、妄想、不潔行為などの症状があるため」が32.4%、「介護者の家族や親族などの協力がなく、一人で抱え込んでしまっている」が24.1%、「高齢者本人の性格や人格に問題がある」が22.4%、「高齢者本人の身体的な介助に手間がかかる」が21.5%となっている。

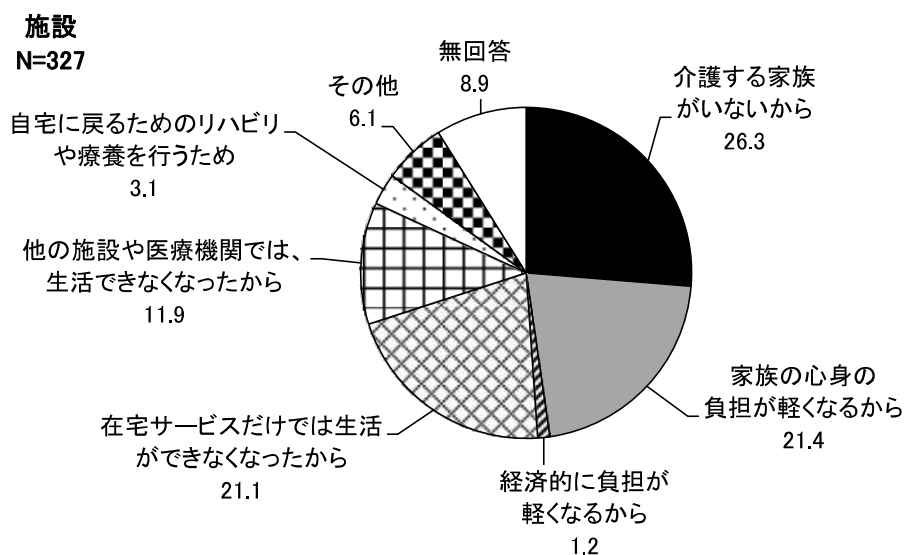


## 第5章 施設入居者の状況

### 1. 施設サービスの利用状況

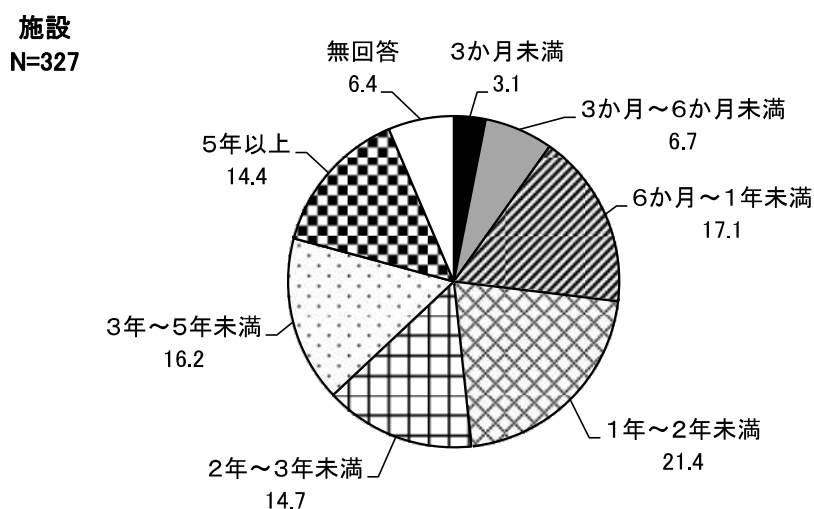
#### (1) 施設に入所した理由

施設に入所した理由については、「介護する家族がいないから」が26.3%で最も多く、次いで「家族の心身の負担が軽くなるから」が21.4%、「在宅サービスだけでは生活できなくなったから」が21.1%となっている。



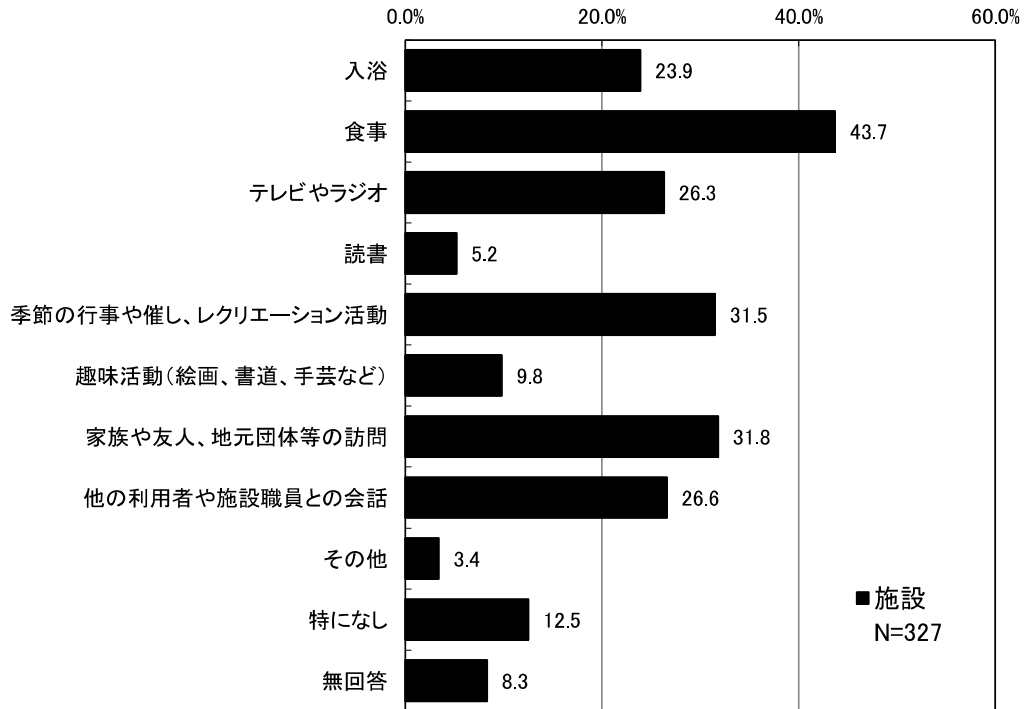
#### (2) 施設入所期間

入所期間についてみると、「1年～2年未満」が21.4%で最も多く、次いで「6か月～1年未満」が17.1%となっており、2年未満が約半数となっている。



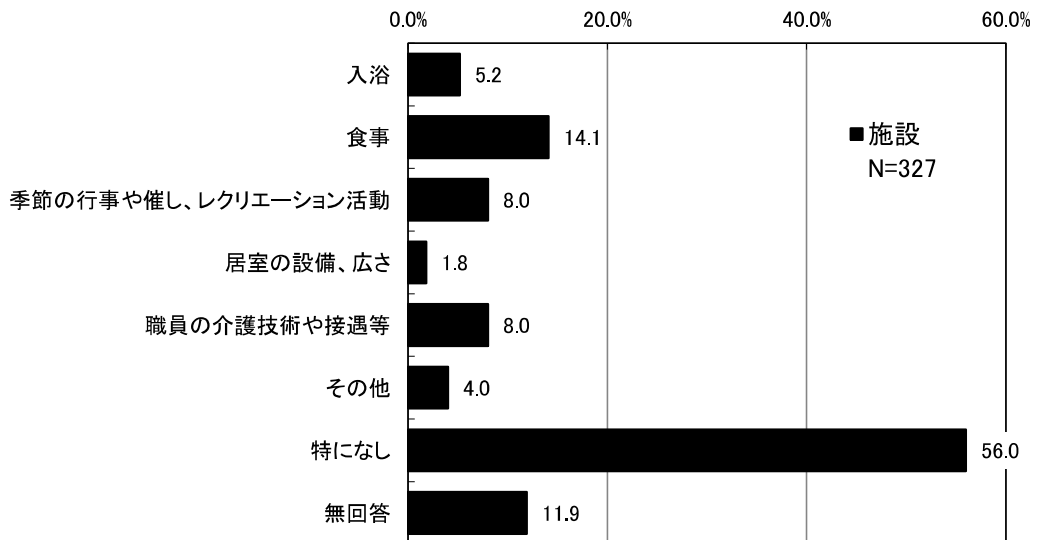
(3) 施設生活での楽しみ

施設生活の楽しみで最も多いのが、「食事」で43.7%となっている。次いで「家族や友人、地元団体等の訪問」が31.8%、「季節の行事や催し、レクリエーション活動」が31.5%、「他の利用者や施設職員との会話」が26.6%、「テレビやラジオ」が26.3%、「入浴」が23.9%となっている。



(4) 改善してほしい点

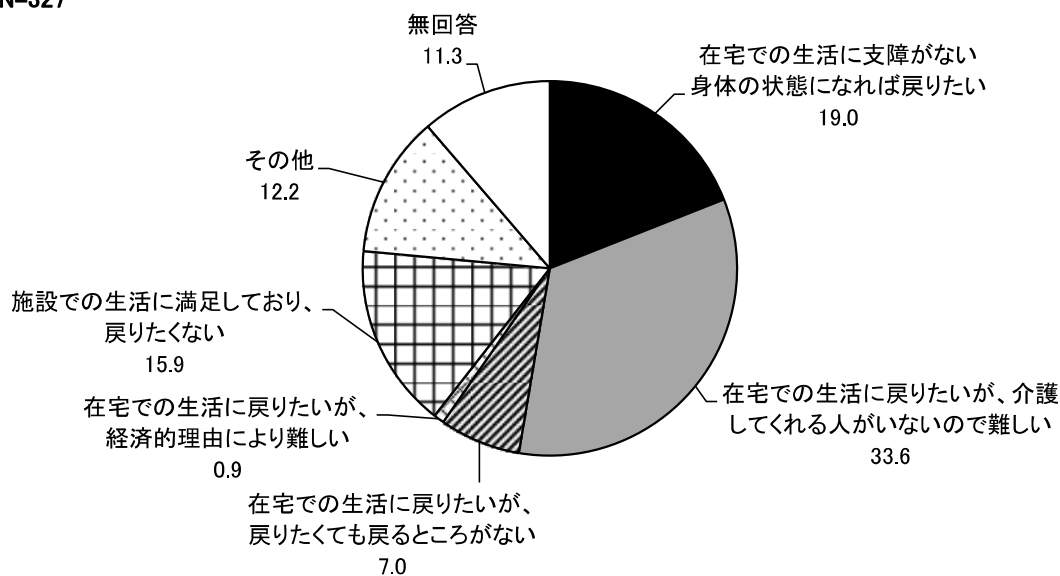
施設生活で改善してほしいと思うことは「特になし」が最も多く、56.0%となっている。改善点としては、「食事」が14.1%で最も多くなっている。



(5) 在宅生活に戻る意向

在宅での生活に戻ることについて尋ねたところ、「在宅での生活に戻りたいが、介護してくれる人がいないので難しい」が33.6%、「在宅での生活に支障がない身体の状態になれば戻りたい」が19.0%、「在宅での生活に戻りたいが、戻りたくても戻るところがない」が7.0%、「在宅での生活に戻りたいが、経済的理由により難しい」が0.9%となっており、在宅での生活に戻りたいと考えている入所者は60.5%となっている。一方で「施設での生活に満足しており、戻りたくない」は15.9%となっている。

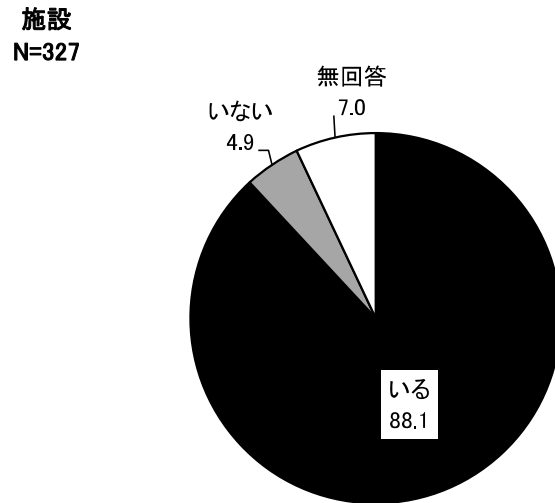
施設  
N=327



2. 家族の状況

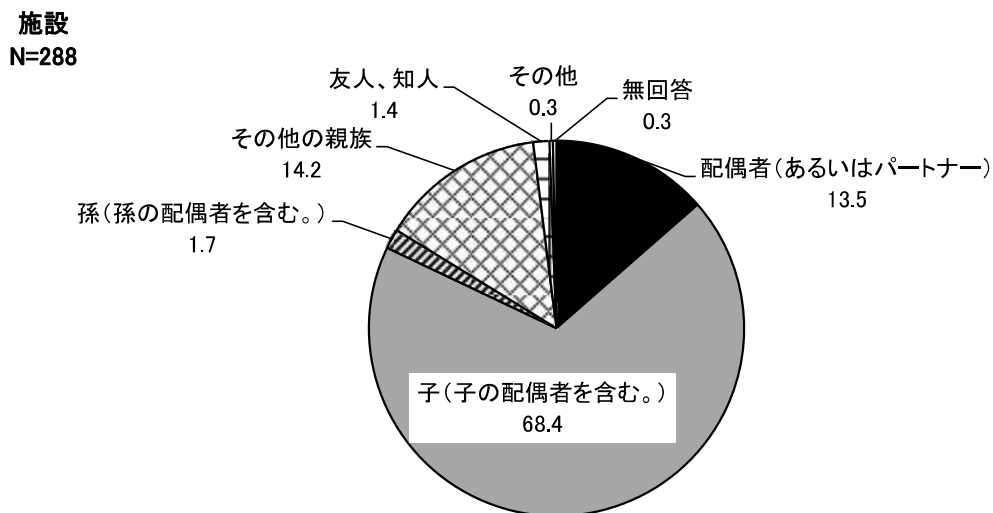
(1) 面会者の有無

家族や親族などで面会にくる人がいるか尋ねたところ、「いる」が88.1%、「いない」が4.9%となっている。



(1) - 1 最も頻繁に来る面会者

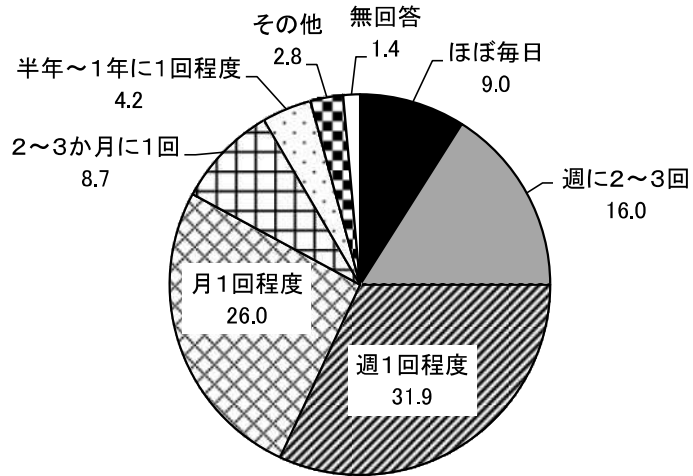
最も頻繁に面会にくる人については、「子（子の配偶者を含む）」が68.4%で最も多く、次いで「その他の親族」が14.2%、「配偶者（あるいはパートナー）」が13.5%となっている。



(1) - 2 面会の頻度

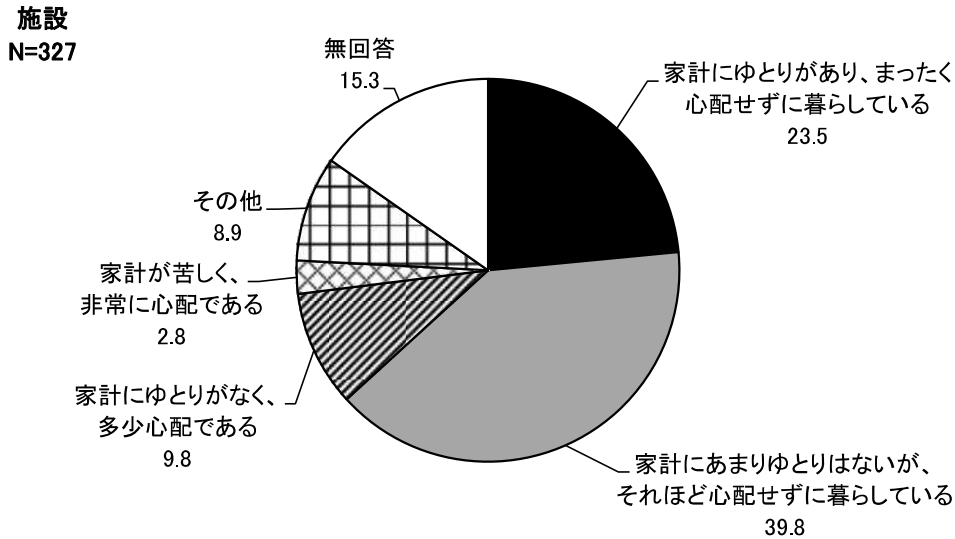
面会の間隔については、「週1回程度」が31.9%で最も多く、次いで「月1回程度」が26.0%、「週に2～3回」が16.0%となっている。

施設  
N=288



### 3. 暮らし向き

暮らし向きについては、「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配せずに暮らしている」が39.8%、「家計にゆとりがあり、まったく心配せずに暮らしている」が23.5%で、両者を合わせると過半数を占める。



### 4. 施設での生活全体の印象

施設での生活全体については、「どちらかといえば満足している」が36.4%で最も多く、次いで「満足している」が26.9%となっており、両者を合わせると63.3%となっている。

